Kawasaki

保存版

JET SKI watercraft ULTRA LX

ウォータクラフト JET SKI watercraft 取扱説明書

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

JET SKI watercraft は川崎重工業株式会社の登録商標です。

ウォータクラフトには定期的に点検・交換が必要な部品（エンジンオイル、バッテリ、ホース類等）があります。安心して快適にお乗りいただけるよう点検整備を必ず実施してください。

カワサキは人と地球にやさしい環境作りをめざしています。

早見表

一般事項

操縦方法

保管

整備と調整

トラブルシューティング

船舶検査

航行区域

環境保護

お客様の相談窓口

ご愛用の皆様に

カワサキのウォータクラフト“ジェットスキー”をご購入くださいましてありがとうございます。きょうからあなたのよきパートナーとして、十分に活躍させてください。

この取扱説明書は、あなたのウォータクラフト“ジェットスキー”を安全かつ魅力的にご使用いただく手助けをするために編集したものです。

最初にお乗りになる前にこの本を読んで十分にご理解いただき、正しい操縦方法を完全に習得してください。

そして、この本に従って注意深い操縦と正しい整備を行うと、ウォータクラフト“ジェットスキー”の魅力と性能を十分に引き出せます。

また、水上での安全確保のためのマナーを守ると同時に、各種の法規、条例等も十分理解し、守ってください。

ウォータクラフト“ジェットスキー”に乗るときは本書を携帯し安全なマリンライフをお楽しみください。

本書は大切に保管し、ウォータクラフト“ジェットスキー”を転売や譲渡等されるときは必ず添付してください。

別冊の整備手帳には保証書とともに定期点検整備表および点検整備記録簿が入っています。ウォータクラフト“ジェットスキー”の維持管理にご活用ください。

©2007 川崎重工業株式会社　2007. 10. (2). (S)

本書では正しい取り扱い方法および点検に関する事項を、次のシンボルマークで示しています

⚠ 警告

取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

注意

取扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

要点

○作業を正しく行うためのポイントを示しています。

なお本書の内容は、仕様変更などにより実際と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

川崎重工業株式会社

株式会社カワサキモータースジャパン

目次

主要諸元 …… 6
一般事項 …… 8
製造番号 …… 8
各部の名称 …… 9
ラベル位置 …… 11
マルチファンクションメータ …… 20
燃料 …… 35
エンジンオイル …… 37
エンジンオイルレベルの計測： …… 38
操縦装置 …… 39
イグニッションスイッチ …… 44
シートラッチ …… 47
備品入れ …… 48
小物入れ …… 50
工具 …… 51
ビルジシステム …… 51
ドレンプラグ …… 52
リボーディングステップ …… 52
操縦方法 …… 54
安全な操縦 …… 54
経験の浅い運転者による操縦 …… 54
乗船者の水泳能力 …… 54
最大搭載人員 …… 54
安全運転規則 …… 54
ジェットポンプに関する注意 …… 57
乗船者の安全装備 …… 58
ヘルメット着用の選択 …… 59
積載 …… 59
トーイング（ウエイクボード／水上スキー等の定員1名のけん引物） …… 61
操縦者の役割 …… 61
見張りの役割 …… 61
トーイング用ロープをかける場所 …… 62
乗る前の点検項目 …… 63
ならし運転 …… 65
エンジンの停止 …… 65
エンジンの始動 …… 67
発進 …… 69
桟橋からの発進 …… 69
ランプからの発進 …… 69
水深の深い場所での発進 …… 70
水深の浅い場所での発進 …… 70
停止 …… 71
旋回 …… 73
後進 …… 76
着岸 …… 76
ウォータクラフト“ジェットスキー”の乗り方 …… 77
落水 …… 77
転覆したウォータクラフトの起こし方 …… 78
浸水後の処置 …… 79
航走終了後の手入れ …… 83
第1：排気系統の水抜き …… 83
第2：エンジンルームの清掃 …… 83
第3：船体外部の清掃 …… 84
特殊な手入れ …… 85
インペラの清掃 …… 85
汚れたスパークプラグの清掃 …… 85
ウォータクラフトのえい航 …… 86
ジャンプコードによる始動 …… 86
エンジンのオーバーヒート …… 88
運搬 …… 88

保管 89
保管する前の作業 89
冷却系統 89
ビルジ系統 90
燃料系統とエンジン 91
エアフィルタ 93
バッテリ 94
エンジン取り付けブラケット用ボルト 94
洗浄 94
潤滑 95
保管後再使用する前の作業 95
整備と調整 97
定期点検整備表 97
コントロールケーブル 99
スロットルケーブルの調整 99
ステアリングケーブルの調整 99
ステアリングケーブルの点検 101
シフトケーブルの調整 102
シフトケーブルの点検 104
燃料系統 105
スロットルの調整 105
燃料ベントチェックバルブ 105
燃料ポンプスクリーン 105
燃料ホース 105
エンジンオイル系統 106
バルブクリアランス 110
スパークプラグ 111
バッテリ 112
潤滑 122
冷却系統の洗浄 125
ビルジ系統の洗浄 126
ヒューズ 128
トラブルシューティング 130
船舶検査 134
船舶検査 134
船舶検査証書など合格証書類 134
航行区域 135
航行区域 135
海岸あるいは陸岸で使用する場合 135
母船に乗せて使用する場合 136
環境保護 137
環境保護 137
お客様の相談窓口 138

主要諸元

ウォータクラフト“ジェットスキー” JT1500C

エンジン		
型式		4ストローク、4気筒、水冷
排気量		1 498 cm^3
内径×行程		83 × 69.2 mm
圧縮比		10.6 : 1
点火方式		デジタルトランジスタ
潤滑方式		セミ;ドライサンプ
燃料方式		デジタル・フューエル・インジェクション
始動方式		スタータモータ
スパークプラグ		NGK CR9EK
ギャップ		0.7 ~ 0.8 mm
端子形状		一体型端子
点火時期		上死点前3°@1 300 rpm ~ 32°@3 000 rpm
アイドリング回転速度		1 300 ±100 rpm ····· 水上
		1 300 ±100 rpm ····· 陸上
動力伝達機構		
カップリング		エンジン直結シャフトドライブ
ジェットポンプ	:型式	軸流、単段
	:推力	4 130 N (421 kg)
ステアリング		ステアリングノズル
ブレーキ		水の抵抗力

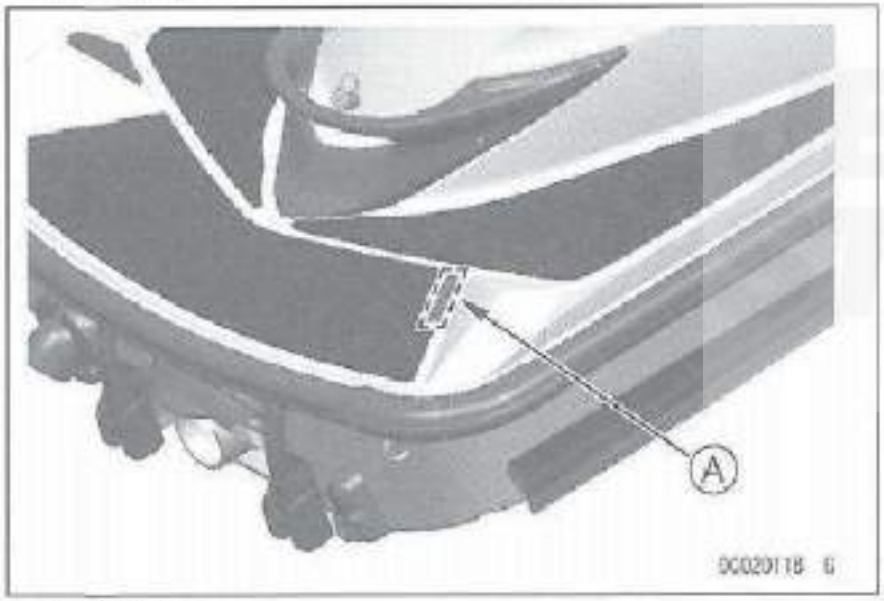
※性能	
連続最高出力	112 kW (152 ps)/7 500 rpm
連続最大トルク	144 N·m (14.7 kgf·m)/7 250 rpm
最小旋回半径	4.0 m
燃料消費量	43 L/h(フルスロットル運転時)
航続距離	146 km(3名乗船・フルスロットル運転時)
航続時間	1時間43分
寸法・重量	
全長	3 370 mm
全幅	1 195 mm
全高	1 150 mm
乾燥重量	3 727 N (380 kg)
最大喫水	368 mm
燃料タンク容量	78 L
エンジンオイル	
タイプ	API SFまたはSG API SH、SJまたはSL with JASO MA SAE10W-40
オイルタンク容量	5.0 L
電装品	
バッテリ	12 V 18 Ah

※これらの数字は、一定の条件の下で測定されたものであり、条件が変われば数字も変わってきます。

一般事項

製造番号

- 船体およびエンジン番号は、あなたのウォータクラフトを表す番号です。この番号は登録に必要であり、また部品注文時に必要なこともあります。また、盗難にあった場合、是非とも必要なものです。下のそれぞれの空欄に記録してください。



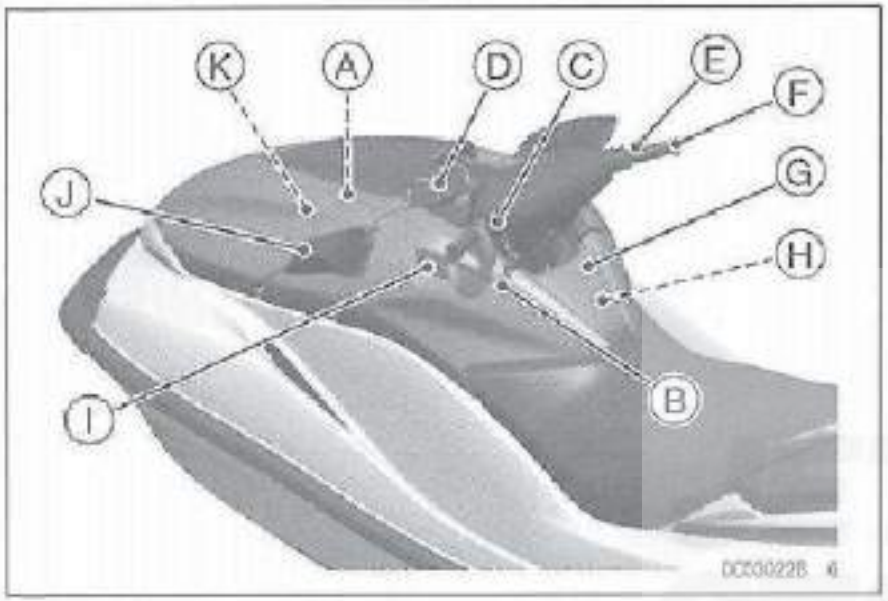
A. 船体番号

船体番号	

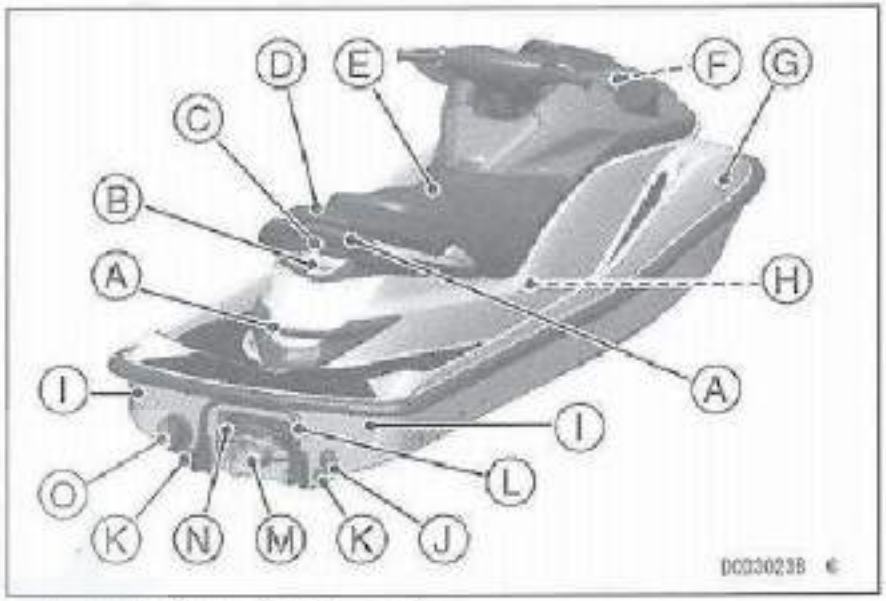
A. エンジン番号

エンジン番号	

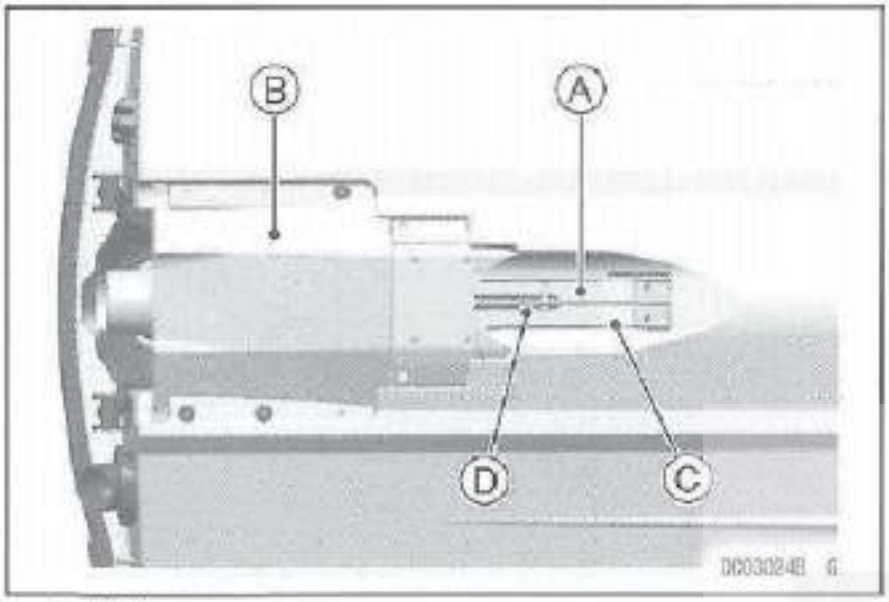
各部の名称



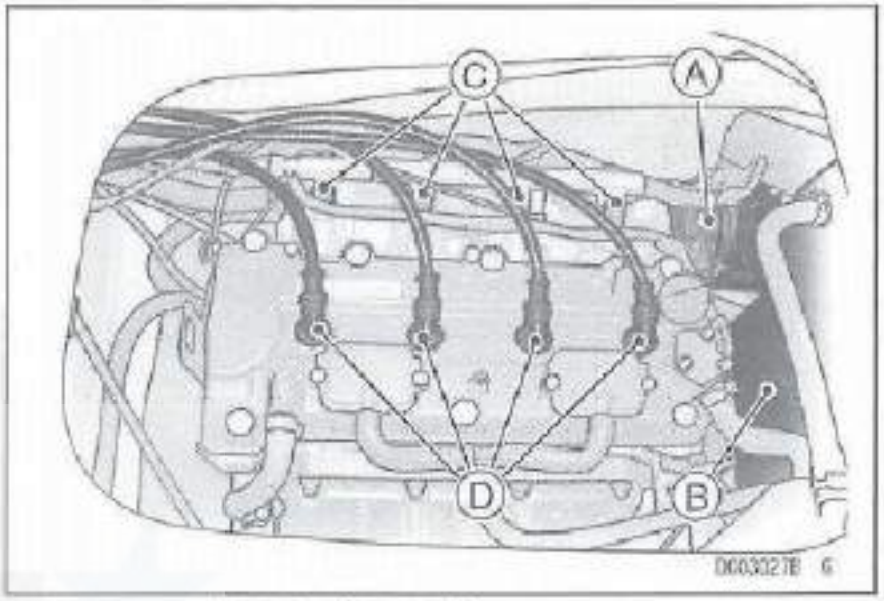
A. 備品入れ
B. キルスイッチコード
C. スターター、ストップボタン
D. マルチファンクションメータ
E. スロットルバー
F. ハンドルバー
G. 小物入れ（前部）
H. イグニッションスイッチ
I. シフトレバー
J. バックミラー
K. バッテリ



A. ハンドル（グリップ）
B. スキーヤー等けん引フック
C. シートラッチ
D. 後部シート
E. 前部シート
F. 冷却水接続口（ハッチ内部）
G. バイパス出口
H. エンジン室
I. えい航用フック
J. スピードメータ用水車
K. ドレンプラグ
L. リボーディングステップ
M. ステアリングノズル（ジェットノズル）
N. リバースバケット
O. 排気口



A. 吸水口
B. ジェットポンプカバー
C. 格子
D. ドライブシャフト



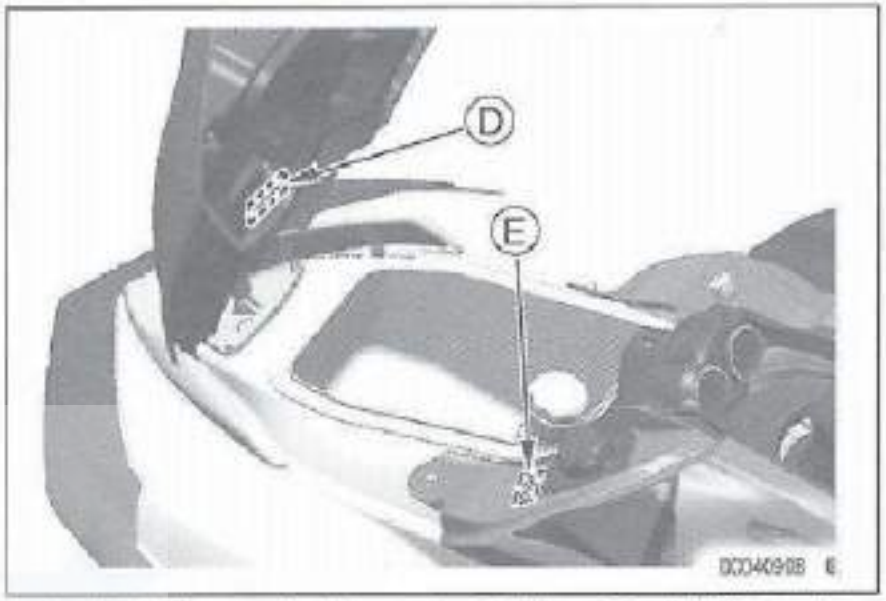
A. スロットルアッセンブリ
B. エアフィルタ
C. インジェクションノズル
D. スパークプラグ

ラベル位置

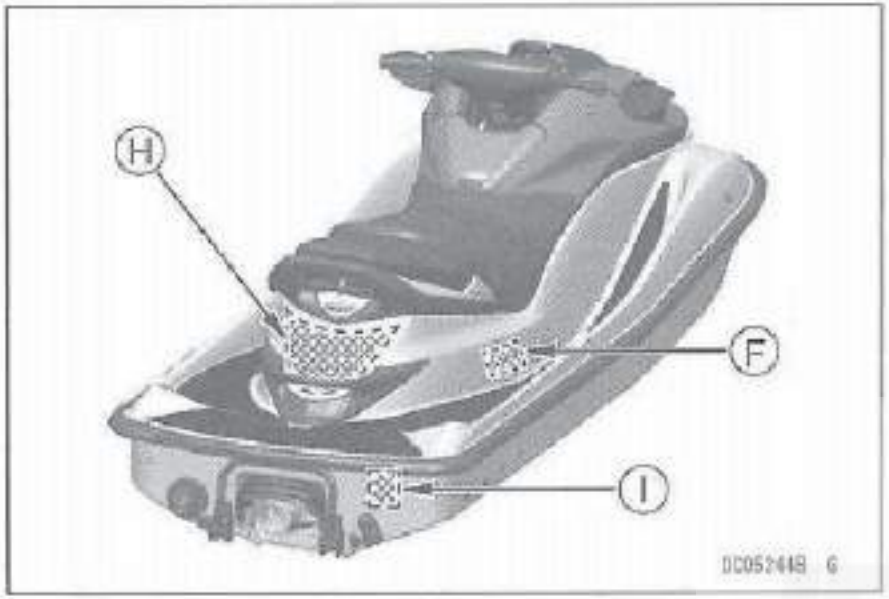
船体・エンジン各部には安全に関する各種ラベルが取り付けられています。これらラベルは常に良好な状態にしておき、もし破損した場合はKMJから新しいのを入手して、指定の位置に取りつけてください。

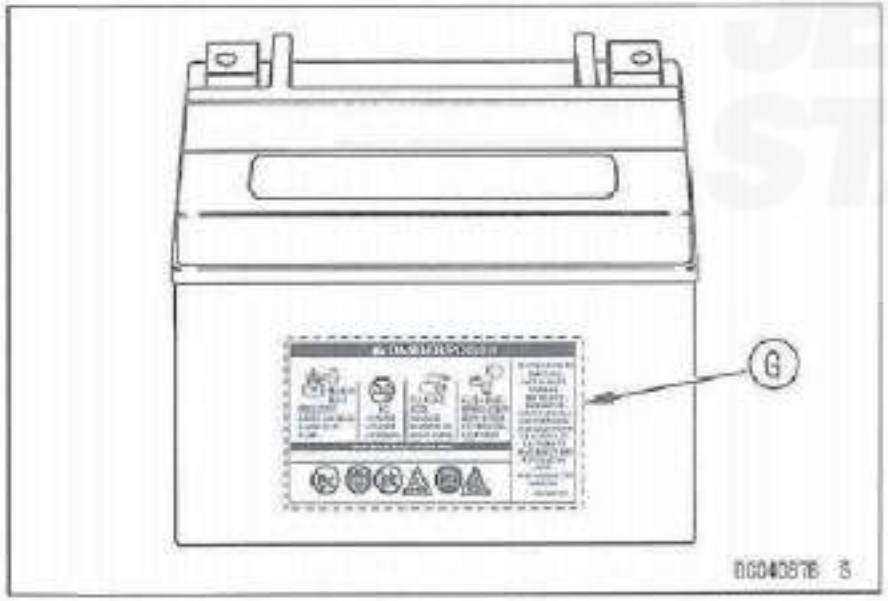
要点

○ 各ラベルにはパーツ番号が付いています。注文される時はその番号をご指示ください。



A. ガソリン・オイル・バッテリ・ならし運転・オーバーヒートとイグニションスイッチの注意およびエンジンルームとリボーディングステップの警告
B. ハンドレールとえい航用フックの注意およびリボーディングステップと積載の警告
C. 証明ラベル
D. ダンパの警告
E. 燃料注入の警告

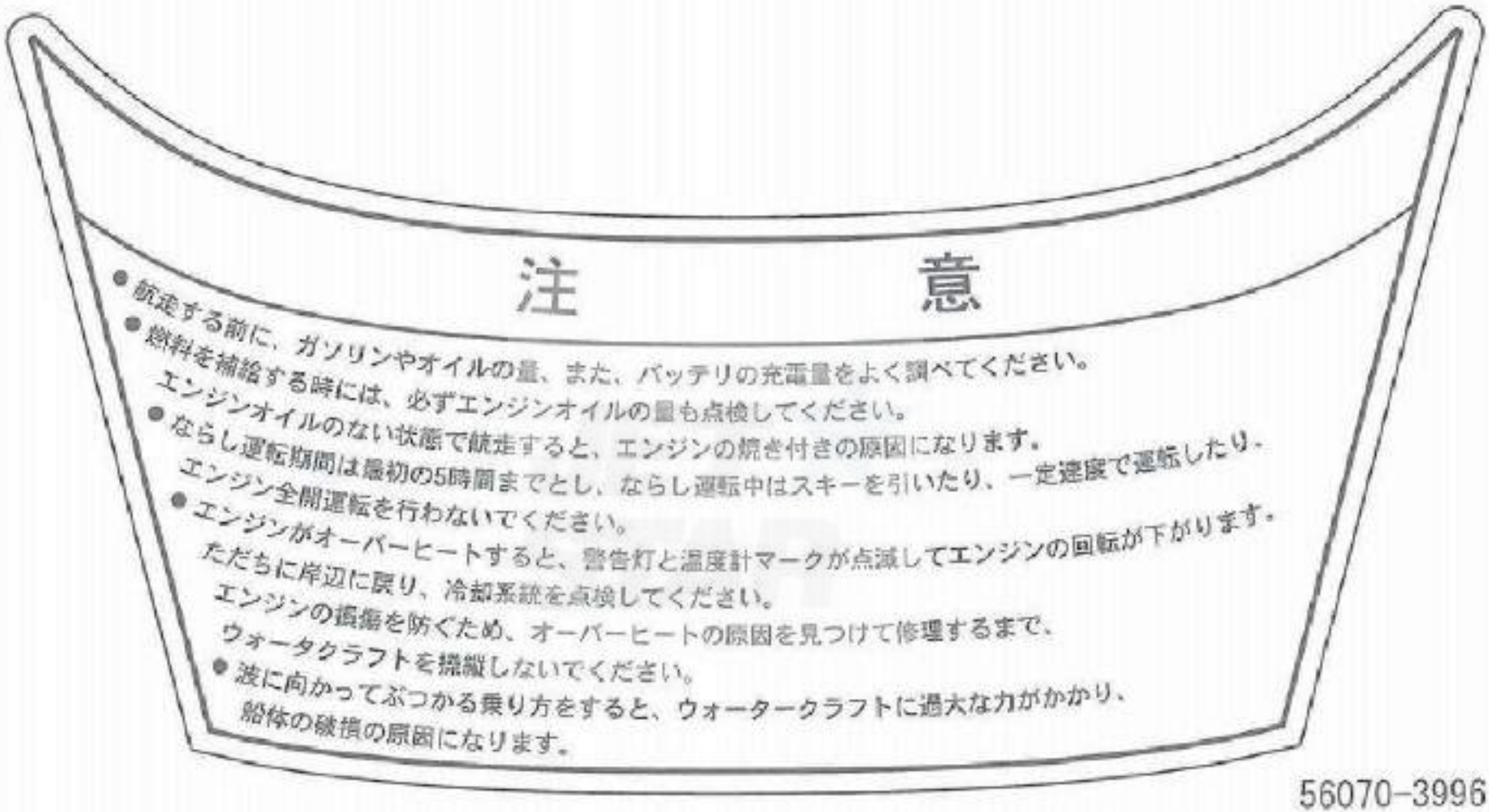




F. 最大搭載人員
G. バッテリの警告
H. リバースバケットと船の回転方向の注意および安全装備・操縦とジェットポンプの警告
I. 転覆時の反転要領

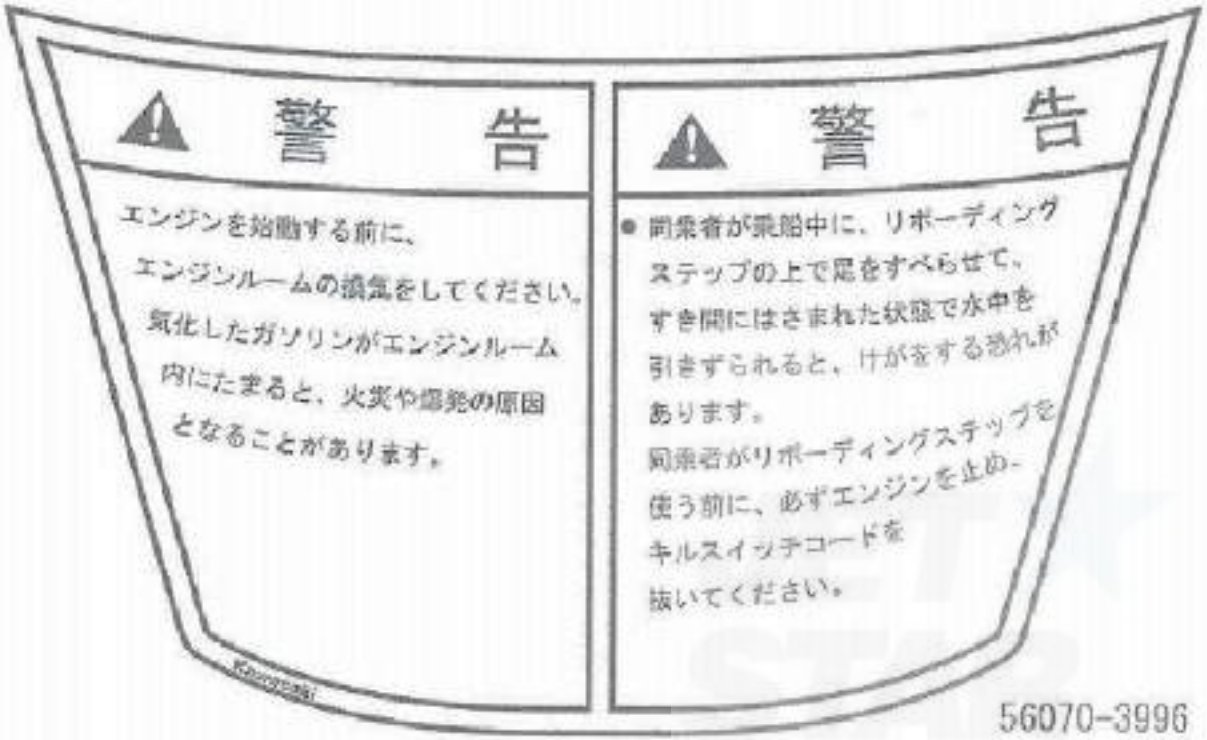
JET STAR

(A)


注　　意
● 航走する前に、ガソリンやオイルの量、また、バッテリの充電量をよく調べてください。
● 燃料を補給する時には、必ずエンジンオイルの量も点検してください。
エンジンオイルのない状態で航走すると、エンジンの焼き付きの原因になります。
● ならし運転期間は最初の5時間までとし、ならし運転中はスキーを引いたり、一定速度で運転したり、
エンジン全開運転を行わないでください。
● エンジンがオーバーヒートすると、警告灯と温度計マークが点滅してエンジンの回転が下がります。
ただちに岸辺に戻り、冷却系統を点検してください。
エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまで、
ウォータクラフトを操縦しないでください。
● 波に向かってぶつかる乗り方をすると、ウォータークラフトに過大な力がかかり、
船体の破損の原因になります。

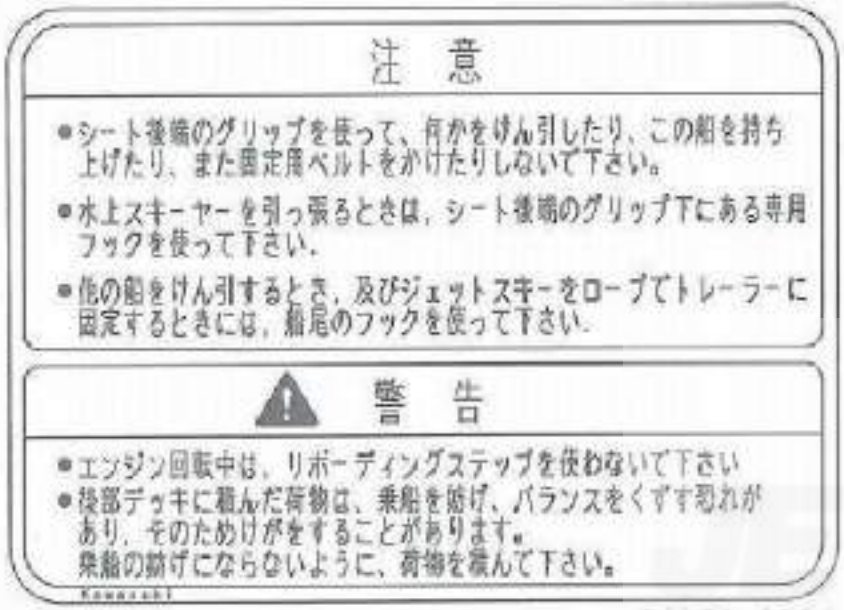
56070-3996

(A)


警　告
エンジンを始動する前に、
エンジンルームの換気をしてください。
気化したガソリンがエンジンルーム
内にたまると、火災や爆発の原因
となることがあります。
警　告
● 同乗者が乗船中に、リボーディング
ステップの上で足をすべらせて、
すき間にはさまれた状態で水中を
引きずられると、けがをする恐れが
あります。
同乗者がリボーディングステップを
使う前に、必ずエンジンを止め、
キルスイッチコードを
抜いてください。
56070-3996

(B)

注　意



- シート後端のグリップを使って、何かをけん引したり、この船を持ち上げたり、また固定用ベルトをかけたりしないで下さい。
- 水上スキーヤーを引っ張るときは、シート後端のグリップ下にある専用フックを使って下さい。
- 他の船をけん引するとき、及びジェットスキーをロープでトレーラーに固定するときには、船尾のフックを使って下さい。

警　告

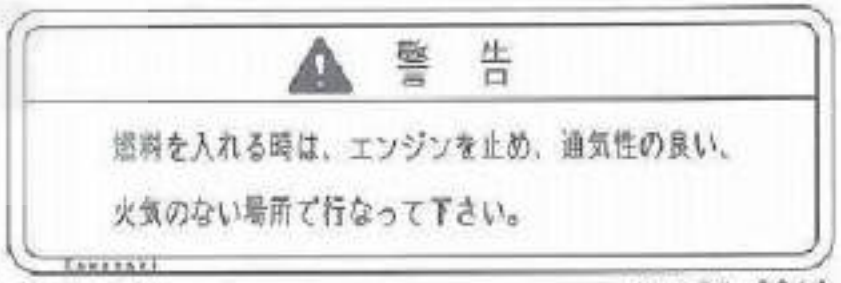
- エンジン回転中は、リボーディングステップを使わないで下さい
- 後部デッキに積んだ荷物は、乗船を妨げ、バランスをくずす恐れがあり、そのためけがをすることがあります。
  乗船の妨げにならないように、荷物を積んで下さい。

Kawasaki

56070-3981

D0051768N5 0

(C)



MFD. BY KAWASAKI MOTORS MFG. CORP., U.S.A.

56037-1808

D0050420N6 0

(D)

警告

- 高圧ガスが封入されています。　火中には、絶対に入れないで下さい。

Kawasaki　56070-3881

D0050509N4 0

(E)

警　告

燃料を入れる時は、エンジンを止め、通気性の良い、

火気のない場所で行なって下さい。

Kawasaki

56070-3819

D0051758N2 0

(F)

D0050518R2 G

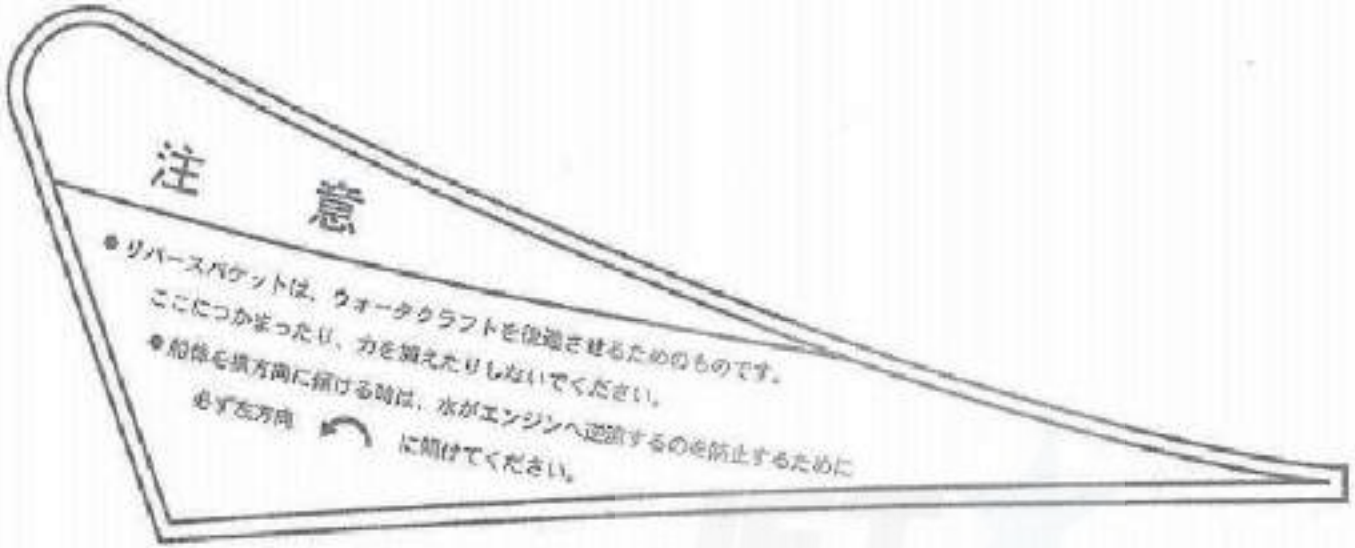
(I)

D0051048 S

(G)

D0051388 S

(H)



56070-3995

DC052378 5

(H)

56070-3995

DC062388 3

JET STAR

(H)

⚠ 警 告

ウォータクラフトを安全にお使いいただくために、次の事項を必ずお守りください。

● 乗船者は、JCI（日本小型船舶検査機構）認定のライフジャケットを必ず着用してください。
ライフジャケットは身体に合ったものを使用してください。

● 乗船者は身体を保護できる衣服を着用してください。
落水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、
体腔内に水が入り負傷する恐れがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。
身体を保護できるウェットスーツパンツ等を必ず着用してください。
シューズ、手袋、ゴーグル（保護眼鏡）も着用してください。

● 操縦には、特殊小型船舶操縦士免許が必要です。操縦免許証を持って乗船してください。

● 操縦者が落水したときにエンジンが停止するようキルスイッチコードを手首にはめ、
ハンドルバー等に捨てないようにしてください。
下船後は子供や他の人が使えないようにキルスイッチコードを
ウォータクラフトから外してください。

● 自分の操縦技量をよく知り、無理な航走はしないでください。
自分の操縦技量を超えた航走をすると、思い通りに操縦できなかったり、
落水や衝突の可能性が増えたりします。
急動船や波のジャンプは背骨/脊髄、頭、腿やくるぶし等を損傷あるいは
骨折する恐れがあります。ジャンプは行わないでください。

● ウォータクラフトの背後に人がいるときはスロットルを
開けないでください。
エンジンを停止させるか、アイドルスピードにしてください。
スロットルを開けると、ジェットノズルから排出される
水や異物でけがをする恐れがあります。

● エンジン運転中はジェットポンプの吸水口に近づかないでください。
長い髪、だぶついた衣服、ライフジャケットの紐等が
巻き込まれて、けがをしたり、溺れたりする恐れがあります。

● 飲酒や薬物の服用後は絶対に乗船しないでください。

● 取扱説明書を必ず読んで、
よく理解してからご使用ください。

56070-3995

(H)

⚠ 警 告

ウォータクラフトの事故では衝突が多くの死傷につながっています。
次の事項を守り、衝突防止に努めてください。

● 周囲の遊泳者、障害物、船舶に絶えず注意してください。
自分の視界が妨げられている場合、あるいは他の人から
見えない位置にいる場合は特に注意してください。

● 遊泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な速度、
距離を保って航走してください。
・他のウォータクラフトや船舶等の後ろを追走しない。
・周囲のものに水しぶきが掛かるような距離まで近づかない。
・急旋回など周囲の操船者が避けられないあるいは予測できない航走はしない。
・浅瀬や暗礁等のある水域は航走しない。

● 早めに行動を起こし、衝突防止に努めてください。ウォータクラフトも
一般船舶と同様にブレーキ装置はありません。

● 障害物を避けるときはスロットルレバーを戻さないでください。方向を
変えるためにはスロットルレバーを操作して推力を確保することが必要です。
航走前には、スロットルレバーとステアリングが正しく作動することを
いつも確認してください。

● 航海法規、地域の条例や規則を必ず守ってください。

● 夜間航走はできません。

● 遊泳者の近くや、船舶の往来が激しい水域では
航走しないでください。

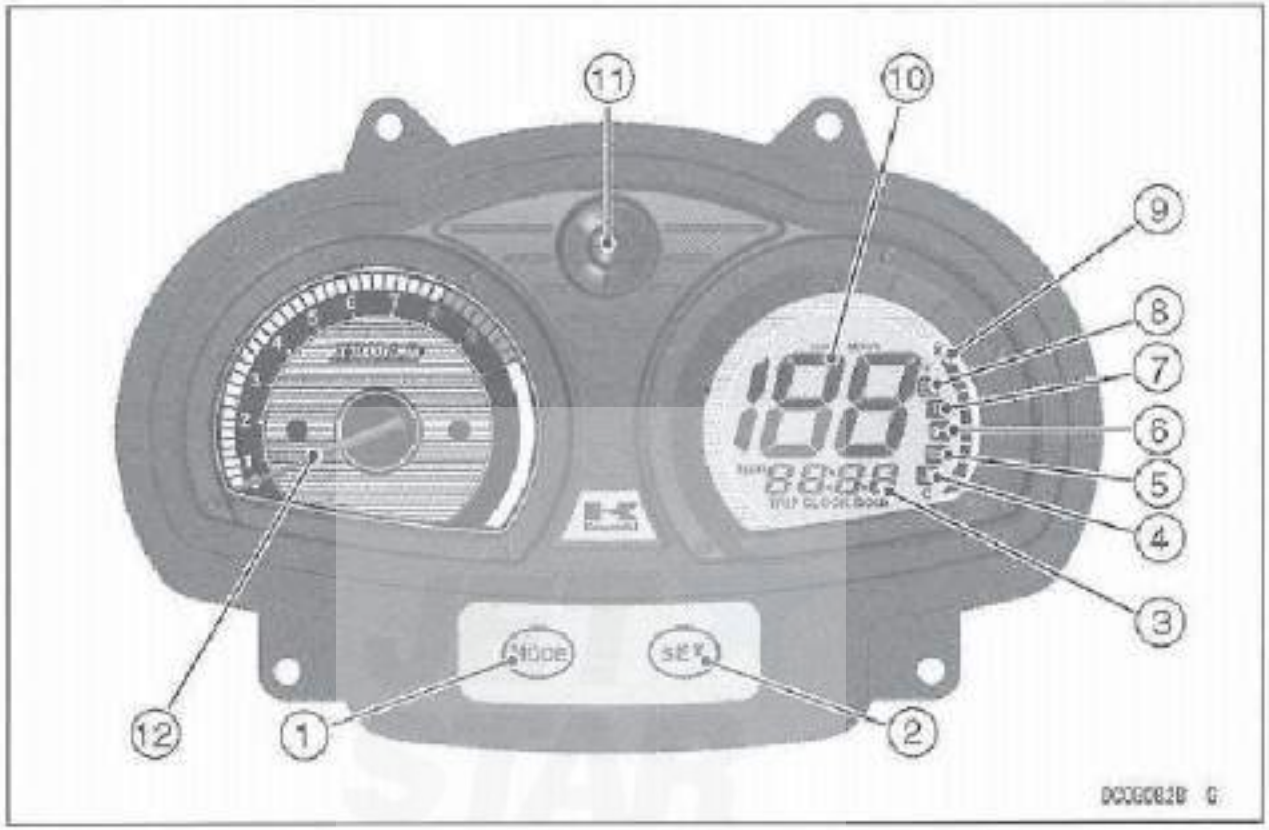
56070-3995

マルチファンクションメータ

ステアリングハンドルバーの前方に、マルチファンクションメータがあります。イグニッションスイッチを "ON" にすると燃料計が作動し、消滅します。つづいてアナログのタコメータの針が一回往復し、メータ上のすべての標示が点灯します。そして赤色警告灯が点灯し、警告ブザーも二回吹鳴します。この初期作動のあとメータは通常の表示をします

要点

- メータの表示は、キルスイッチコードキーやストップボタンでエンジンを止めると3分後に消えますが、イグニションスイッチでエンジンを止めるとすぐに消えます。
- 警告灯が点滅すると警告ブザーも鳴ります。このブザーを止めるには"SET"ボタンか"MODE"ボタンを押してください。
- "MODE"ボタン操作によるメータの切換えは下記の場合に可能です。
  (1) エンジンの回転速度が3 000以下。
  (2) 文字警告表示が点滅していない。
- 文字警告表示の点滅を止めるには"SET"または"MODE"ボタンを1秒間以上押してください。
- これで"MODE"ボタンによるメータの通常の切換え操作が出来ます。



1. “MODE” （モード） ボタン
2. “SET” （セット） ボタン
3. 多機能デジタルメーターディスプレー
4. 冷却水温シンボル
5. エンジン油圧シンボル
6. イモビライザシンボル
7. FIシンボル
8. バッテリシンボル
9. 燃料レベル計
10. スピードメータ
11. “LED” 警告灯
12. タコメータ （アナログ式）

SLOモード

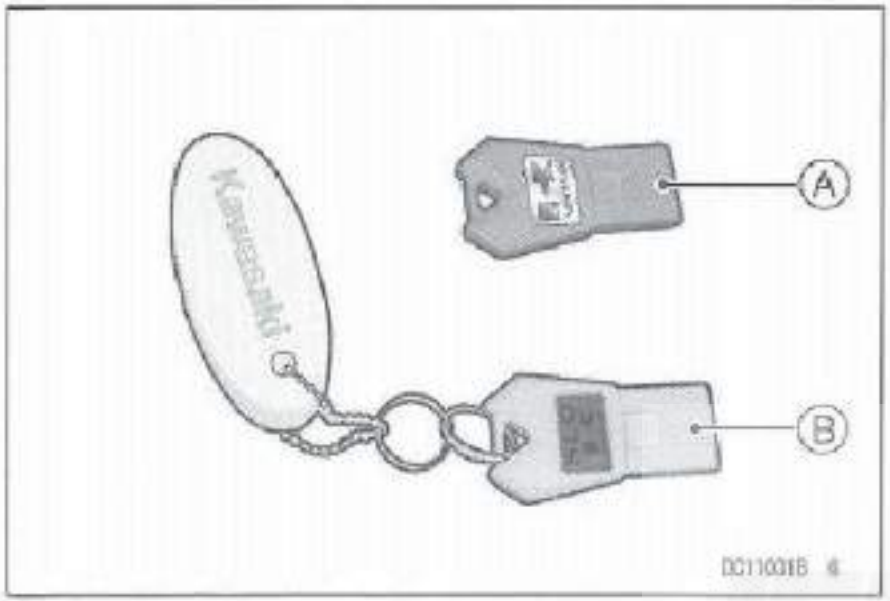
このウォータクラフトはSLO（スマート・ラーニング・オペレーション）モードの機能がついています。これはエンジンの出力を制限する機能です。初心者および経験の浅い方はウォータクラフトの運転に慣れるまで、このモードで練習されることをお勧めします。

SLOモード表示

通常の運転モード（フル・パワー・オペレーション：FPO）はFPOの表示で表されます。

FPOモード表示

SLOモードからFPOモードへまたはその逆に切り替える場合は、希望のモードキーを選びキー穴へ差し込みます。詳しくは一般事項・操縦装置の中のイグニッションスイッチの項を参照ください。



A. FPO モードキー（オレンジ）
B. SLO モードキー（イエロー）

要点

- SLOモードへの切り替え時には電源投入時と同じ初期表示がなされ、ブザーが2回鳴ります。その後SLOの文字が時計／航走時間／航走距離／積算航走時間メータディスプレー等の表示の間に3秒毎に交互点滅表示されます。この表示はSLOモードで運転中は継続されます。
- SLOから通常モード（FPOモード）への切り替えの時にも初期画面が表示され、その後FPOの文字が2秒間点灯し消灯します。FPOの文字はそれ以降は表示されません。
- 各種警告の作動、およびその他のメータ機能はSLOモード、通常モード（FPO）とも同じです。

スピードメータ

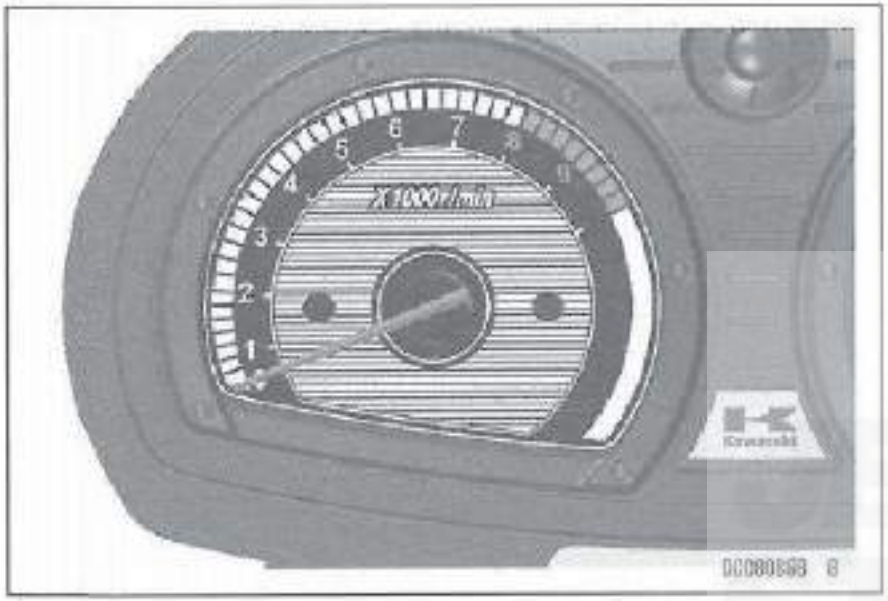
スピードメータはウォータクラフトの時速を示します。急旋回をしている間は、実際の速度より10ないし20 km/h低い速度を示します。

要点

- スピードメータの表示をKm/hおよびMile/hのいずれかに変えることができます。詳しくは積算航走時間メータ（HOUR）の項目を参照ください。

タコメータ(アナログ式)

タコメータは毎分当りのエンジン回転速度(rpm)を示します。



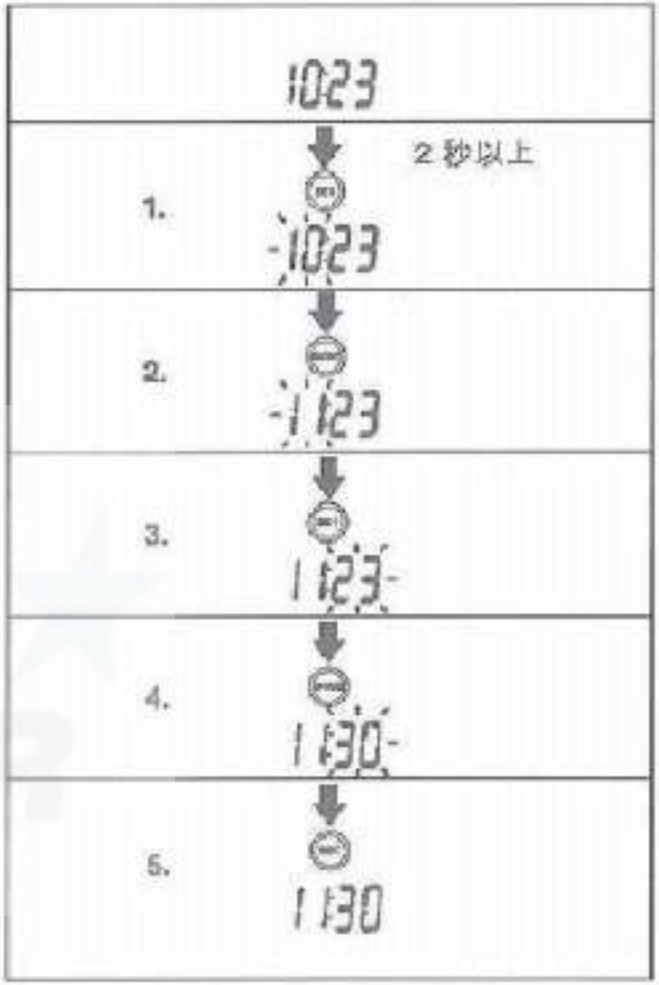
多機能デジタルメータディスプレー

スピードメータ下部のディスプレーに、時刻、航走時間、航走距離、積算航走時間、タコメータ、及び最高速度記録のモードがこの順に表示されます。"MODE"ボタンを1秒以上押し続けると、これらのモードが連続的に移り変わります。

時計

次のように時間を合わせます。

1. "SET" ボタンを2秒以上押す。時間表示が点滅を始める。
2. "MODE" ボタンを押して、時間表示を進める。
3. "SET" ボタンを押す。時間表示の点滅が止まり、分表示が点滅を始める。
4. "MODE" ボタンを押して、分表示を進める。
5. "SET" ボタンを押す。分表示の点滅が止まり、時計が動き出す。



要点

- "MODE"ボタンを瞬間的に押すと時間表示または分表示が一つづつ進み、押し続けると連続的に進みます。
- イグニションスイッチが"OFF"の間は、時計はバックアップ電力により正常に動きます。
- バッテリからケーブルをはずすと、時刻表示は12:00にセットされ、次に接続されたときから動き始めます。

航走時間メータ(TIME)

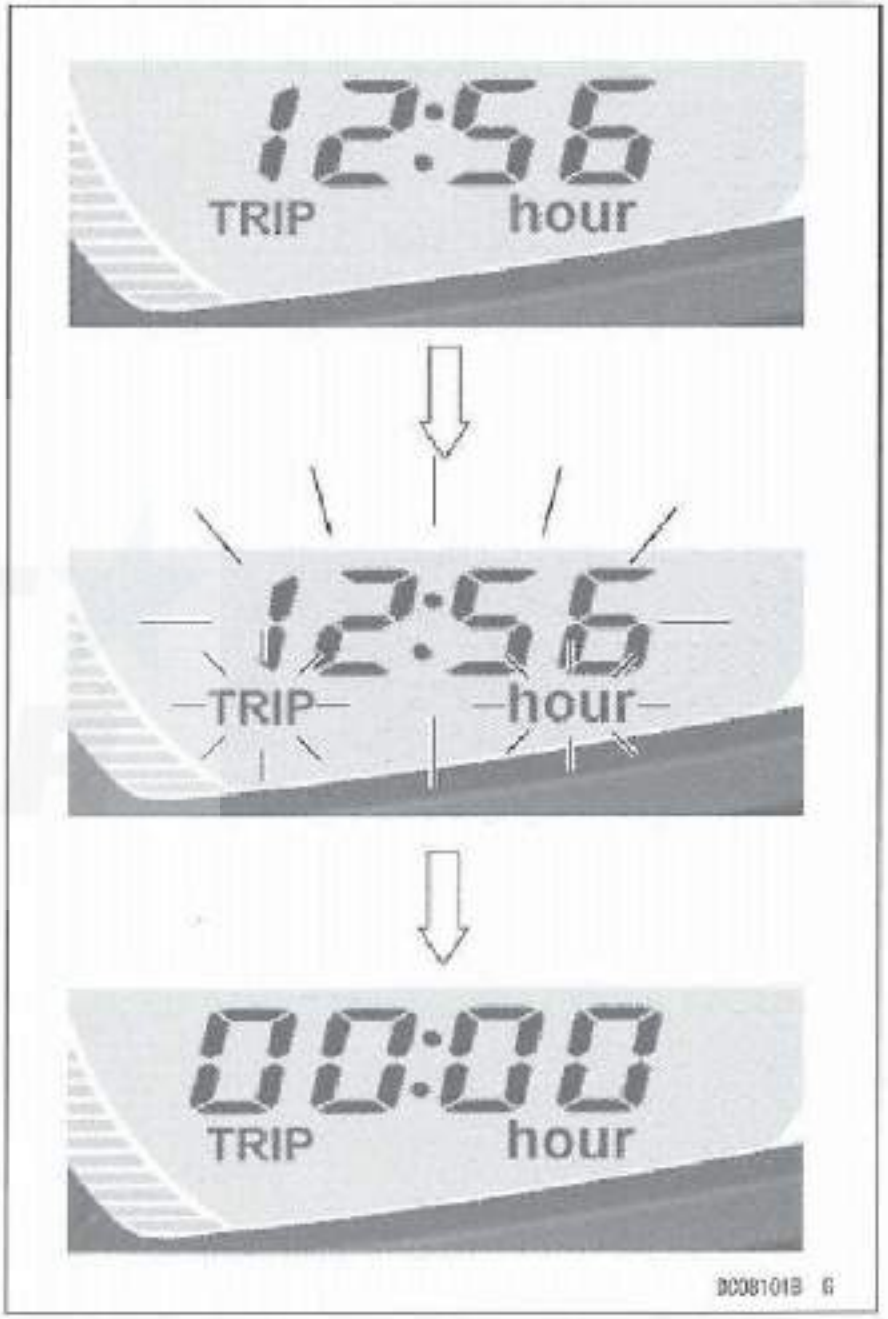
航走時間メータは、表示をゼロにリセットしてから経過した時間を示します。

次のようにリセットします。

1. "SET" ボタンを押し続ける。このモードのすべての表示が点滅を始める。
2. 2秒後表示の点滅が止まり、時・分表示が00：00に戻る。エンジンが回転中ならすぐに動き始める。イグニションスイッチを "OFF" にしない限り、メータは次にリセットする（ゼロに戻す）までカウントを続ける。

要点

- たとえイグニションスイッチをOFFにしても、表示データはバックアップ電力によって保存され、次回ウォータクラフトを使用したときに再びそこから動き始めます。
- エンジンが回転中に表示が99:59になると、いったん00:00に戻ります。そして、再び先へカウントを進め始めます。
- バッテリからケーブルをはずすと、表示は00:00にリセットされます。

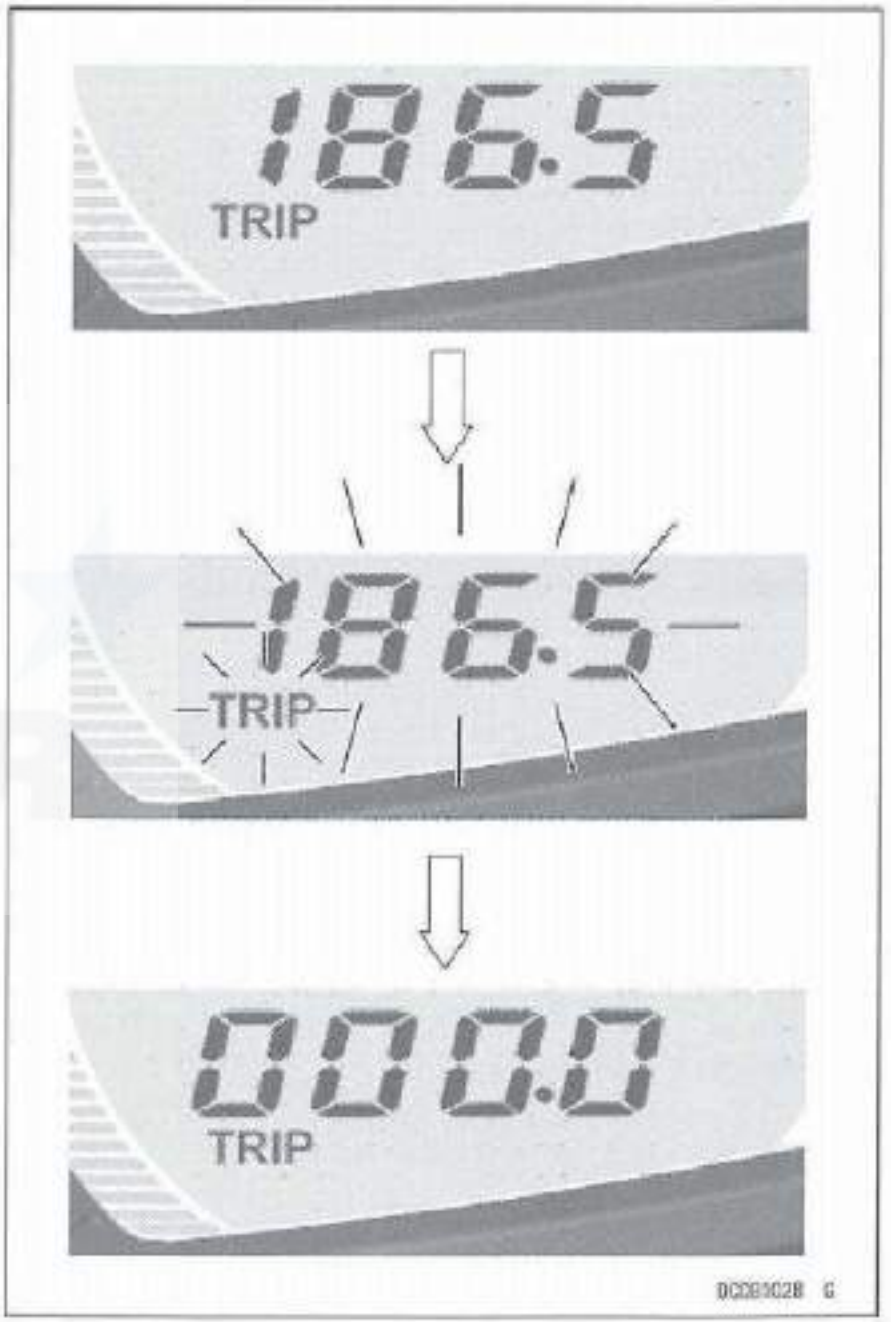


航走距離メータ(TRIP)

航走距離メータは、表示をゼロにリセットしてから航走した距離を示します。

次のようにリセットします。

1. "SET" ボタンを押し続ける。このモードのすべての表示が点滅を始める。
2. 2秒後表示の点滅が止まり、距離表示が000.0に戻る。航走中ならすぐにカウントを始める。イグニションスイッチを "OFF" にしない限り、メータは次にリセットする（ゼロに戻す）までカウントを続ける。

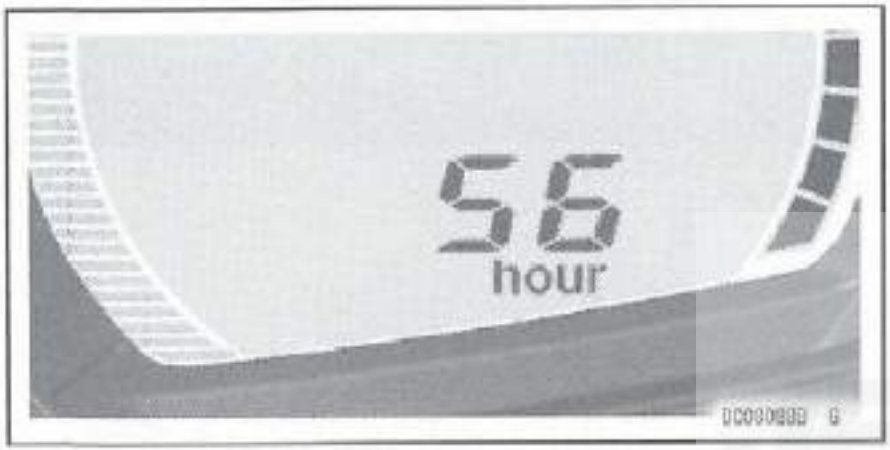


要点

- たとえイグニションスイッチを"OFF"にしても、データはバックアップ電力によって保存されます。
- ウォータクラフトの停止中に航走距離メータをリセットしたときは、再び航走し始めたらすぐにカウントを始めます。
- 航走中に表示が999.9になると、いったん000.0に戻り再びカウントを始めます。
- バッテリからケーブルをはずすと、表示は000.0にリセットされます。

積算航走時間メータ(HOUR)

積算航走時間メータは、ウォータクラフトが今までに航走した全時間を示します。このメータはリセットする（ゼロに戻す）ことはできません。



要点

- たとえバッテリからケーブルが外されても、データは保存されます。
- ウォータクラフトが航走中に表示が9999になると、いったん0000に戻り再びカウントを始めます。
- このメータの表示状態で"SET"ボタンを3秒以上押すことでスピードメータの表示をKm/hまたはMile/h表示に切り替えることができます。

タコメータ(デジタル)

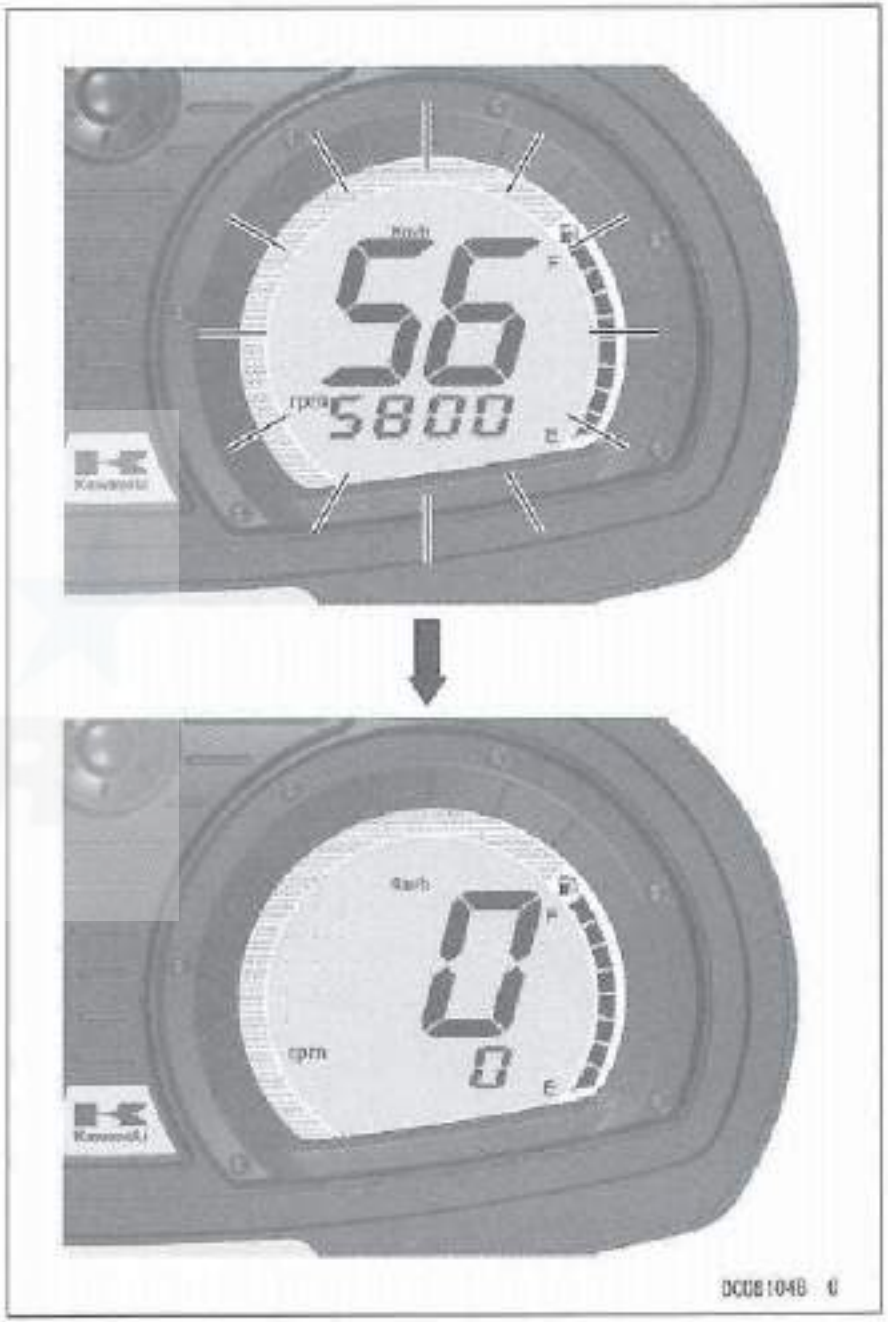
タコメータは毎分あたりのエンジンの回転速度（ｒｐｍ）を示します。

最高速度及びエンジン回転数

前回に表示をゼロにリセットして以来に記録された最高速度とその時のエンジン回転数を表示します。

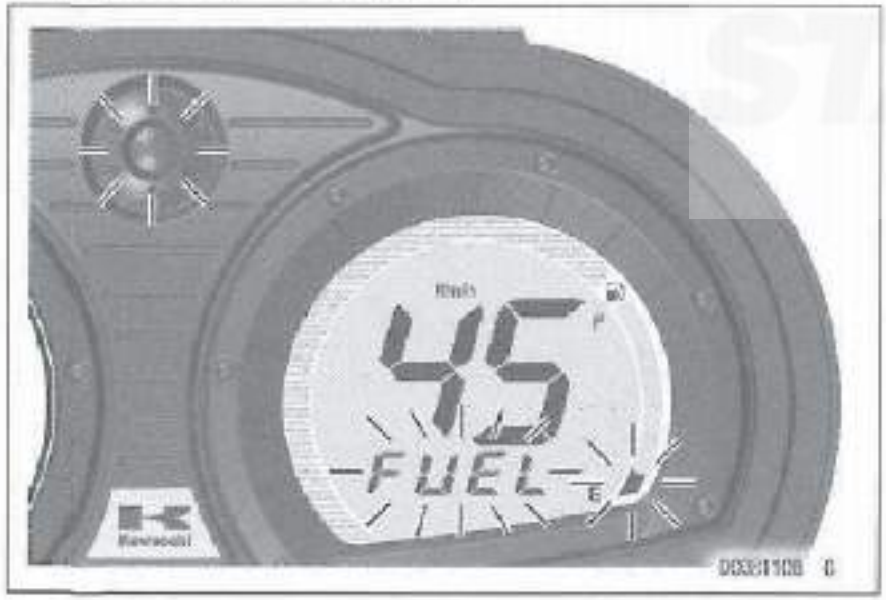
次のようにリセットします。

1．“SET”ボタンを押し続ける。このモードのすべての表示が点滅を始める。
2．2秒後、表示の点滅が止まり表示された数字が0に戻る



燃料レベル計／"FUEL"文字／警告灯

燃料タンクの燃料は、表示されるセグメントの数によって示されます。燃料が満タンのときは、全てのセグメントが表示されます。燃料が減るに従ってセグメントは上から順に消えて行き、タンク内の残量を示します。一番下（Eマーク）のセグメントだけになると、そのセグメントが点滅しはじめます。また、警告ブザーが鳴り"LED"（赤色）警告灯が点灯しスピードメータの下の"FUEL"文字が点滅して、操縦者に警告します。警告ブザーは、メータのどれかのボタンを1秒以上押すと停止します。点滅が始まったときの残りの燃料は26 Lです。スピードはスロットル半開以下にしてできるだけ早く給油してください。このウォータクラフトには予備タンクがありません。（「燃料」と「操縦装置」の項参照。）

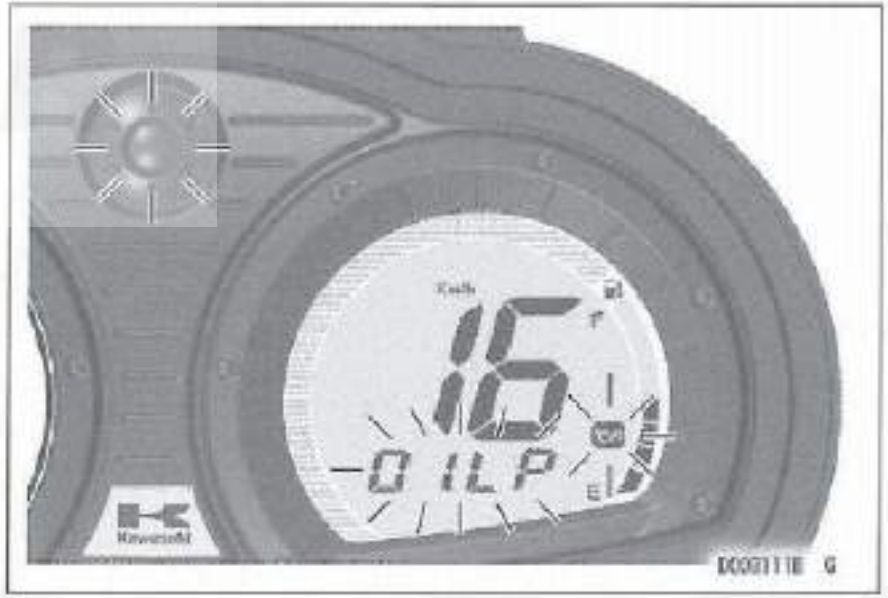


オイル圧力シンボル／"OILP"文字／警告灯

エンジンオイルの量が減り、オイル圧力が低下するとブザーが鳴り警告灯が点灯します。、オイル圧力シンボル、"OILP"文字が点滅し、操縦者に警告します。同時にエンジンの回転速度を自動的に3000 rpm以下に制御しますので、直に岸に戻り、できるだけ早くオイルを補充してください。（「エンジンオイル」の項参照。）警告ブザーは、メータのどれかのボタンを1秒以上押すと停止します。

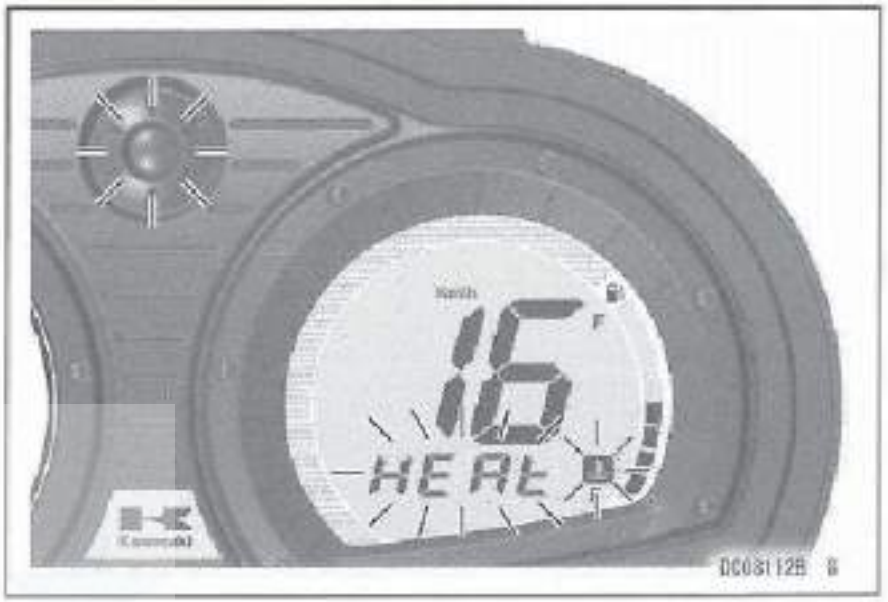
要点

- ウォータクラフトが転覆して復旧した場合、イグニッションスイッチがONになっていると警告灯が点滅したままになります。



水温シンボル／"HEAt"文字／警告灯

冷却水の温度が高くなり過ぎると警告ブザーが鳴り、"LED"（赤色）警告灯が点灯します。さらに、水温シンボル及びスピードメータの下の"HEAt"文字が点滅します。同時にエンジンの回転速度を自動的に3 000 rpm以下に制御しますので、直ちに岸に戻り、冷却系統が詰まっていないか点検してください。警告ブザーは、メータのどれかのボタンを1秒以上押すと停止します。（「操縦方法」の章の「特殊な手入れ」の項参照。）

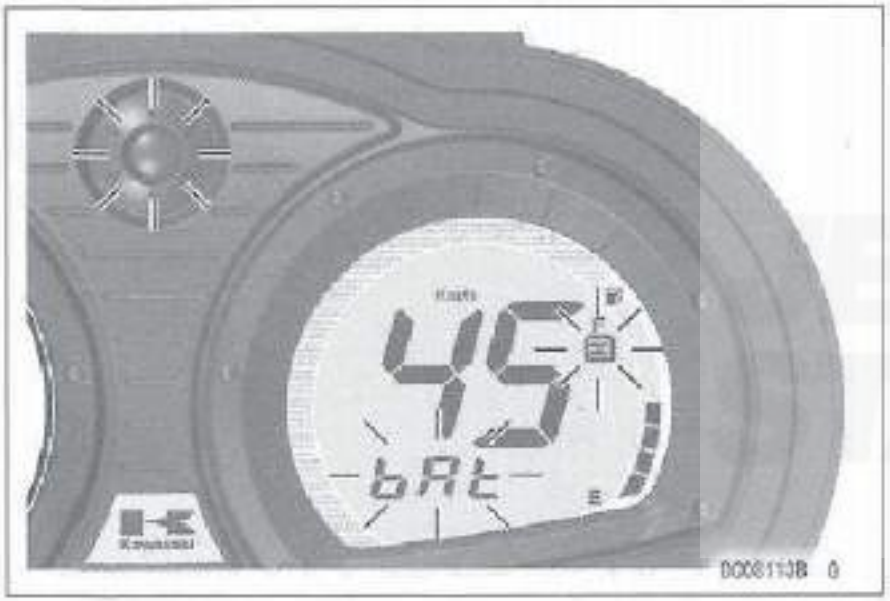


注意

エンジンがオーバーヒートすると、警告ブザーが鳴り警告灯が点灯します。そして、水温シンボルが点滅すると共にスピードメータの下の"HEAt"文字が点滅してエンジンの回転が下がります。直ちに岸に戻り、冷却系統を点検してください。エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまでウォータクラフトを操縦しないでください。

バッテリシンボル／"bAt"文字／警告灯

バッテリ電圧が11.5V以下になると、警告ブザーが鳴り"LED"（赤色）警告灯が点灯します。さらに、バッテリシンボルと共にスピードメータの下の"bAt"文字が点滅して操縦者に警告します。直ちに岸に戻り、バッテリの補充電を行ってください。警告ブザーは、メータのどれかのボタンを1秒以上押すと停止します。

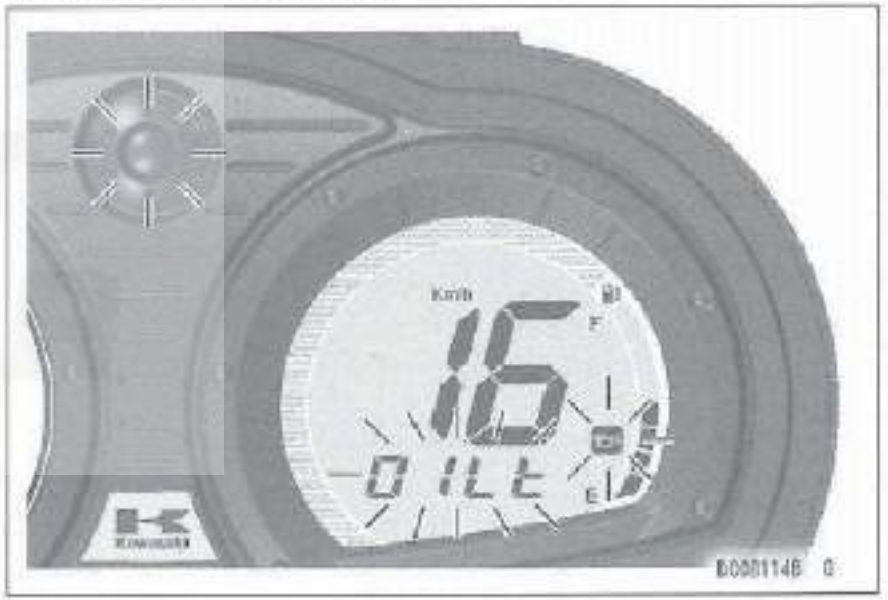


油温センサー異常警告／"OILt"文字／警告灯

エンジンの油温センサーが作動不良を起こすと警告ブザーが鳴り、LED（赤色）警告灯が点灯します。さらに、エンジン油圧シンボル、および"OILt"文字が点滅します。

同時にエンジンの回転速度が自動的に3 000 rpm以下に制御されますので、直ちに海岸へ戻り、「カワサキ正規取扱店」で故障修理を行ってください。

ブザーはSETまたはMODEのボタンを1秒以上押すと作動を停止します。

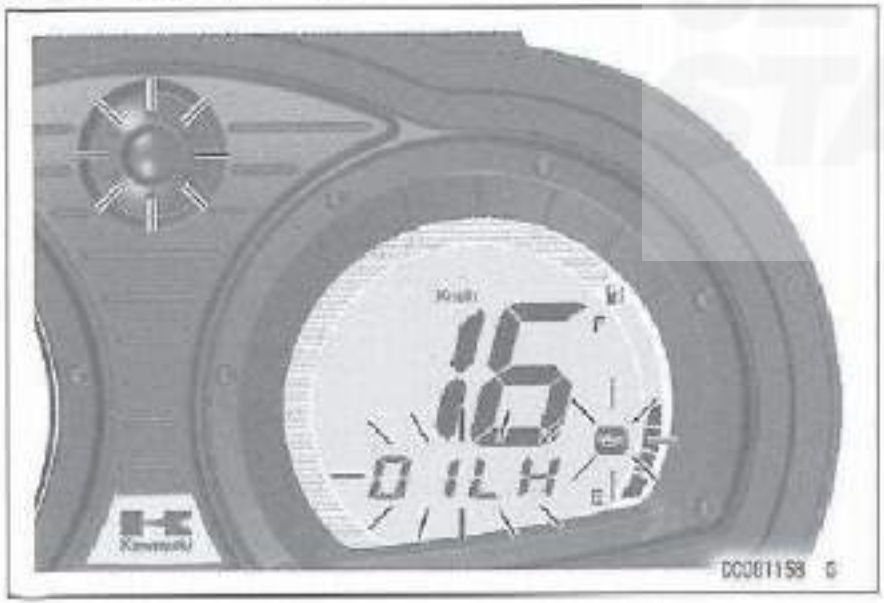


油温オーバーヒート警告／"OILH"文字／警告灯

エンジンオイルの温度が高くなりすぎると警告ブザーが鳴り、"LED"（赤色）警告灯が点灯します。さらに、エンジンオイル圧力シンボル、および"OILH"文字が点滅、します。

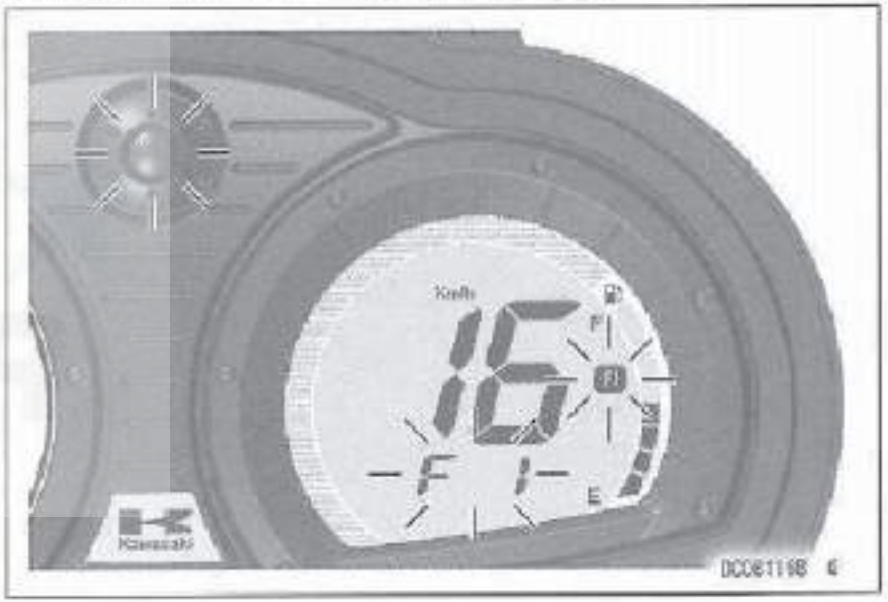
同時にエンジンの回転速度が自動的に3 000 rpm以下に制御されますので、直ちに岸に帰り冷却水系統のつまり、およびエンジンオイルの量を確認してください。上記以外の原因の場合は「カワサキ正規取扱店」で点検を受けてください。（「トラブルシューティング」の項の「エンジンの回転速度が3 000 rpm以上に上がらないとき」の項参照。）

警告ブザーはSETまたはMODEのボタンを1秒以上押すと停止します。



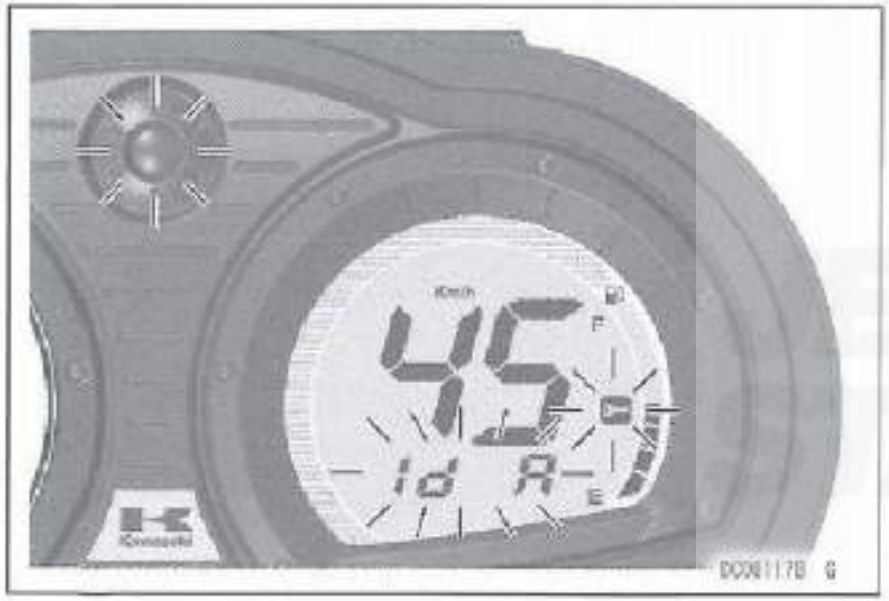
FIシンボル／"FI"文字／警告灯

エンジン関連の部分の機能が損なわれると警告ブザーが鳴り、"LED"（赤色）警告灯が点灯します。さらに、"FI"シンボル、および"FI"文字が点滅します。直ちに海岸へ戻り、「カワサキ正規取扱店」で故障修理を行ってください。ブザーはメータのどれかのボタンを押すと作動を停止します。故障の原因によっては自動的にエンジンの最高回転を3 000 rpmに制限します。



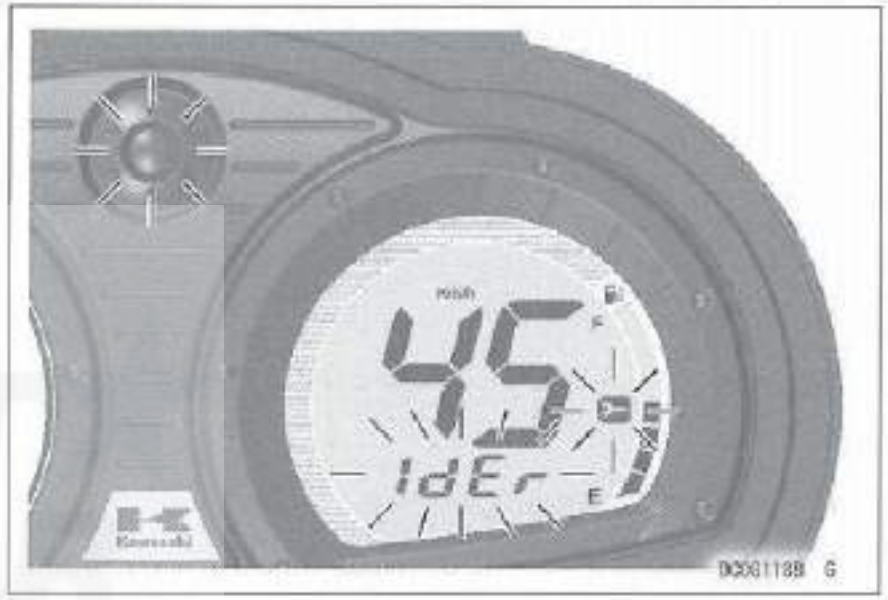
イモビライザアンプ異常警告／"Id A"文字／警告灯

イモビライザ装置のアンプが作動不良を起こすと警告ブザーが鳴り、LED（赤色）警告灯、イモビライザシンボル、および"Id A"文字が点滅します。「カワサキ正規取り扱い店」で故障修理を行ってください。ブザーはSETまたはMODEのボタンを1秒以上押すと作動を停止します。



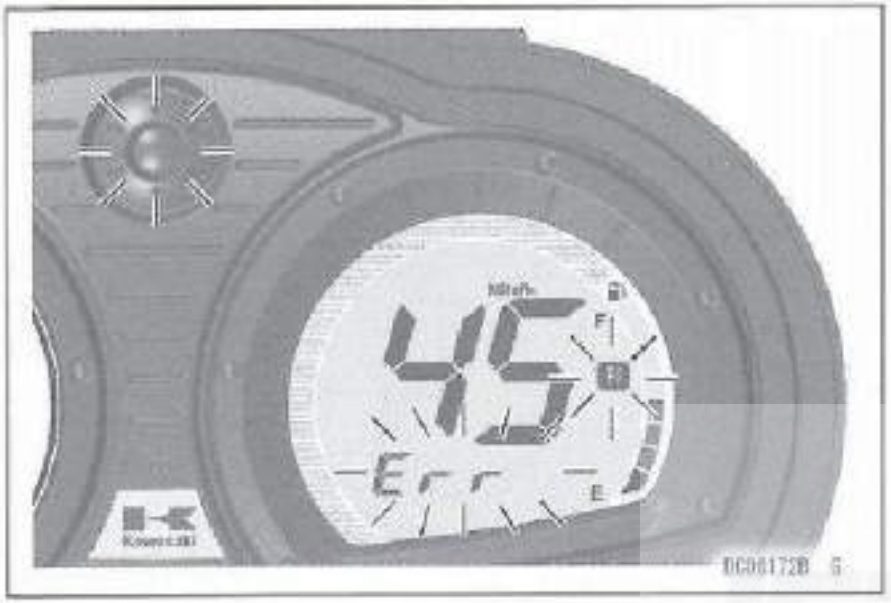
イモビライザキー照合警告／"IdEr"文字／警告灯

登録された以外のキーが使われた場合は警告ブザーが鳴り、LED（赤色）警告灯、イモビライザシンボル、および"IdEr"文字が点滅します。



通信異常警告／"Err"文字／警告灯

メーターとエンジン制御ユニット（ECU）との間の通信に異常がある場合は警告ブザーが鳴り、LED（赤色）警告灯が点灯します。さらにFIシンボル、および"Err"文字が点滅します。「カワサキ正規取り扱い店」で故障修理を行ってください。ブザーはSETまたはMODEのボタンを1秒以上押すと作動を停止します。



燃料

- レギュラーガソリンを使用してください。

注意

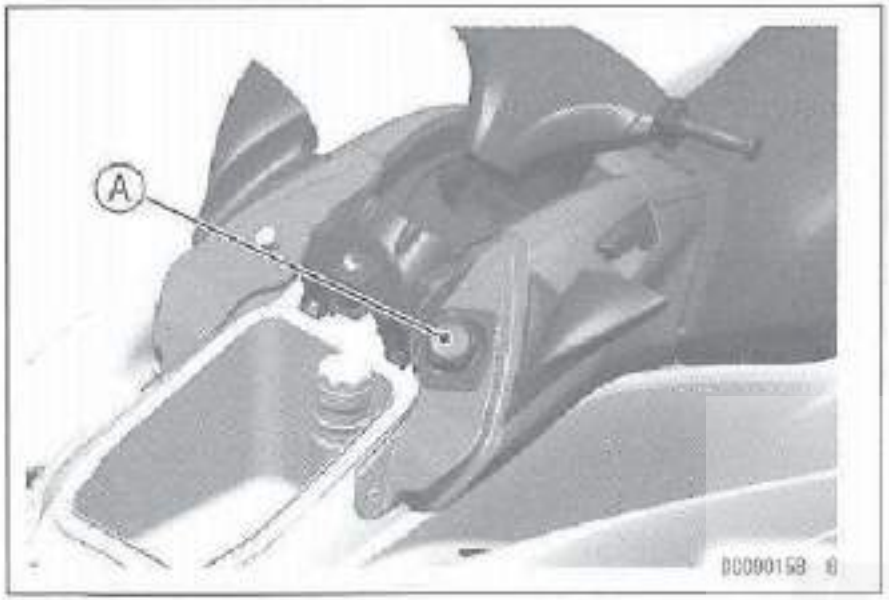
- 必ず無鉛ガソリンを使用してください。
  燃料を補給するときは、必ず無鉛ガソリンであることを確認してから行ってください。
- 高濃度アルコール燃料を使用しないでください。
  高濃度アルコール燃料を使用すると、エンジンや燃料系の部品を損傷させる原因となります。
- 粗悪ガソリンまたは燃料に不適切な添加剤を使用しないでください。粗悪ガソリンまたは不適切な添加剤を使用すると、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

燃料の注入

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。

- 燃料タンクはエンジンルーム前部にあり、燃料注入口は船首備品入れのふたの下にあります。
- エンジンを停止状態にします。
- 艇を水平に保ちます。

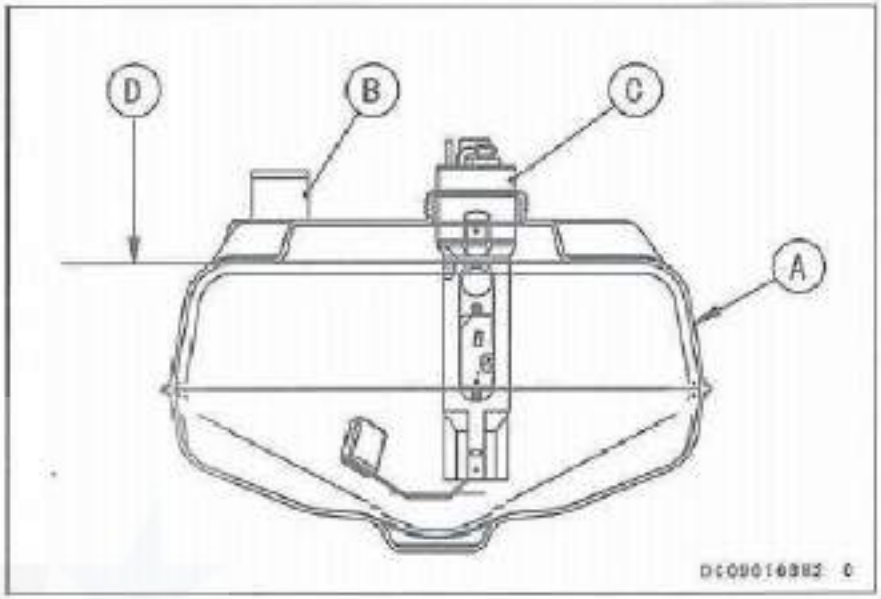


A. 燃料注入口キャップ

- キャップを開き、燃料を注入してください。注入するときは、細いホース等を用いると容易に注入ができます。また、ゆっくり注入すると、燃料タンク内の空気を抜くことができます。
- 座席シートを取外し燃料タンクの液面の上昇を確認します。
- こぼれた場合はただちに布でふき取ってください。
- 水上での給油や条例等で禁止されている砂浜での給油はしないでください。
- タバコを吸いながら給油しないでください。

⚠ 警告

燃料をタンク一杯に注入しないでください。温度の上がったタンク内では燃料が膨張し、ベントチューブから溢れる事があります。注入後はキャップを確実に閉めてください。



A. 燃料タンク
B. 燃料注入口
C. 燃料ポンプ
D. 燃料油レベル上限

注意

燃料に不純物が入らないよう、雨およびほこりの中での注油はしないでください。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、シートを取り外して数分間換気してください。（「シートラッチ」と「備品入れ」の項参照。）

⚠ 警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

要点

○ シートを開けたときにガソリンのにおいがする場合、「カワサキ正規取扱店」で燃料系統の点検を受けてください。

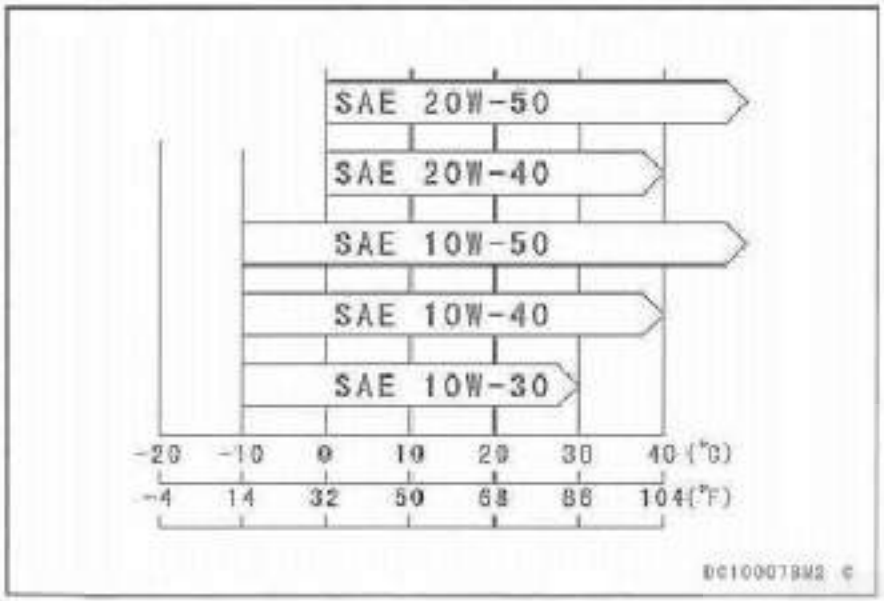
エンジンオイル

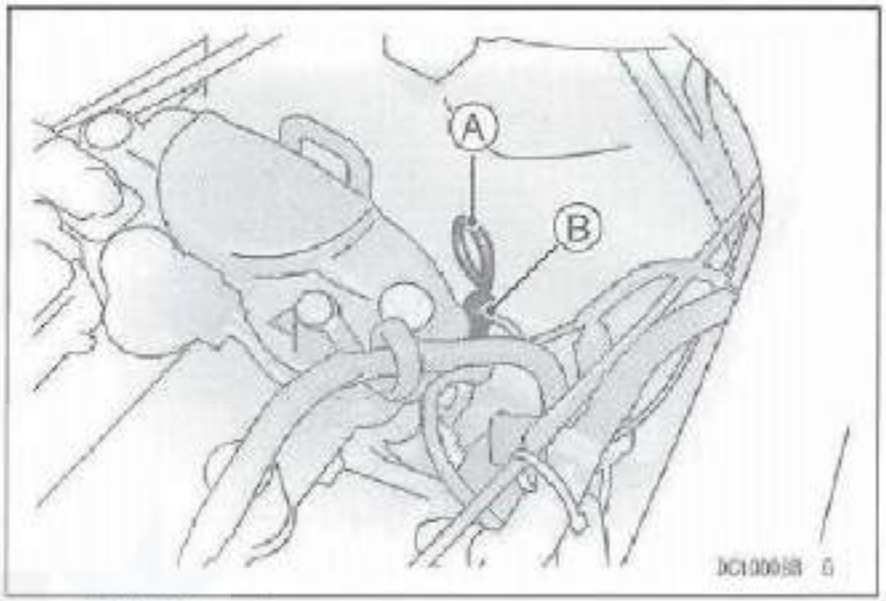
エンジンには適量のエンジンオイルを保つことが不可欠です。「調整方法」の章の「エンジンオイル系統」に従ってエンジンオイルおよびオイルフィルタを交換してください。エンジンオイルにはごみ等が溜まる他、長時間使用によりオイル自体が劣化します。

オイルの必要特性

タイプ:	API SE、SFまたはSG JASO MA API SH、SJまたはSL SAE 10W-40
必要量:	4.0 L（通常の入替時） 5.0 L（エンジンを完全に空にした時）

通常10W-40が推奨オイルですが、使用環境状況によってはオイル粘度を次の表により変える必要があります。





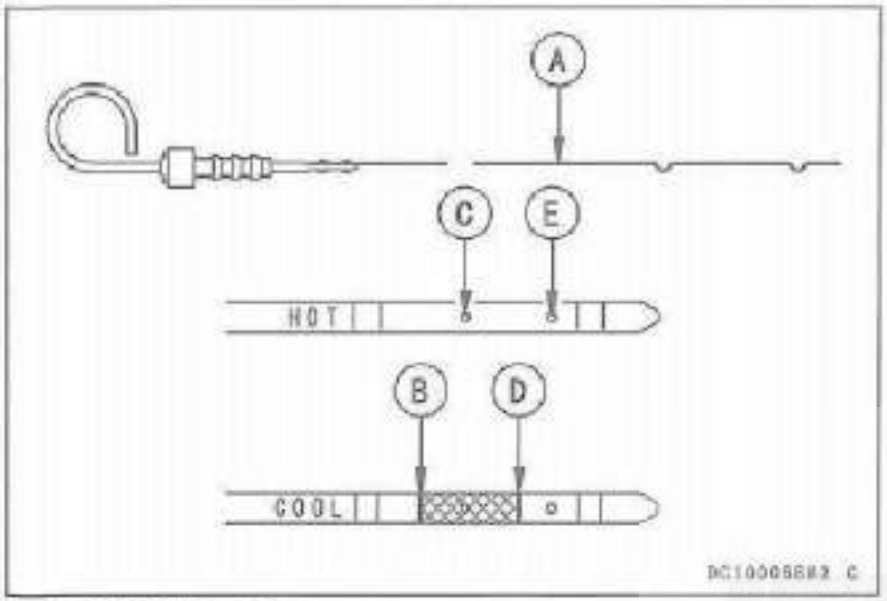
A. 計測ゲージ
B. ゲージパイプ

エンジンオイルレベルの計測:

- 毎回使用前にはオイル油面を計測してください。不足している場合には補給してください。「操縦方法」の章の「乗る前の点検項目」を参照してください。
- オイルレベルを計測する時は必ずウォータクラフトを極力、前後・左右方向に水平にしてください。
- 計測ゲージを引抜き、きれいな布でふき取り、ゲージパイプに差込みます。再びゲージを引抜きオイルレベルを調べます。
- オイルレベルは“H”（ハイレベル）と“L”（ローレベル）の間でなければなりません。ゲージ表面の冷間時の計測用レベルマークを使用してください。

要点

○ ゲージ表面には温間用・冷間用の2種のマークがあります。エンジンオイルが温まっているか否かで読み取るマークを選んでください。次のイラストを参照ください。



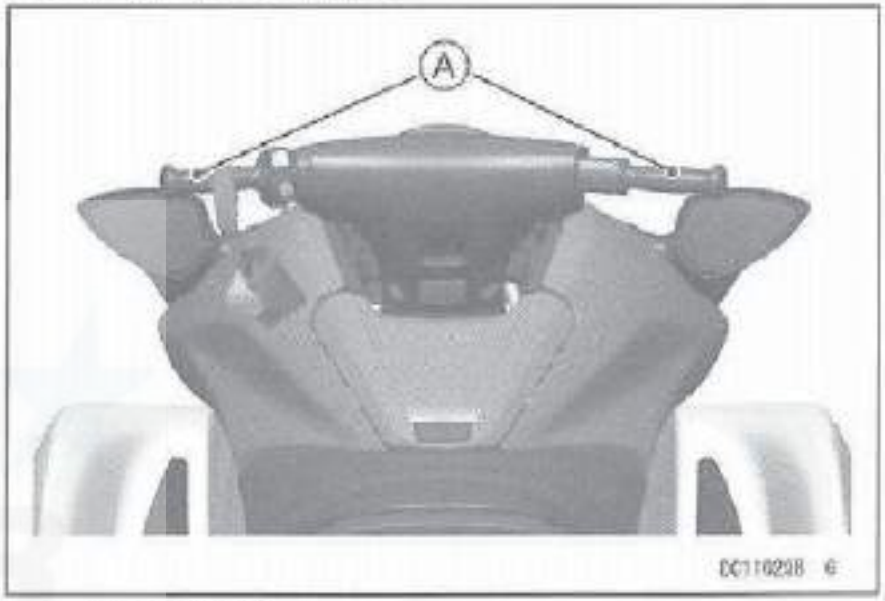
A. 計測ゲージ
B. 冷間時の“H”（ハイレベル）
C. 温間時の“H”（ハイレベル）
D. 冷間時の“L”（ローレベル）
E. 温間時の“L”（ローレベル）

- オイルレベルが“L”（ローレベル）を下回っている時は“L”（ローライン）迄補給してください。補給するオイルは既にエンジンの中にあるものと同じタイプ・銘柄を使用してください。
- エンジンオイルの補給方法に関しては「整備と調整」の章の「エンジンオイル系統」を参照ください。

注意
エンジンの中にごみ等が入らないよう注意してください。

操縦装置

ステアリングハンドルバー

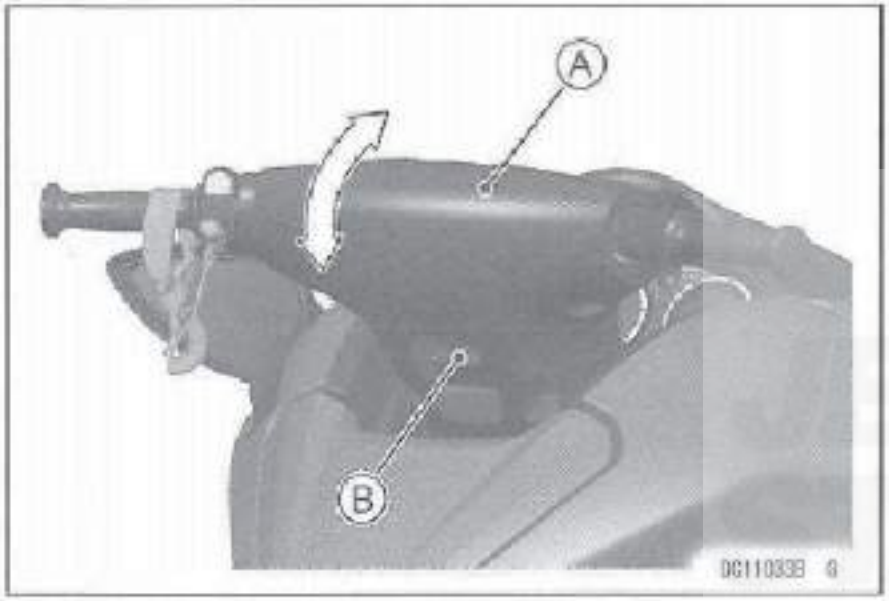


A. ハンドルバー

- ステアリングハンドルバーは自転車のハンドルと同じ機能を持っています。**エンジンが回転しており、かつ、スロットルレバーを引いているときのみ、**ハンドルバーを動かす事によってウォータクラフトを旋回させる事ができます。ハンドルバーはコントロールケーブルでウォータクラフト後部のステアリングノズル（ジェットノズル）とつながっています。

チルトレバー

ハンドルバーの角度を変えることができます。ハンドル下部のチルトレバーを押しながらお好みのハンドル角度に調整してください。5段階の調整が可能です。



A. ハンドルバー
B. チルトレバー

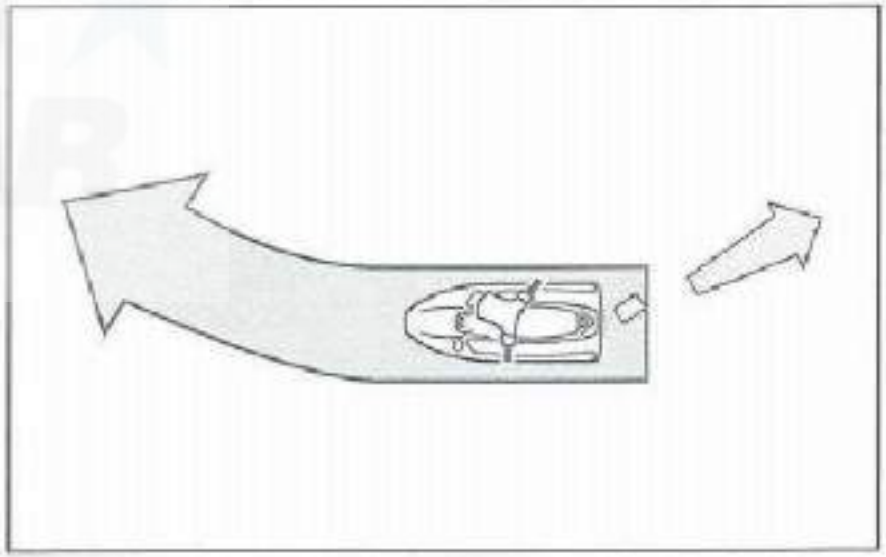
⚠ 警告

航行中は絶対にチルトレバーを操作しないでください。ハンドルの角度が急に変わり事故につながる恐れがあります。

カワサキスマートステアリングシステム

旋回するためには、ジェットノズルに推力が必要です。カワサキスマートステアリングシステムの働きにより、スロットルレバーを放したときでも、特定の条件下においてハンドルを切れば旋回します。これは、操縦者が旋回操作を学ぶことを手助けする補助的な舵とりシステムです。

カワサキスマートステアリングシステムは、ハンドル操作と船の速度を絶えず検知しています。スロットルを放していても、船の速度が速い場合、ハンドルを右または左に操作すれば、システムが働き、自動的にエンジン回転速度が高くなり、推力が増加します。エンジンを止めたり船の速度が遅い場合は、このシステムは働きません。



重要

緊急に旋回するには大きな推力が必要です。適度にスロットルを開けてジェットノズルに必要な推力を与えてください。

必要に応じてスロットルを開ければより速く旋回できますので、カワサキスマートステアリングシステムに頼らないでください。

カワサキスマートステアリングシステムは、以下の条件を全て満足したときに機能します。

- 一定時間の平均エンジン回転速度が3 000 rpm以上である
- スロットルレバーを完全に放している
- ハンドルを右か左に一杯切っている

スマートラーニングオペレーションモード(SLOモード)

このウォータクラフトには速度を約30%制御する機能、SLO（スマート・ラーニング・オペレーション）モードの機能がついています。

マルチファンクションメータにはこの機能はSLOと表示されます。また、この速度制限の無い通常モードである、FPO（フル・パワー・オペレーション）モードはFPOと表されます。

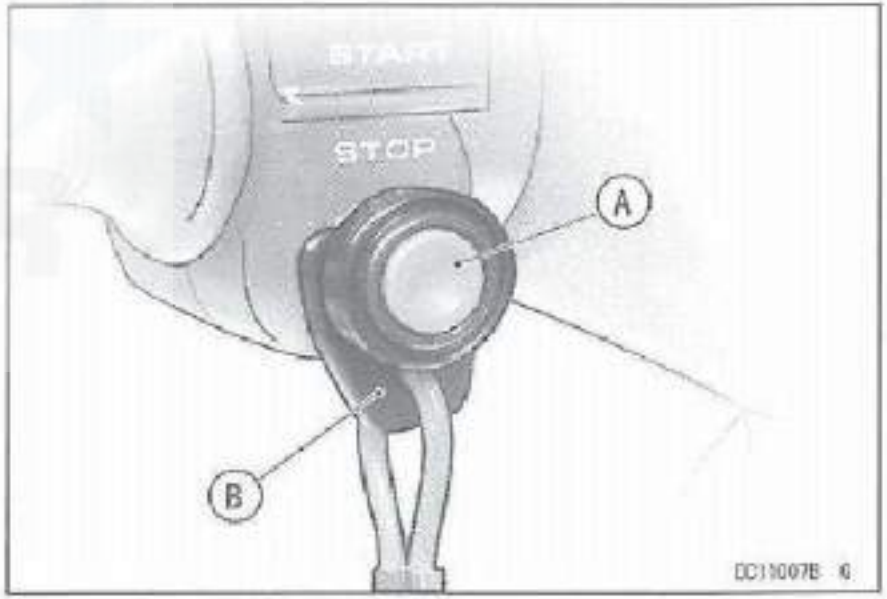
SLOモードでもメーターの各種作動・警報機能およびKSS機能等は通常モード（FPO）と全く同じように作動します。

FPOモードからSLOモードへの切り替えおよびその逆は、エンジンを停止しイグニッションキーをFPOモードキーからSLOモードキーまたはその逆に差し替えて下さい。詳細は「一般事項」の章の「マルチファンクションメータ」および「イグニッションスイッチ」の項目をご覧ください。

初心者および経験の浅い運転者がウォータクラフトの操縦技能を安全に習得できるよう、ウォータクラフトの所有者および運転者はこのSLO機能について熟知してください。

ストップボタン

- ストップボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。ストップボタンは赤色で、上方に“STOP”と表示されています。ストップボタンを押すとエンジンは停止します。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜いても、エンジンは停止します。
- 下船後は子供や他の人が使えないように、キルスイッチコードをウォータクラフトから外してください。

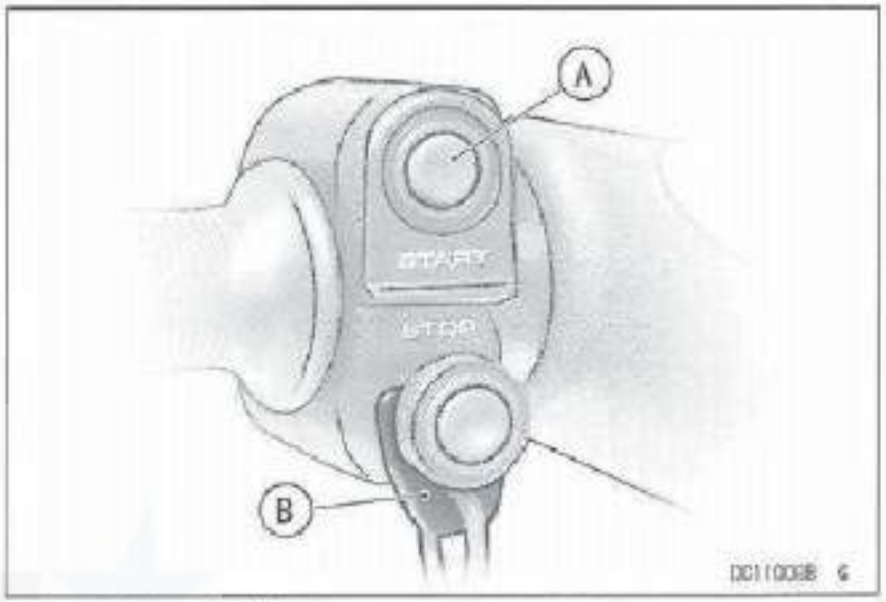


A. ストップボタン
B. キルスイッチコードキー

スタータボタン

● スタータボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。スタータボタンは緑色で、“START”と下方に表示されています。キルスイッチコードキーをストップボタンの下に差し込み、イグニッションキーを差し込んで、スタータボタンを押すとエンジンが始動します。エンジンが始動したらボタンを放してください。キルスイッチコードキーを差し込んでいないと、エンジンは回転も始動もしません。

注意
エンジンが回転しているときや、スタータがまだ回っているときに、スタータボタンを押さないでください。スタータの摩耗を早め、また、スタータの故障の原因になります。



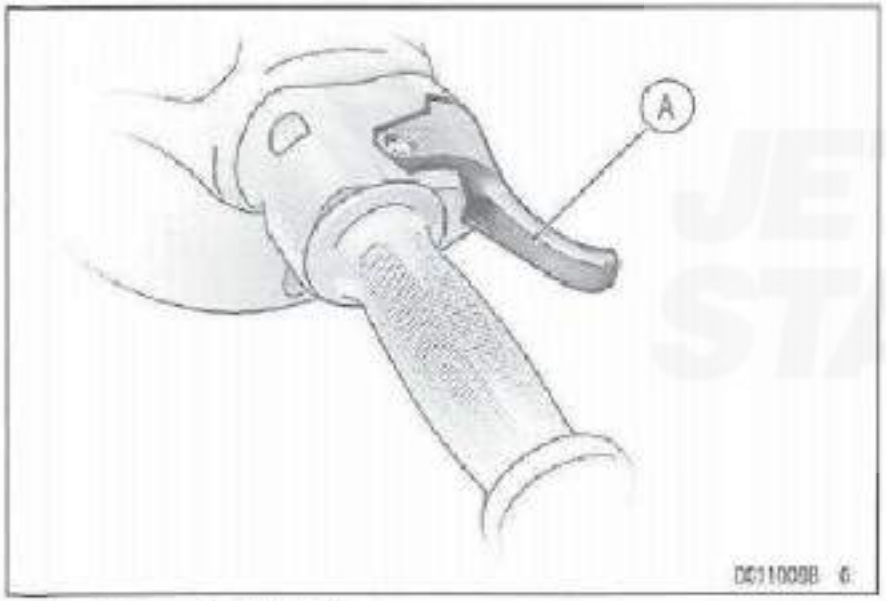
A. スタータボタン
B. キルスイッチコードキー

要点

○ エンジンが始動するためには、イグニションスイッチがキー穴に差し込み、キルスイッチコードキーがストップボタンの下に差し込まれていなければなりません。
○「操縦方法」の章の「エンジンの始動」の項を参照してください。

スロットルレバー

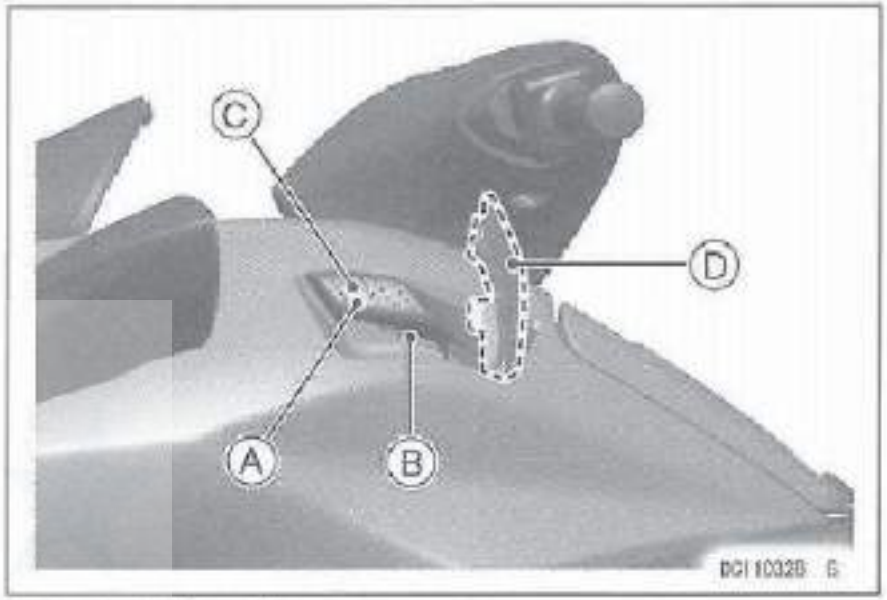
- スロットルレバーはハンドルバーの右グリップに付いています。レバーを手前に引くとエンジンの回転が上がります。レバーを放すとスプリングにより前方に戻ります。エンジン始動前に、スロットルレバーが通常の位置に戻るか必ず点検してください。更にスロットルケーブルには適正な遊びがなくてはなりません。スロットルケーブルの調整方法については「整備と調整」の章をご参照ください。



A. スロットルレバー

シフトレバー

- このウォータクラフトは、スターン（船尾）のステアリングノズルについたバケットの作用で後進ができます。前進、後進切換えのシフトレバーは、ステアリングハンドルバーの左下側にあります。シフトレバーは“F”（前進）と“R”（後進）の二段階になっています。



A. シフトレバー
B. ノブ
C. “F”（前進）
D. “R”（後進）

- 前進から後進に切換えるには、シフトレバーのノブを押し込みながらレバーを上へいっぱい引き上げます。
- 前進へ戻すには、ノブを押し込みながらレバーを下へいっぱい押し下げます。
- 前進から後進へ切換える場合は、その前に必ずスロットルレバーをゆるめて船の速度を落としてください。（「操縦方法」の章の「後進」の項参照。）

⚠ 警告

高速航走中、急にシフトレバーを前進から後進に操作してはいけません。また、ブレーキとして後進を使ってはいけません。ウォータクラフトのバウ(船首)が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。シフトする前に必ず船が停止するまで減速し、また、同乗者に安全のための注意を呼びかけてください。

イグニッションスイッチ

イグニッションスイッチは前部小物入れの中にあります。このウォータクラフトには二種類のイグニッションキーが付いています。ひとつは初心者及び経験の浅い方のためエンジン出力を制限して運転できるもの（SLO）で、もう一方は通常の運転ができるもの（FPO）です。またこのキーにはウォータクラフトの盗難防止のためのイモビライザ機能が付いています。

SLO／FPOモード

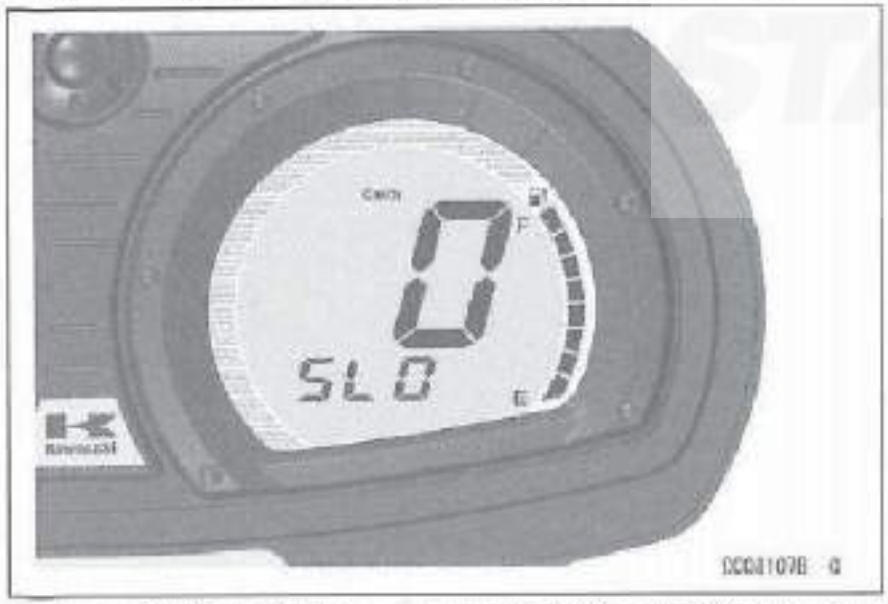
あなたの経験・技量にあわせてエンジン出力を約30%制御したモード（SLO）または通常出力モードの（FPO）いずれかをお選びください。

キーはSLO./FPOモードで色分けがされています。
FPO：オレンジ色
SLO：黄色

またSLOキーにはSLOの文字が表示されています。

FPOキーが使われた時は、マルチファンクションメータには 次の表示が出ます。

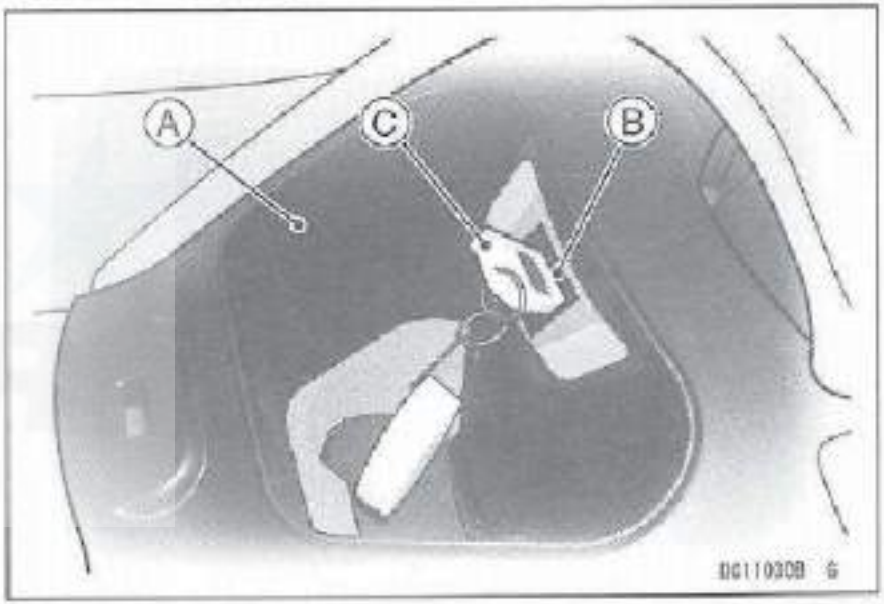
SLOキーが使われた場合は下記の表示です。



SLOの機能の詳細については本節の操縦装置の項をご参照ください。

イモビライザ機能の使い方：

全部小物入れの中にあるキー穴にSLOかFPOのキーを挿入し、さらに奥へ押し込みます。エンジン電子制御ユニット（ECU）とイモビライザキーの間で交信が交わされ、登録されているキーであることが確認されるとLED（赤色）警告灯が点滅し、警告ブザーが吹鳴、その後マルチファンクションメータに初期表示が現れます。この状態でエンジンの始動ができます。



A. 前部小物入れ
B. キー穴
C. イモビライザキー

要点

○ SLOモードからFPOモードへ切り替える、またはその逆の場合には必ずエンジンを停止してください。エンジンが作動したままではモードの切り替えができません。

ウォータクラフト運転中はキーを抜かないでください。キーを無くするとエンジンの再始動ができなくなり、海上で運転不能になる可能性があります。

イモビライザキーの保護のため次の注意事項をお守りください。

注意

- イモビライザキーを高温にさらさない。
- キーを磁石に接近させない。
- キーの上に荷重をかけない。
- キーのプラスチックカバーを損傷しない。
- キーに衝撃を与えない。

もし登録されていないキーを差し込むとマルチファンクションメータのブザーが吹鳴し、LED（赤色）警告灯が点滅し警告を発します。
イモビライザが作動不良を起こした場合も上記の警告が出ます。詳しくはこの章の「マルチファンクションメータ」の節をご参照ください。

要点

○ イモビライザは電波を利用していますので、周囲の他の電波の影響によりキー照合警告が出る場合があります。

盗難防止や許可なくして他人に使われないために、ウォータクラフトの使用後はイグニションキーをキー穴から取り外してください。

キーの制作:
もしキーを紛失した場合は「カワサキ正規取扱店」で新しいキーを制作・入手してください。ウォータクラフトを取扱店へ搬入し、エンジンコントロールユニット（ECU）に新しいキーを登録させてください。ECUに新しいキーを登録するには少なくとも同ECUにすでに登録されたキーがひとつは必要です。もし備え付けのキー（SLO/FPO）を二つとも紛失した場合はECU本体を取り替える必要があります。従ってこれら登録されたキーは別々に保管されることをお勧めいたします。

要点

○ 一度に作れる予備キーの数には制限があります。詳しくは「カワサキ正規取扱店」にご相談ください。

シートラッチ

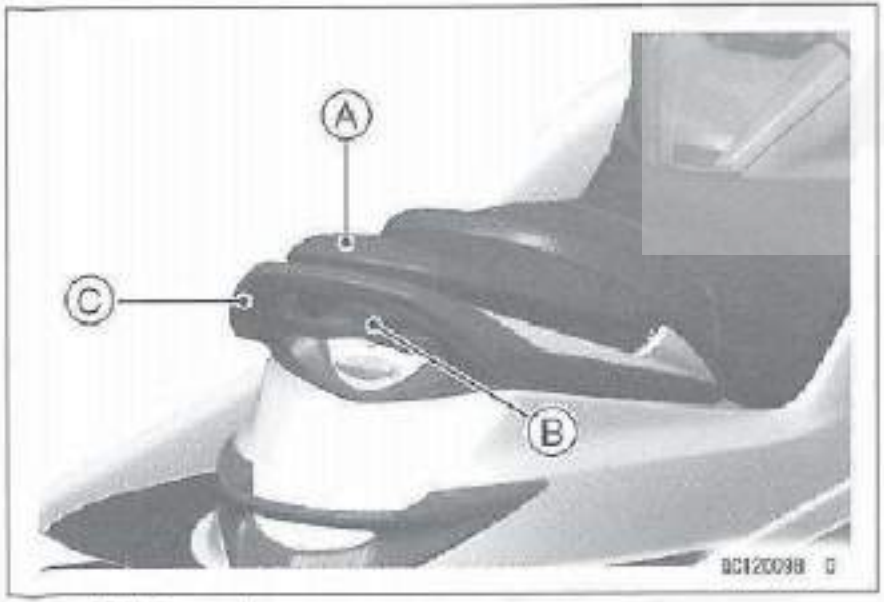
- シートは前後分割タイプです。どちらもシート後部のラッチをはずすことにより、取りはずすことができます。後部シートから外してください。

シートの外し方

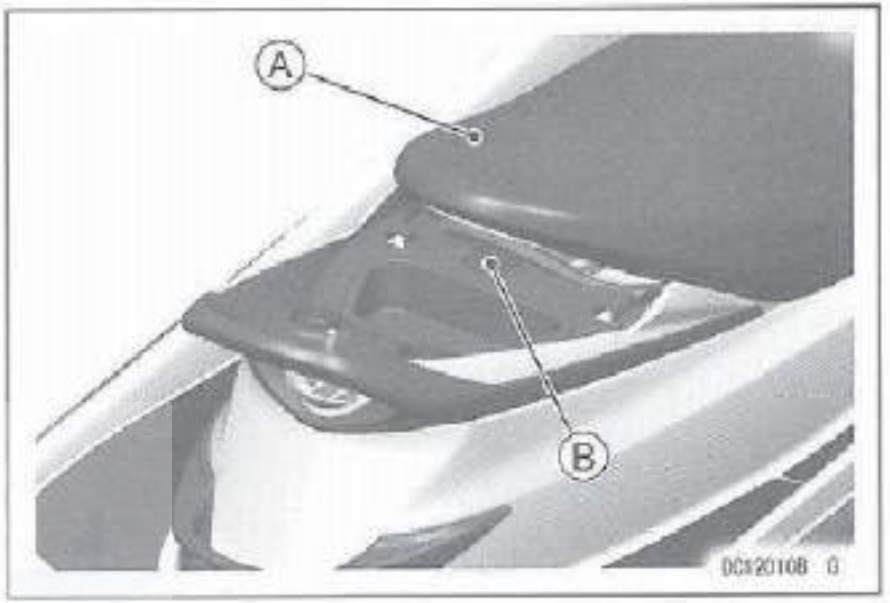
ラッチハンドルを引き、シートを後方へ外します。

シートの取り付け方

シート先端を所定の位置にきっちりと合わせ、シートの後端を前方へいっぱい押します。シートの後部を押し下げ、ロックします。



A. 後部シート
B. ラッチハンドル
C. ハンドレール



A. 前部シート
B. ラッチハンドル

- ウォータクラフトを輸送するときは、シートがガタついて損傷しないようにラッチを完全にロックしてください。
- シート後方のハンドレールは、水深の深い場所から船に上がるためのものです。また、水上スキーヤー等を引っ張っているとき、同乗者は見張りのために後方に向き、シート後方のハンドレールをつかみます。これら以外の目的に使ってはいけません。（「操作方法」の章の「けん引ロープをかける場所」の項参照。）

注意

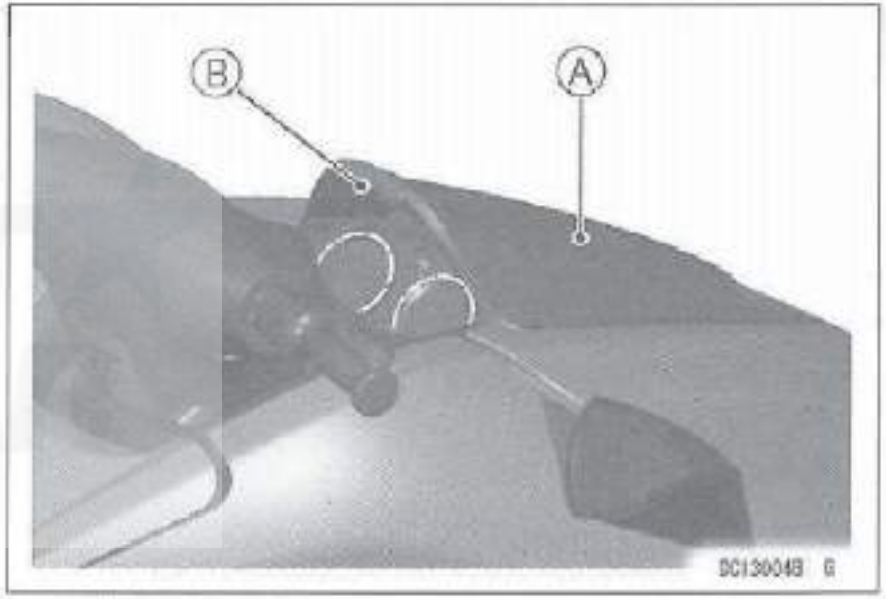
シート後方のハンドレールやけん引フックを使ってウォータクラフトを持ち上げたり、他の船をけん引したり、あるいは船体固定用ベルトでしばりつけたりしないでください。

要点

○ ウォータクラフトに乗船する前にはシートのラッチが確実にロックされていることを確認ください。

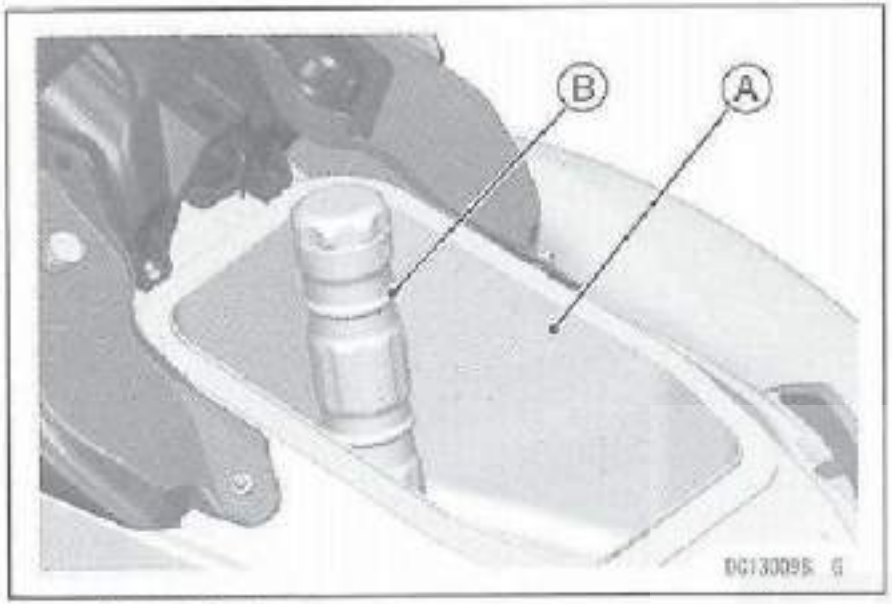
備品入れ

● 備品入れは船首にあります。この取り扱い説明書を防水の袋に入れて、ここに保管してください。開けるときは、ノブを引っ張りふたをいっぱい開きます。閉めるときは、ふたをおろしノブの周りを押してロックします。



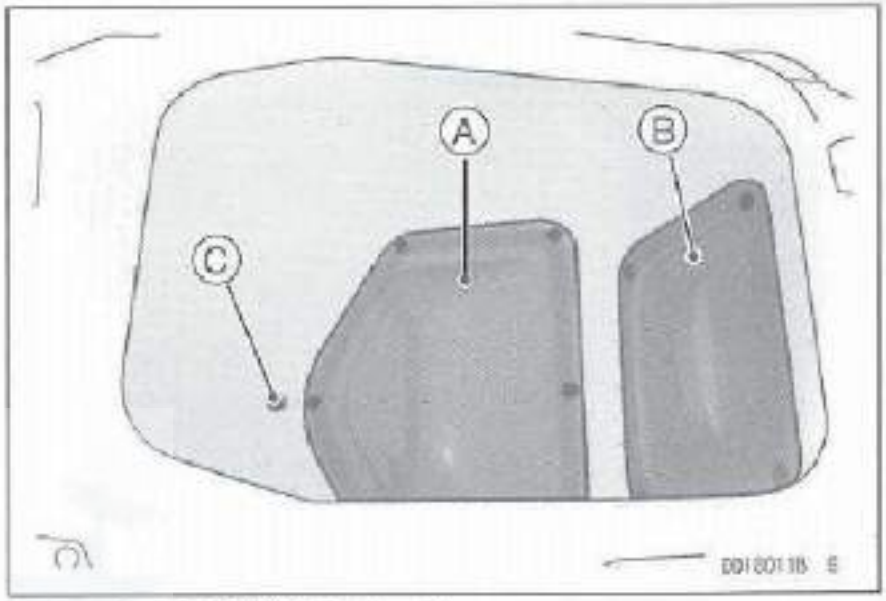
A. 備品入れふた
B. ノブ

● 消火器を格納する容器が備品入れに装備されています。
〔消火器は標準装備ではありません。〕



A. 備品入れケース
B. 消火器容器

● 備品入れケースを取り外せばさらにその下に格納スペースがあります。バッテリやヒューズがここに装備されており底部には水抜き用のドレンプラグがあります。



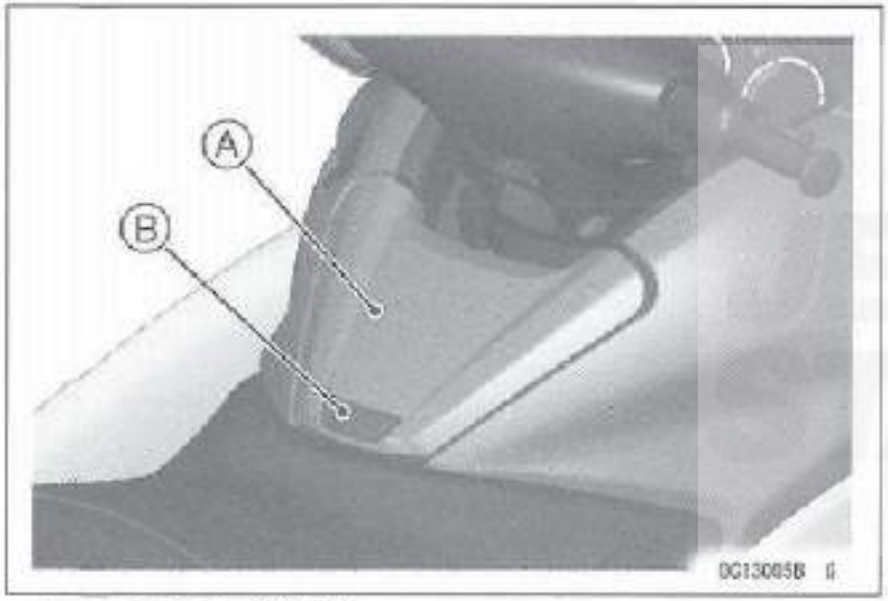
A. バッテリ格納スペース
B. ECUおよびヒューズ格納スペース
C. ドレンプラグ

注意

ウォータクラフト運転時には必ず備品入れケースを取り付けてください。ケースをつけないで航走すると格納スペースに浸水する恐れがあります。

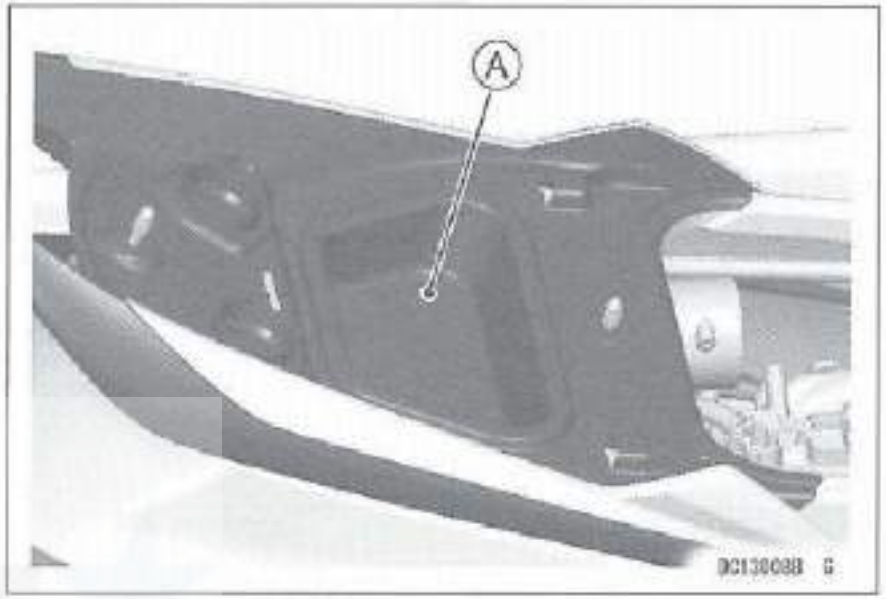
小物入れ

● シートのすぐ前に小物入れ（前部）があります。
開けるときは、ふたのノブの下に指を入れ引き上げます。
閉めるときは、ノブのまわりを押してロックします。



A. 小物入れ（前部）
B. ノブ

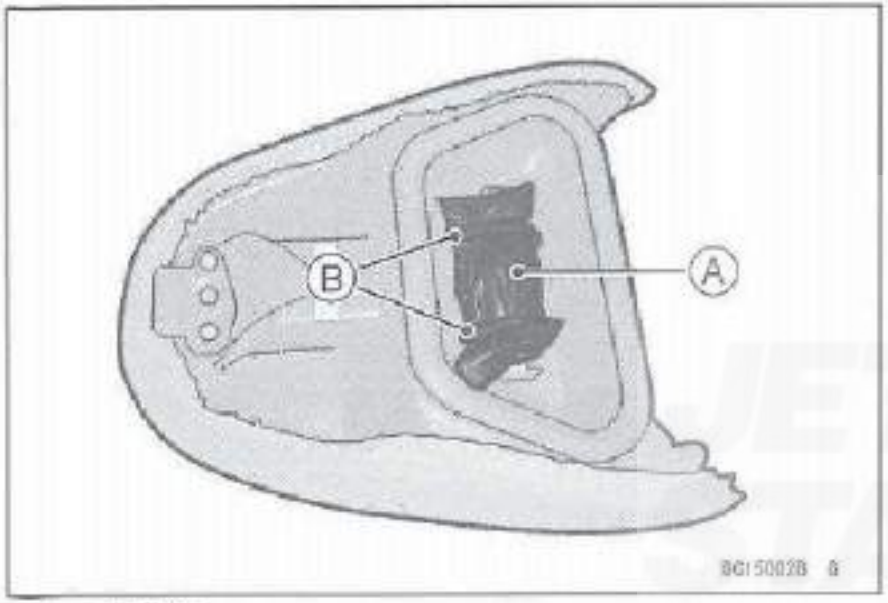
● 後部シートの下に、小物入れ（後部）があります。両方の小物入れには、ごく軽量の物だけを入れてください。



A. 小物入れ（後部）

工具

● 工具は後部シートの裏側に収納されています。工具袋はゴムバンドを外して取り出します。



A. 工具袋
B. ゴムバンド

ビルジシステム

このウォータクラフトにはエンジンルームの後部にバキューム式の排水装置が装備されています。この装置は推進用のウォータジェットによりエンジンルームのビルジを吸引・排水します。水上でエンジンが作動しているときのみ作動します。

注意

定期点検整備表に従って、定期的にビルジ排水装置の作動を確認し、ビルジ吸引口周辺のゴミを取り除いてください。

⚠ 警告

このビルジシステムは事故等によるエンジンルームへの浸水に対処するようには設計されていません。

要点

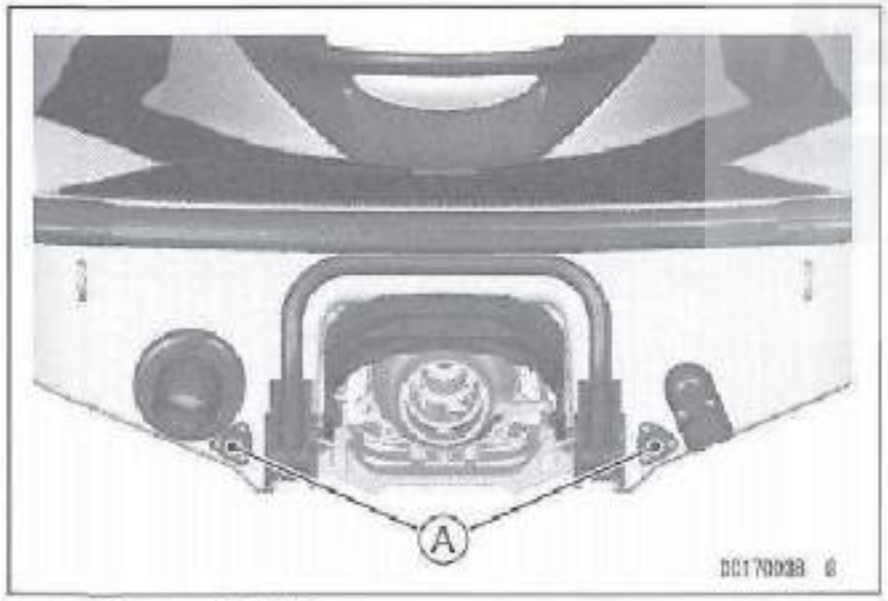
○ エンジンルームの残水を排水するには、ウォータクラフトが陸上にある状態で船体後部のドレンプラグを取り外してください。

ドレンプラグ

- スターン（船尾）には、エンジンルームにたまった水を排出するため2つのドレンプラグがあります。ウォータクラフトを陸上に引き揚げたときだけドレンプラグを外してください。

注意

ウォータクラフトを水上に降す前に、エンジンルームに浸水しないようにドレンプラグをしっかり締めてください。



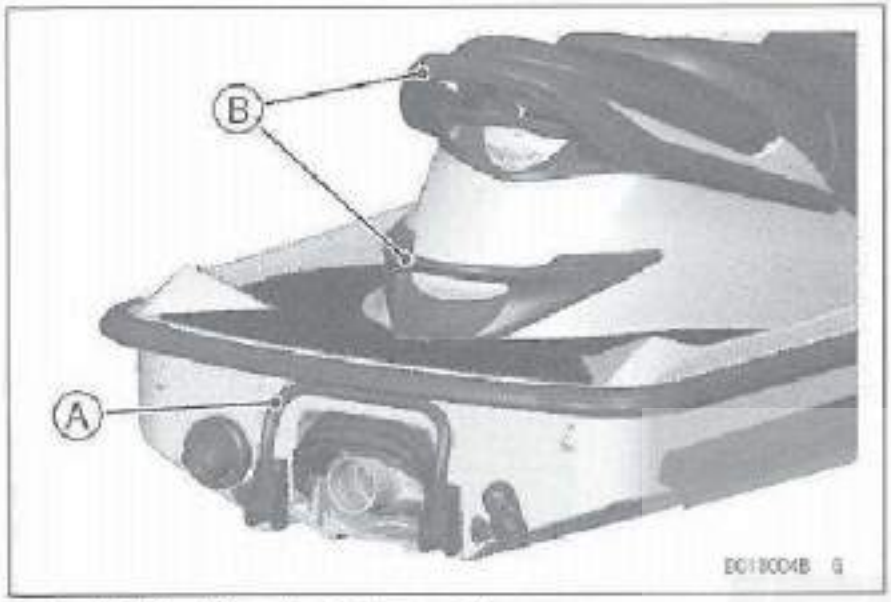
A. ドレンプラグ

リボーディングステップ

- このウォータクラフトには、船尾に折りたたみ式のリボーディングステップが取り付けられています。船尾から乗船するときは、ステップを下へ引き降ろします。放すとスプリングの力でもとの位置に戻ります。このステップとシート後端のハンドレールを使うと、水中からより容易に船に上がることができます。（「操縦方法」の章の「安全な操縦」と「発進」の各項参照。）また、このステップは、水深の深い場所から船に上がるためだけに設計されているので、人をこれにつかまらせて航走しないでください。

⚠ 警告

誰かがリボーディングステップにつかまっているときは、けがを避けるため彼等を水中で引っぱらないでください。



A. リボーディングステップ
B. ハンドレール

JET★STAR

操縦方法

安全な操縦

経験の浅い運転者による操縦

- このウォータクラフトには最高速度を約30%制限する機能、SLO（スマート・ラーニング・オペレーション）モードの機能がついています。
  経験の浅い運転者の方はウォータクラフトの操縦に慣れるまで、このSLO機能を使って操縦してください。詳しくは「一般事項」の章の「マルチファンクションメータ」および「操縦装置」の項をご覧ください。

乗船者の水泳能力

⚠ 警告

道具（たとえ浮袋のような簡単なものでも）を使って水上で遊ぶ人は泳ぎができなければなりません。また、泳いで戻ってくることができる範囲より沖合に出てはいけません。

最大搭載人員

このウォータクラフトの定員は3名（操縦者1名および乗客2名）です。最大積載荷重を超えたり、3名以上の人員（水上スキーをけん引しているときは2名の乗船）を超えないようにしてください。

⚠ 警告

最大搭載人員を超えないようにしてください。また、乗船人員に係わらず、乗船人員および積載荷重の合計が最大積載荷重を超えてはいけません。最大積載荷重を超えると、ウォータクラフトの操縦性・復元性に悪影響を与え、事故の原因になります。航走中はシートに座ってください。

最大積載荷重：	3名または225 Kg（荷物を含む）
デッキ上に積載可能な荷物の制限：	23 Kg

安全運転規則

⚠ 警告

平成15年6月1日以降ウォータクラフトを操縦するには、特殊小型船舶操縦士免許が必要になりました。（新制度の1級、2級小型船舶操縦士免許では操縦できません。但し、それ以前に取得された旧制度の免許では、湖川小馬力以外の5級小型船舶操縦士以上の資格で従来通り操縦ができます。）ウォータクラフトを操縦する際は、必ず免許証を携帯し、安全規則、各地方の条例等を良く確認し、これらに従ってください。

- 航走を始める前には必ず当地の天気予報を確認して、気象の変化に注意しておきます。

注意

一般に陸上より海上の方が気象変化の程度が大きいので、変化には十分注意してください。
気象情報のみにたよらず、観天望気により突風、霧の前兆があれば直ちに帰港してください。
観天望気：雲ゆきや空模様を見るとか、日がさ、月がさ、朝やけ、夕やけ、山の上の笠雲などを観測して判断することです。狭い地域の天気を予測するのに役立ちます。

- エンジンを始動する前に、スロットル、ステアリングおよびシフトレバーが正常に動くか点検してください。これらが故障していると、事故につながることがあります。
- 操縦者は遊泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な速度、距離を保って航走してください。
  - 他のウォータクラフトや船舶などの後を追走しない。
  - 周囲のものに水しぶきが掛かるような距離まで近づかない。
  - 急旋回など周囲の操縦者が避けられないあるいは予測できない航走はしない。
  - 浅瀬や暗礁のある水域は航走しない。
- 発進や急旋回するときは、周囲に十分注意してください。ウォータクラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、周囲の人が思っているより早く旋回できるからです。旋回する前にいつも後から他のボートなどが近づいて来ていないか、ふり返って確かめてください。バックミラーだけに頼ってはいけません。ボートの方向、距離、スピードを誤って判断したり、または全く見えなかったりするかも知れません。
- 操縦者は早めに行動を起こし、衝突防止に努めてください。ウォータクラフトも一般船舶と同様にブレーキ装置はありません。
- 航走中ずっと同乗者はバランス保持のため両足をデッキにおき、すぐ前の人の体につかまるか、シートバンドをつかんでおいてください。そうしないとバランスを失ってけがをすることがあります。決して同乗者は操縦者の前に乗せないでください。
- 操縦者は落水したときエンジンが停止するようキルスイッチコードを手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにしてください。下船後は子供や他の人が使えないように、キルスイッチコードをウォータクラフトから外してください。（「エンジンの始動」の項参照。）
- 酒気を帯びたり、または正常な運転や判断を妨げるおそれのある薬物を服用して、ウォータクラフトを運転してはいけません。
- 乗船者は、JCI（日本小型船舶検査機構）認定のライフジャケットを必ず着用してください。ライフジャケットは身体に合ったものを使用してください。
- 乗船者は身体を保護できる衣服を着用してください。落水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、体腔内に水が入り負傷するおそれがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。身体を保護できるウェットスーツパンツ等を必ず着用してください。

- ウォータクラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なゴーグル等をかけて安全をはかってください。
- 水深の浅い場所で水中に降りたとき、水中にかくれている貝がらや岩などにより、足にけがをすることがあります。操縦者も同乗者もデッキシューズ、テニスシューズ等を履いて、足の保護をはかってください。
- ウォータクラフトを前進中に後進へシフトするときは、徐々に減速してからシフトレバーを操作してください。また、シフトする前に同乗者に知らせて、安全のための注意を呼びかけてください。そうしないと、船首が水中に突っ込んで、同乗者がけがをするおそれがあります。
- 旋回するためにはジェットノズルからの推力が必要です。スロットルレバーを完全に放すと旋回能力が落ち、障害物を避けようとしても避けられないおそれがあります。
- 他のウォータクラフトをけん引しているときは、注意が必要です。けん引はハンドル操作に影響があり、危険な状態を引き起こすおそれがあります。
- このウォータクラフトは転覆しても自動復元しません。従って、操縦する人は誰でも船の正しい起こし方を知っていなければなりません。（ウォータクラフト“ジェットスキー”の乗り方の転覆したウォータクラフトの起こし方の項参照。）
- ウォータクラフトは日没後、操縦しないでください。夜間も操縦できるように設計されていませんし、灯火もありません。
- ジェットポンプが詰まり、事故の原因となるので、雑草・海草や浮遊物の多い所で操縦しないでください。
- インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあるので、浅瀬で操縦しないでください。
- 他のボート、特に水上スキーをしているボートには注意してください。
- 決して水上スキー用のジャンプ台をとび越えないでください。ウォータクラフトの損傷や、操縦者と同乗者のけがのもとになります。
- 悪天候や荒波では危険ですからウォータクラフトを運転しないでください。重大な海難事故につながることがあります。
- 波を横切る前に、速度を落としてください。荒波の中を高速で航走すると、脊髄、腰や足をいためることがあります。
- 同乗者がリボーディングステップを使う前に、操縦者は必ずエンジンを止め、キルスイッチコードキーを抜いてください。同乗者がリボーディングステップの上で足をすべらせて、すき間にはさまれた状態で水中を引きずられると、けがをするおそれがあります。同乗者は、エンジンの回転中はリボーディングステップを使用しないでください。
- 操縦者は、視界の良し悪し、他の船の往来、天候、波の状態などを考えて安全なスピードを判断しなければなりません。波がぶつかり合うような水面では、ウォータクラフトの航走特性はかなり影響されることがあり、操縦者や同乗者が落水する原因になることがあります。さらに、

悪条件のもとでフルスピードで航走しようとすると、船が予想外の動きをする原因になり、乗船者がけがをするおそれがあります。

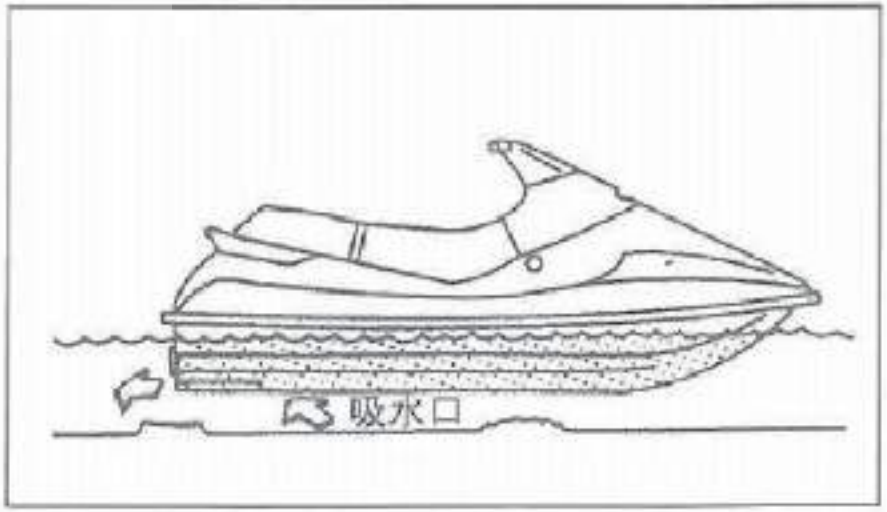
注意
波に向かってぶつかる乗り方をすると、ウォータクラフトに過激な力がかかり、船体の破損の原因になります。

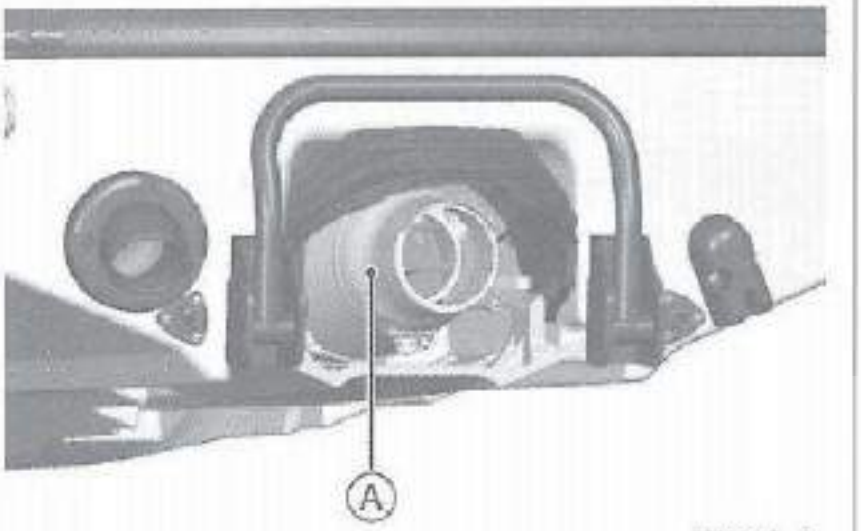
ジェットポンプに関する注意

ジェットポンプはもともとプロペラ推進より安全になっていますが、次の特別な注意が必要です。

⚠ 警告

エンジンが回転中は、けがをするおそれがありますので、ジェットポンプの吸水口（船底の中央後部）に手、足、衣類等を近づけたり、船尾のステアリングノズル（ジェットノズル）に物をさし込まないでください。
ウォータクラフトの背後に人がいるときはスロットルを開けないでください。エンジンを停止させるか、アイドルスピードにしてください。スロットルを開けると、ジェットノズルから排出される水や異物でけがをするおそれがあります。
エンジン運転中はジェットポンプの吸水口に近づかないでください。長い髪、だぶついた衣服、ライフジャケットの紐等が巻き込まれて、けがをしたり、溺れたりするおそれがあります。



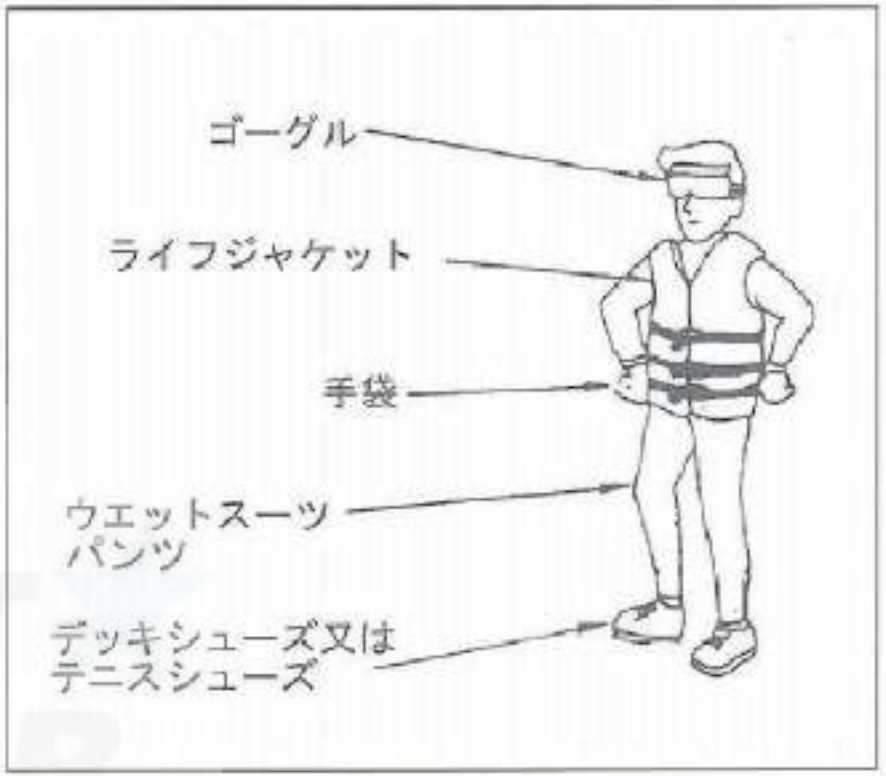


A. ステアリングノズル

乗船者の安全装備

⚠ 警告

乗船者は、JCI(日本小型船舶検査機構)認定のライフジャケットを必ず着用してください。ライフジャケットは身体に合ったものを使用してください。
乗船者は身体を保護できる衣服を着用してください。
落水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、体腔内に水が入り負傷するおそれがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。身体を保護できるウェットスーツパンツ等を必ず着用してください。
シューズ、手袋、ゴーグル(保護眼鏡)も着用してください。



⚠ 警告

ウォータクラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なゴーグル等をかけて安全をはかってください。
水深の浅い場所で水中に降りたとき、水中にかくれている貝がらや岩などにより、足にけがをすることがあります。乗船者はデッキシューズ、テニスシューズ等を履いて、足の保護をはかってください。

ヘルメット着用の選択

ウォータクラフトでヘルメットを着用する前に、その利点と危険をよく考慮して選択してください。

安全性:

ヘルメットはレース中の転倒等、固いものにぶつかった際、頭部を保護します。

危険性:

ヘルメットの着用は周りの視野を制限し、その重みで疲れを増すことがあります。また、水中に転落したとき頸部とのどに負担をかけ、重大なけがをする原因になるおそれがあります。

積載

⚠ 警告

不適切な荷物の積載やアクセサリの使用、またはウォータクラフトの改造は、船の操縦安定性に悪い影響を与え、航走条件を危険にします。乗る前に積載過剰になっていないか、また、以下の指示に従っているか、必ず確認してください。

最大積載量

- 3名または225 kg(荷物を含む)以内。
- 後部デッキに積む荷物は23 kgを超えないこと。

重要

カワサキウォータクラフト用純正アクセサリーはその製品およびカワサキのウォータクラフトへの取付けに関して安全に設計されています。アクセサリーを装備させる時は必ずカワサキの純正アクセサリーをご使用ください。

純正以外のアクセサリーを使用されますと、カワサキはその安全性に関して確認することができません。また純正以外のアクセサリーの不適切な取り付け・使用およびウォータクラフトへの改造はウォータクラフトに事故および不具合を生じる危険性があり、保証の対象にならない場合があります。

このようにカワサキの純正以外のアクセサリーを使用したり装備をする場合は、あなた自身およ

びあなたの周りの人達への安全に関して、十分な責任をお持ちください。

ウォータクラフトは重量配分の変化に敏感です。荷物を積んだり、同乗者を乗せるときや、アクセサリをつけるときは、最大の注意を払ってください。以下の一般的なガイドラインを参考にして決めてください。

- 同乗者が不適切な座り方をしたり、突然動いたりすると、ウォータクラフトのコントロールに影響を与えることがあります。航走中は、同乗者はじっと座って操縦の邪魔をしないことが重要です。また、船に小動物を乗せてはいけません。
- 乗船する前に、操縦者は同乗者に対してすぐ前の人につかまるかシートバンドやハンドレールをつかむように、また、バランス保持のため両足をデッキにおくように指示しなければなりません。
- シート後部の広いデッキを荷物の積載に使ってください。ばらばらの荷物は船から落ちて紛失しないように、浮力のある容器に必ず収納してください。ばら積みの荷物やロープは海に落ちて、吸水口の格子やポンプにからみつくおそれがあります。
- カーゴネット（標準装備部品ではありません。）や適当なロープを使って荷物を後部デッキに固定してください。けん引用フックや船尾のえい航用フックを利用します。後部デッキには最大23 kgを超えて荷物を積んではいけません。
- 航走中に荷物が動くことがないことを確認してください。できるだけ何回も荷物の固定具合を点検し、必要ならば締め直してください。
- 視界をさまたげたり、操縦者の船のコントロール能力に影響を与えるような大きい、またはかさばった荷物を積まないでください。また、船の性能を落とすようなアクセサリを付けたり、荷物を運ばないでください。

⚠ 警告

後部デッキに積んだ荷物は、乗船を妨げ、バランスをくずすおそれがあり、そのためけがをすることがあります。乗船の妨げにならないように、荷物を積んでください。

A. けん引フック
B. 後部デッキ
C. ハンドレール
D. えい航用フック

トーイング（ウエイクボード／水上スキー等の定員1名のけん引物）

トーイングは、3人で行うスポーツです。

バックミラーがプレーヤー（ウエイクボード／水上スキー等の定員1名のけん引物に乗っている者、以下プレーヤーと言う）の見張りに使えると考えてはいけません。操縦者、後方を向いて座る見張り役の同乗者およびプレーヤーは、3人のそれぞれの装備、航行規則、責任、合図、そしてこのスポーツの基本を知っていなければなりません。

他のボートや建造物および遊泳者との衝突する危険を減らすために、混み合った水域では行わないでください。岸や浅瀬から少なくとも使用するトーイング用ロープの2倍の距離を保ってください。トーイングしている状態で他のボートの前方を横切ってはいけません。ダレンデの中には、それぞれ決められた条例、規則がありますので遵守してください。

操縦者の役割

操縦者はトーイングの全ての行為と安全に責任があります。トーイングをしているときは、細心の注意を払ってください。他の船は、あなたのウォータクラフトがトーイングしているとは思っていないかもしれません。プレーヤーが転倒した場合、直ちにその場所に戻りゆっくりと近づいてください。

トーイングロープがぴんと張るまでアイドリング速度で航行します。プレーヤーが準備完了の合図をしたら操縦者はウォータクラフトの前方および周囲の安全を確認し、プレーヤーを引き起こせる様に速度を調整します。プレーヤーを引き起こせたら一旦スロットルをゆるめ、もう一度前方および周囲にボートや障害物が無いかを確認します。またトーイング用ロープがプレーヤーに巻きついていないか見張り役に確認します。

常にプレーヤーの能力に応じた速度で航行してください。初心者に適した速度は概ね30から40 km/hです。プレーヤーが楽しくトーイング出来る様に常に見張り役と協力しプレーヤーからの合図を確認してください。プレーヤーが旋回する際にプレーヤーの体重と速度がウォータクラフトの操縦に影響することがありますので充分注意してください。

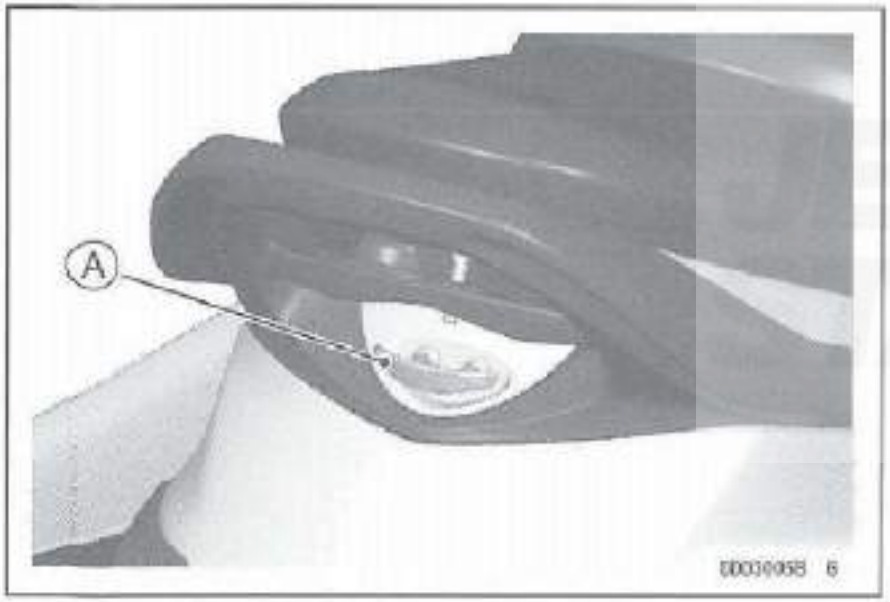
操縦者は、常にトーイングしている事を考え、安全でゆとりのある航行に心掛けてください。また見張り役やプレーヤーがトーイング用ロープを手繰り寄せている等、不安定な態勢の時はウォータクラフトを加速したり航行してはいけません。

見張りの役割

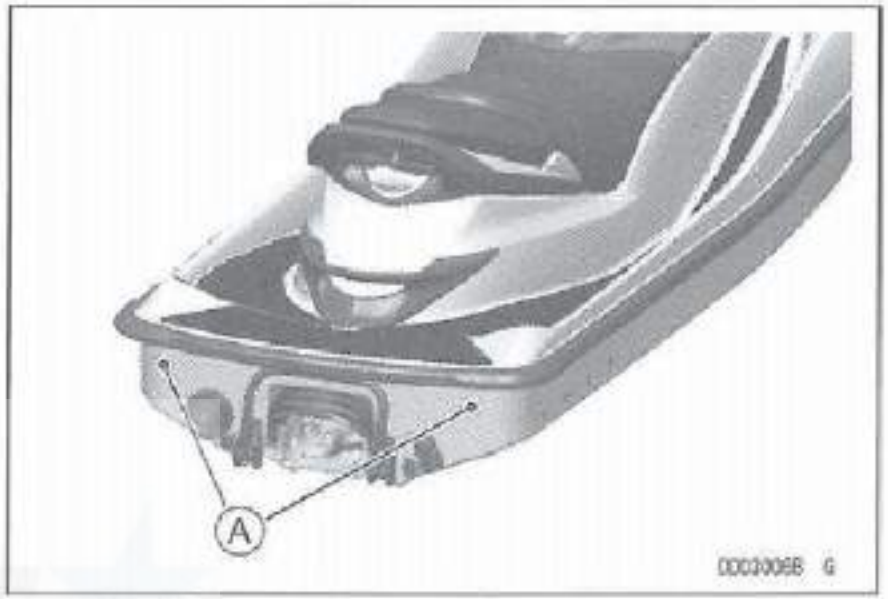
見張りの役割は、プレーヤーのすべての合図を操縦者に伝えプレーヤーに転倒等の危険が生じた場合は直ちに操縦者に知らせることです。見張り役は、プレーヤーを見張るために後方を向いて座りハンドレール（グリップ）をしっかりつかんでいなければなりません。また見張り役は、トーイング用ロープが吸水口に吸い込まれない様に注意しなければなりません。

トーイング用ロープをかける場所

トーイングするときは、シート後端下部にあるトーイング用フック以外にロープをつないではいけません。えい航するときは、船尾のえい航用フックにロープをつないでください。えい航するときは細心の注意を払ってください。ウォータクラフトの操作性に影響し、危険な状態を生じる可能性があります。また他の船は、あなたの運転するウォータクラフトがえい航しているとは思っていないかもしれません。



A. トーイング用フック



A. えい航用フック

乗る前の点検項目

● 毎回ウォータクラフトを使用する前に、必ず次の事項を点検してください。

ウォータクラフトの外側

1) **ポンプの清掃**:吸水口、ジェットポンプ、ドライブシャフト等から異物を取り除いてください。
2) **ポンプカバー**:ジェットポンプカバー、吸水口格子に緩みがないか点検し、必要なら取付けボルトを締めてください。
3) **船体の損傷**:船体の損傷を点検してください。
4) **ドレンプラグ**:スターン（船尾）のドレンプラグが確実に締められているか確認します。

ウォータクラフトの内側

5) **ステアリング**:ステアリング系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検してください。必要であればケーブルを調整してください。（「整備と調整」の章参照。）ステアリングケーブルは両端をシールしてあり、潤滑は不要です。もし、シールが破損していれば、ケーブルごと交換してください。
6) **シフトレバー**:シフトレバーを“F”（前進）、“R”（後進）のそれぞれの位置に動かしてみて、ひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか点検します。また、スターン（船尾）のリバースバケットが、シフトレバーの動きと正常に対応して動くか点検します。（「整備と調整」の章参照。）
7) **スロットルコントロール**:スロットル系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検し、必要であれば調整します。（「整備と調整」の章参照。）スロットルレバーは手を放すと完全にもとの状態に戻らなければなりません。

⚠ 警告

もし、スロットルレバーがなめらかに、完全に戻らないと、操縦不能になるおそれがあります。

8) **エンジンルームの換気**:備品入れのふたを開け、シートを外し、小物入れ（後部）を取り出して、数分間エンジンルームの換気をします。

⚠ 警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

9) **バッテリーターミナル**:バッテリーターミナルのスクリュがしっかり締まっているか、また、ターミナルカバーが確実に取り付いているか点検します。

⚠ 警告

バッテリケーブルの取り付けが緩むとスパークが発生し、火災や爆発が起こり、負傷や死亡するおそれがあります。バッテリーターミナルのスクリュはしっかり締め付け、カバーをターミナルにかぶせてください。

10) **燃料タンク内の圧力**:燃料注入口キャップを開き、タンク内の圧力を逃がします。キャップはしっかりと閉めてください。
11) **燃料**:燃料タンク内の量を点検します。必要ならば燃料を補給します。
12) **エンジンオイル**:エンジン内のオイルを点検します。必要ならば補充します。
13) **燃料漏れ**:エンジンルーム内に燃料漏れがないか点検してください。
14) **オイル漏れ**:同時にオイル漏れがないか点検します。
15) **ファスナ**:ボルト、ナット、クランプ等に緩みがないか点検し、緩みがあれば締めてください。
16) **ホースの接続**:すべてのホースが確実に接続され、また、すべてのホースのクランプがしっかりと締められているか確認してください。また、すべてのホースを点検し、劣化やひび割れがあれば交換してください。
17) **ビルジ(あか)の排水**:エンジンルームに水がたまっていれば、ドレンプラグを外して水を出してください。排水後、ドレンプラグをしっかり締めます。
18) **キルスイッチコード**:エンジンを始動して、数秒間回転させます。(「エンジンの始動」の項参照。)コードキーをストップボタンから抜いて、エンジンが停止するか確認します。

⚠ 警告

密閉された場所でエンジンを運転しないでください。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

注意

水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

19) **ストップボタン**:再びエンジンを始動して数秒間回転させます。ストップボタンを押して、エンジンが停止することを確認します。
20) **シート**:シートのラッチが完全にロックされているか確認します。
21) **備品入れ**:カバーが確実にロックされていることを確認します。
22) **乗船者の安全装備**:操縦者と同乗者は常にライフジャケットを着け、その他安全装備をしてください。
23) **マルチファンクションメータ**:各メータ類の作動を確認します。「一般事項」の章を参照してください。

ならし運転

- 新しいウォータクラフトは、ならし運転が大切です。これは、機械部品の各摺動部になじみをつけ、偏摩耗を防ぎ、また、表面を滑らかにするためです。エンジン始動後、最初の5分間はエンジン回転を2 500 rpm以上に上げないでください。最初の5時間は急激な加速や長時間の全開運転をしないでください。この間は全開の3/4以下で運転してください。一定の速度で長く運転せず、ひんぱんに速度を変えて運転してください。
- ならし運転期間中、ウォータクラフトを注意深く取り扱うと、より効率よく、信頼性の高い性能が確保でき、長持ちにつながります。
- 上記ならし運転に加えて、最初の10時間運転後、整備工場で定期点検整備を受けてください。「整備と調整」の章の「定期点検整備表」をご参照ください。

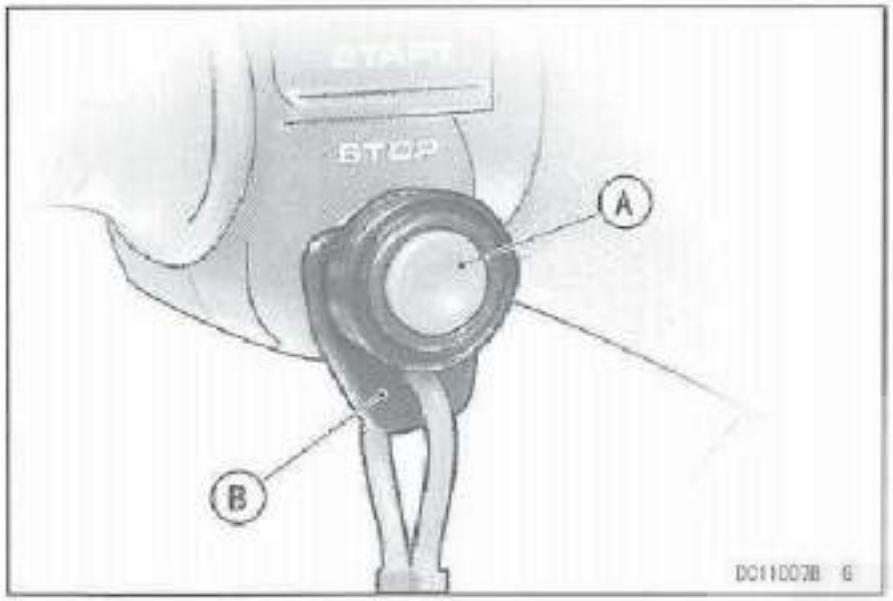
エンジンの停止

エンジンは次の二つの方法のどちらか一つによって、止めることができます。

- 赤色のストップボタンを押します。押し続ける必要はありません。エンジンが停止すると、ストップボタンはもとに戻り、始動できる状態になります。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜きます。エンジンを再び始動させるためには、コードキーをストップボタンの下に差し込まねばなりません。どちらの方法でエンジンを止めても、イグニションキーをキー穴から抜いてください。

⚠ 警告

エンジンが停止すると、ウォータクラフトの進路変更ができなくなります。



A. ストップボタン
B. キルスイッチコードキー

● もし、緊急にエンジンを停止しなければならないときは、赤色のストップボタンを押すか、またはコードキーを抜いてください。

考えられる緊急事態とは：
＊ エンジンの回転をコントロールできなくなったとき。
＊ スロットルレバーが指を放しても完全に戻らないとき。

⚠ 警告

もし、スロットルが正しく作動しないときは、原因を見つけて修理するまでウォータクラフトを運転しないでください。下船後は子供や他の人が使えないようにキルスイッチコードをウォータクラフトから外してください。

注意

エンジン停止中はイグニションキーを外してください。"ON"のまま放置するとバッテリが上がります。

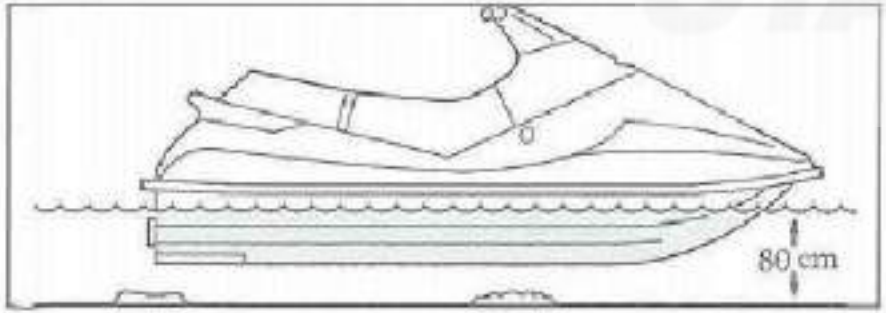
エンジンの始動

- ウォータクラフトを水上に下ろす前に、この章の「乗る前の点検項目」の項をよく読み、その指示に従ってください。
- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、前後シートを外して数分間換気してください。

⚠ 警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 雑草・海草や浮遊物のない水深80 cm以上の所に船体を浮かべます。前方に泳いでいる人達がいないか、また、ボートや障害物がないかよく確認します。



注意

ウォータクラフトを始動するときは、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が80 cm以上の所で行ってください。

- シートに座り、コードキーをストップボタンの下に差し込み、落水したときにエンジンが停止するっようコードのもう一方の端を手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにします。コードを引っ張ってみて、しっかり手首にはまっているか確認してください。

要点

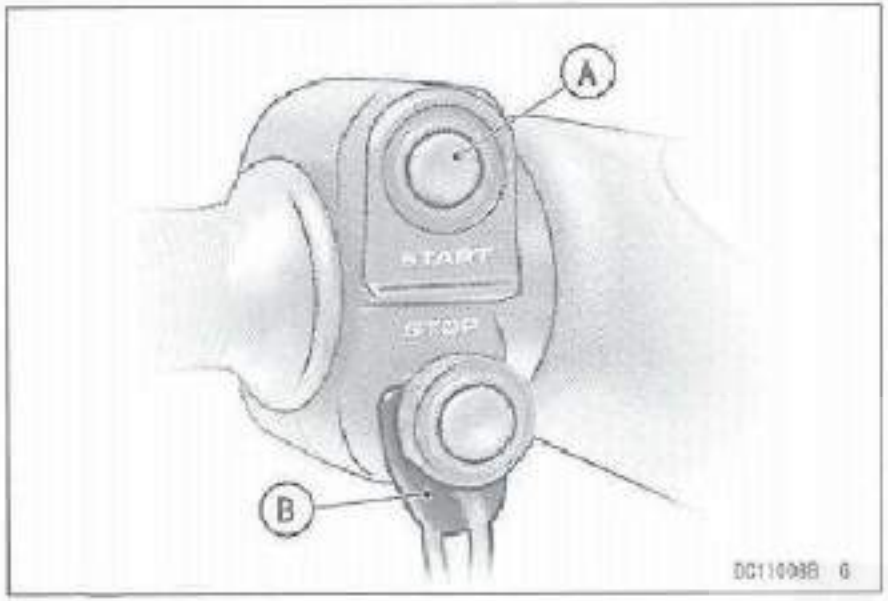
○ キルスイッチコードキーがストップボタンに差し込まれていないと、エンジンは回転も始動もしません。

- イグニッションキーをキー穴に差込み奥まで押し込みます。

要点

○ このウォータクラフトにはSLOとFPOの二つのキーが装備されています。あなたの経験・技量にあったほうを選んでください。またこのキーにはイモビライザ機能が付いています。登録されたキーをご使用ください。詳しくはこの章の「イグニッションスイッチ」の項をご参照ください。

- ウォータクラフト運転中はキーを常にキー穴に差し込んだままにしておいてください。キーが無くするとエンジンの再始動ができなくなり海上で運転不能になる可能性があります。
- 左手で緑色のスタータボタンを押し、エンジンが始動したら放してください。もし、エンジンが5秒以内に始動しないときは、スタータボタンを放してください。15秒間待って再び始動させてください。数回試みても始動しないときは、「トラブルシューティング」の章を参照してください。



A. スタータボタン

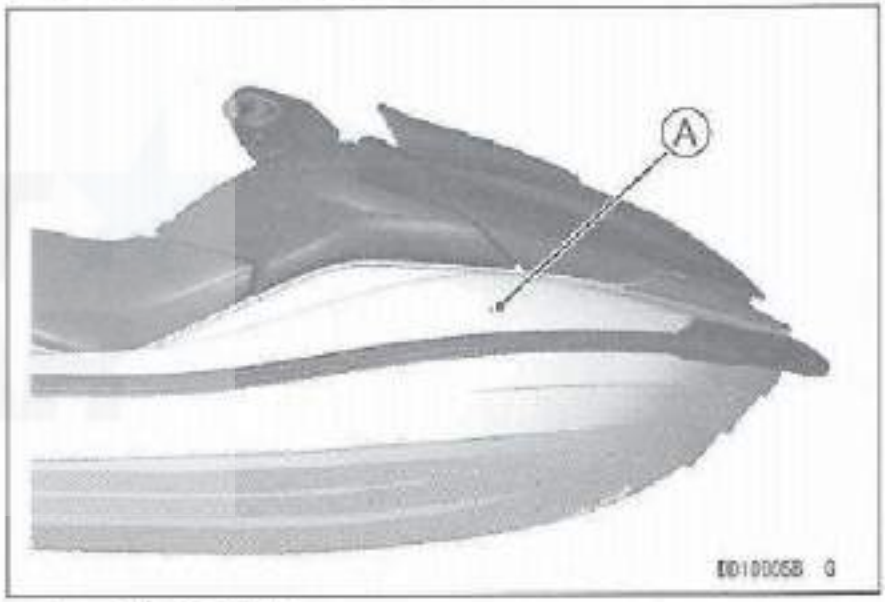
要点

○ エンジンが始動しないときは、15秒間隔で始動を行ってください。こうすることはバッテリやスタータの寿命を延ばすことになります。

注意
エンジンが回転しているときや、スタータがまだ回っているときに、スタータボタンを押さないでください。スタータの摩耗を早め、故障の原因になります。

● エンジン始動後、約1分間暖機運転をします。ときどきスロットルレバーを少し引いて回転を上げます。長時間のアイドリングはスパークプラグを汚すことになります。

● スロットルレバーを引いたとき、船体の右側のバイパス出口から水が出てくるか確認してください。これは冷却水が循環していることを示しています。もし、水が出てこなければエンジンを停止し、原因を調べます。排気系統に水が入っていないときは、バイパス出口に水が出てくるまで15秒ほどかかります。



A. バイパス出口

発進

桟橋からの発進

- 桟橋からウォータクラフトの上に飛び降りてはいけません。
- まず桟橋側のデッキに片足をおき、次にハンドルバーをもち体重を移動させて船のバランスをとりながらシートにまたがって座ります。
- シフトレバーが前進しようとする場合は“F”に、後進の場合は“R”になっているか確認します。
- 桟橋を離れるときは、船を押してもらうか、または船尾の水面に十分余裕ができるまで桟橋から浅い角度で船を動かします。ウォータクラフトは船首で回るのではなく船尾で回るので、桟橋に当たらないように十分注意してください。
- 前方に障害物等がないか確認して、ハンドルバーを走る方向に向けます。

⚠ 警告

進行方向にいるボートや障害物に注意してください。これは危険防止のため、初心者には特に重要なことです。

- スロットルレバーを引いて旋回ができる推力を出します。

注意

桟橋から離れるときは、急旋回や急加速を避けてください。そうしないと船尾が桟橋に当たり、損傷するかも知れません。操縦者は急激な操作をする前には、旋回する余裕が水面にあるか必ず確認してください。

- 広い水面に出ていくに従って、徐々に加速します。
- スピードが上がるにつれてウォータクラフトは水平になって滑走します。
- いったん滑走状態になったらスロットルを戻し、好みのスピードで走ってください。
- 進行方向のボートや泳いでいる人達、また、障害物に絶えず注意してください。

ランプからの発進

- ウォータクラフトを水上に降ろす前に、「乗る前の点検項目」の項の各項目を確認してください。
- 同時に、ランプの表面の状態、傾斜および幅が、トレーラやけん引車に適しているか点検してください。

注意

ウォータクラフトが浸水しないように、スターン(船尾)のドレンプラグがしっかり締められているか点検してください。

- 適当なロープをウォータクラフトが遠くに行かないように取り付け、トレーラに縛り付けられたひもをときます。

- ウォータクラフトをトレーラと共に水中へ入れます。
- ウィンチのロックを外し、ウォータクラフトをゆっくり押してトレーラから離します。
- トレーラを水中から引き揚げます。

水深の深い場所での発進

一人乗りの場合

- ウォータクラフトの後部へまわります。
- エンジンが止まっていることを確認します。
- シート後端のハンドレールか、またはその下のトーイング用フックをつかみ、リボーディングステップを下ろします。はじめに片ひざ、次に片足または両足をステップにおいて体をデッキの上へ引き上げます。次に片ひざづつデッキ後部にのせます。船に上がるとき、ステップや船上ですべらないように注意してください。
- シート中央のバンドをつかんで、船のバランスをとりながらデッキに両足をおきます。
- シートにまたがって座ります。

二人または三人乗りの場合

- 操縦者が船のバランスをとっている間に、同乗者は後部から一人乗りの場合と同じ要領でウォータクラフトに上がります。

⚠ 警告

同乗者がリボーディングステップを使う前に、操縦者は必ずエンジンを止め、キルスイッチコードキーを抜いてください。同乗者がリボーディングステップの上で足をすべらせて、すき間にはさまれた状態で水中を引きずられると、けがをするおそれがあります。
同乗者は、エンジンの回転中はリボーディングステップを使用しないでください。

水深の浅い場所での発進

- ウォータクラフトを浅瀬にけい留するときはいつも砂や岩場を引きずらないでください。これは船体の傷を減らし、砂や岩がジェットポンプの中に入り、再始動時、ジェットポンプが損傷することを防ぎます。
- 海岸に引きあげたウォータクラフトの中に砂や岩が入ったときには、水中にて船尾を何回も大きく上下させ、ジェットポンプの中を洗浄します。

注意

ウォータクラフトを始動するときは、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が80 cm以上の所で行ってください。

- 船の左右どちら側からでも、また、後部からでも乗ることができます。どの場合でも、乗るときはウォータクラフトが安定するようにバランスをとってください。

停止

通常停止

⚠ 警告

フルスピードで滑走中は、動いている物や止まっている物から100 m以内に直進して近づかないでください。止まりたい場所に近づく前に必ずスロットルレバーを戻してスピードを落としてください。ウォータクラフトにブレーキをかけるつもりで後進へシフトしてはいけません。バウ(船首)が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。

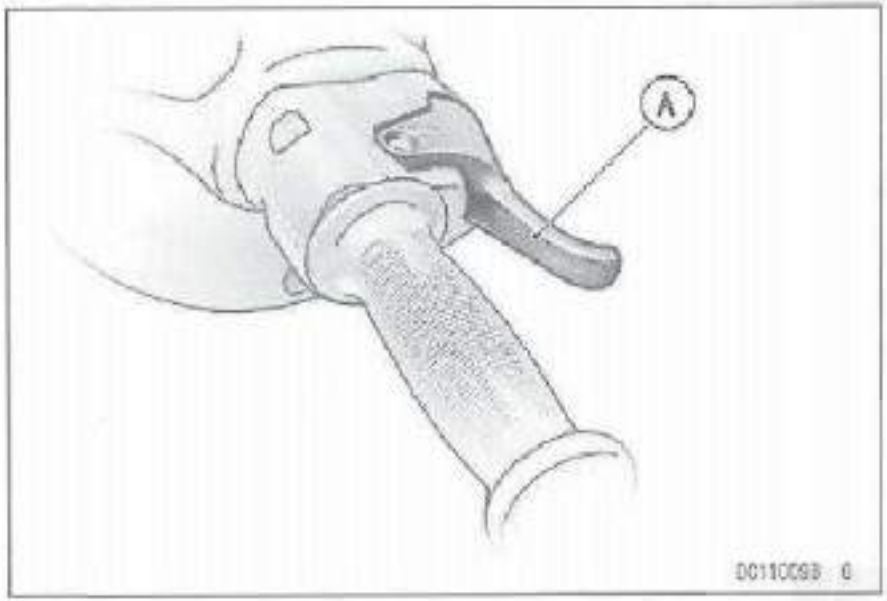
このウォータクラフトは、次の順序で水の抵抗を利用して停止します。

1. 止めようとする区域に到着する前に、スロットルレバーを放します。
2. アイドリング状態のまま、停止区域へ向かって進みます。

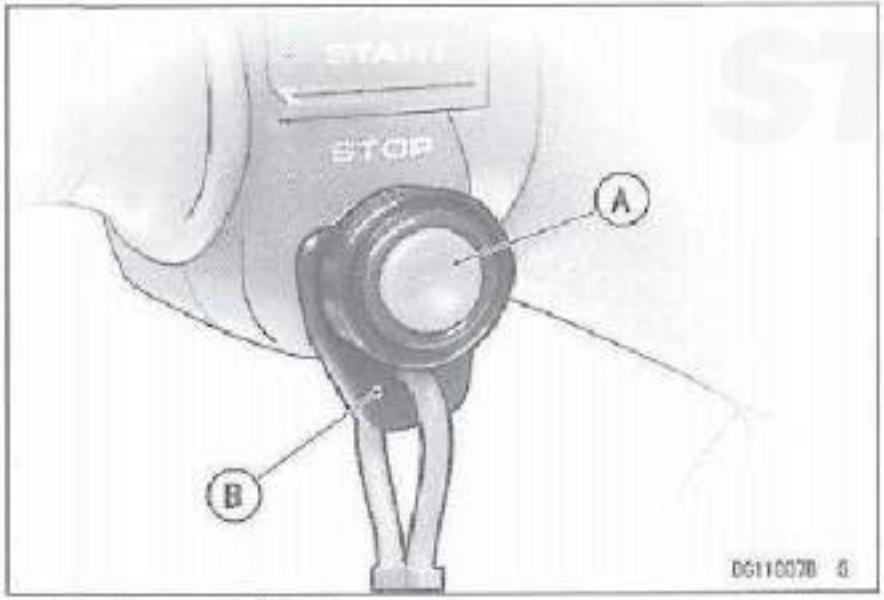
注意

異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、水深が80 cm以下になる前にエンジンを止めてください。

3. 完全に停止させるため、ストップボタンを押すか、またはコードキーをストップボタンから抜きます。



A. スロットルレバー



A. ストップボタン
B. キルスイッチコードキー

スロットルレバーを放すと前進速度は落ちますが、エンジンがまだ回転しているので、再びスロットルレバーを引いてウォータクラフトの進行方向を変えることができます。

この方法でウォータクラフトを旋回させ、障害物から離れることができます。

⚠ 警告

スロットルレバーを完全に放すと、ウォータクラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになりかねません。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いてください。

岸辺に近づいてきて停止したいときには、ストップボタンを押してください。エンジンが直ちに止まるので、砂や異物がジェットポンプに入って損傷をうけることを防ぎます。水深80 cm以下のところでエンジンを回転させてはいけません。

⚠ 警告

再びスロットルレバーを使ってウォータクラフトをすばやく旋回させる必要がある場合は、エンジンを止めないでください。エンジンが止まると、方向を変えることができません。

停止技術:
停止距離は操縦者と同乗者の体重や乗船位置、アイドリング速度、滑走速度等によって変わります。熟練した操縦者はいろいろな操縦技術を使って停止距離を短縮する事ができます。停止するときに急旋回（スロットルレバーを使って）することは、停止距離を短くするための一つの方法です。

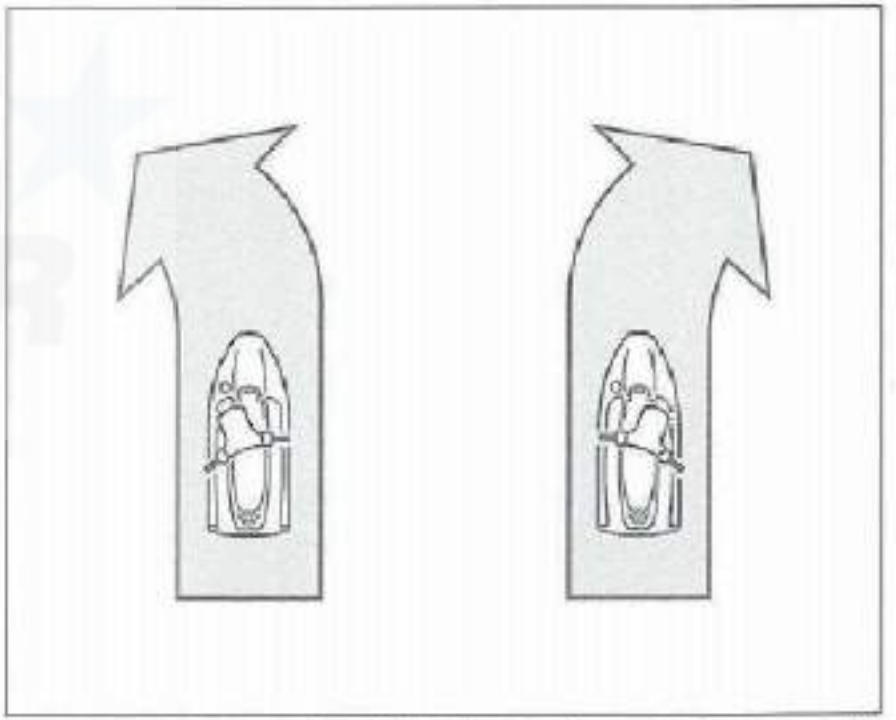
最短停止距離:
3人乗りで、最高速度からの最短停止距離は67 mです。
この数字は、一定の条件の下で測定されたものです。従って、条件が変われば この数字も変わってきます。

旋回

ウォータクラフトを旋回させるには、次の二つの動作の組み合せが必要です。
- ハンドルバーを回す。
- スロットルレバーを使う。

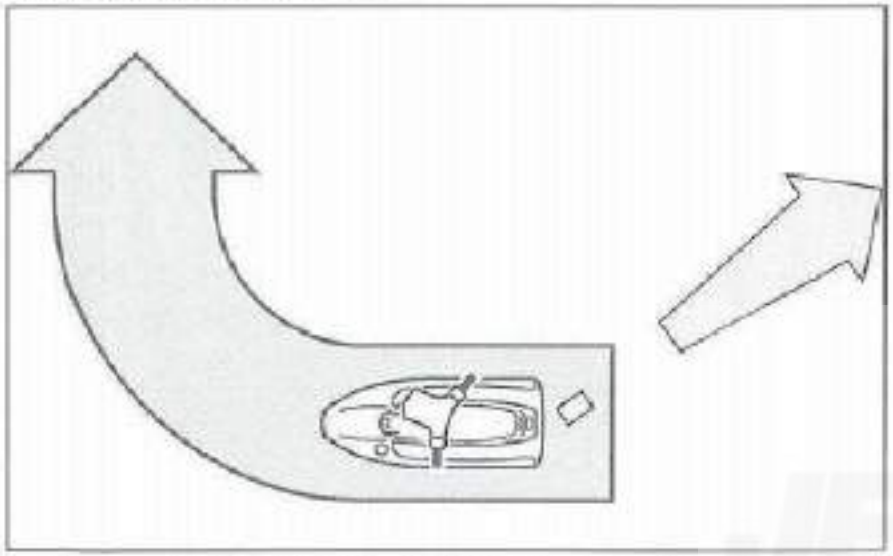
左旋回するためにはハンドルバーを左に向ける。

右旋回するためにはハンドルバーを右に向ける。

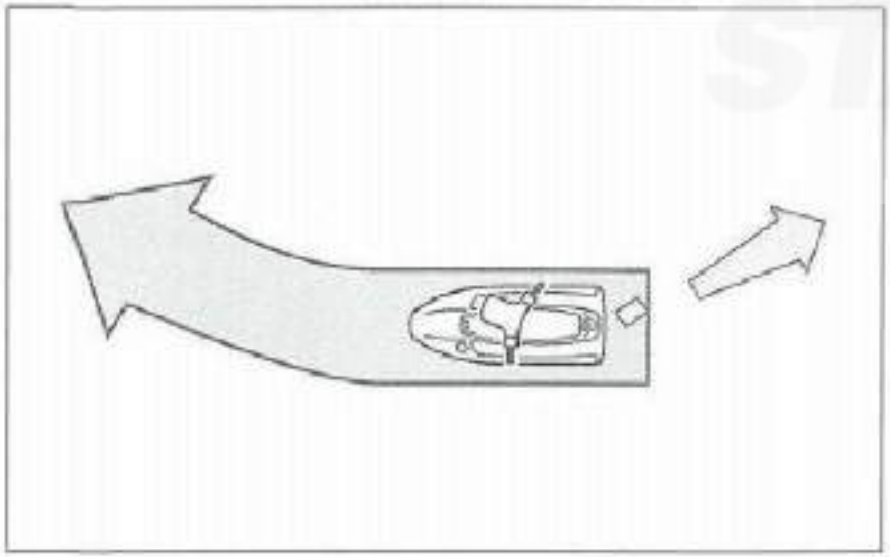


スロットルレバーを使うことも、もう一つの旋回方法の重要な要素です。スロットルレバーを引くとジェットポンプにより推力が生じ、進路変更ができるようになります。

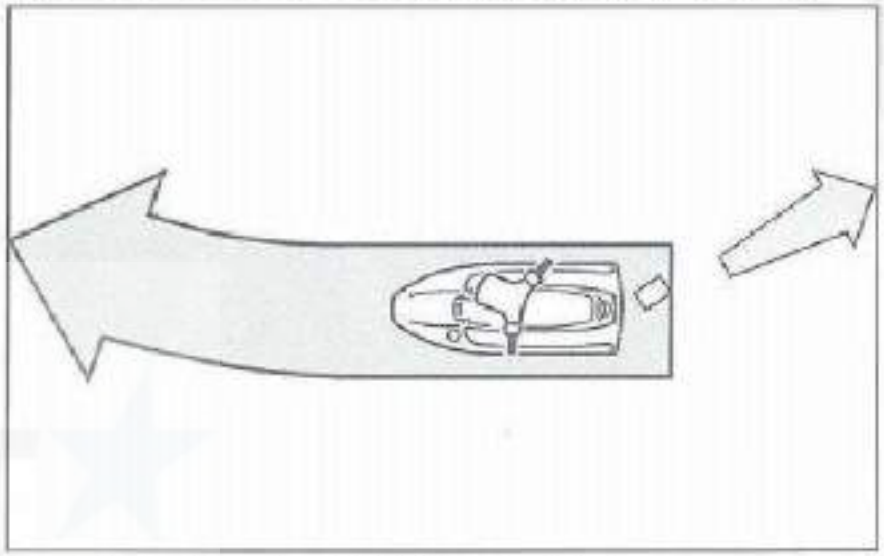
ジェットポンプの推力が強いとウォータクラフトは鋭く旋回します。



ジェットポンプの推力が弱いと緩く旋回します。



スロットルレバーを完全に放すとジェットポンプの推力が殆どなくなります。ウォータクラフトはゆっくりとまわり、旋回能力は低下します。

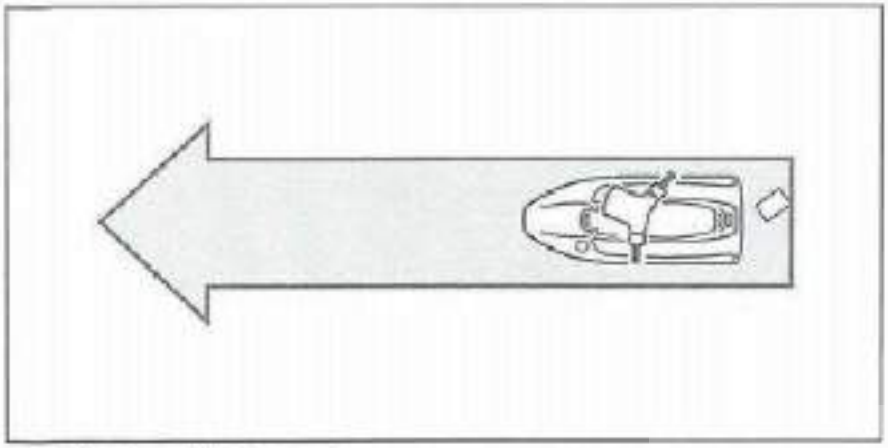


アイドリング＝ゆっくりと徐々に旋回

⚠ 警告

スロットルレバーを完全に放すと、ウォータクラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになりかねません。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いてください。

航走中にエンジンを停止すると、ジェットポンプの推力がなくなり、ハンドルバーを回してもウォータクラフトは真っすぐに進みます。



無推力＝旋回不可

⚠ 警告

再びスロットルレバーを使ってウォータクラフトをすばやく旋回させる必要がある場合は、エンジンを止めないでください。エンジンが止まると、方向を変えることができません。

次のことは緊急操作をするときに覚えておくことが大切なジェット推進ボートの特徴です。

旋回するには推力が必要なこと。

従って、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いてください。

- 旋回に入る前に、スロットルレバーをゆるめてスピードを落としてください。

⚠ 警告

このウォータクラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、急旋回や急加速したときに同乗者が船外に投げ出され、他のボートに当たって事故になるおそれがあります。操縦者は急旋回等する前にまわりのボートに注意してください。また、同乗者は航走中必ずすぐ前の人の体につかまるか、シートバンドをつかんでいてください。

このウォータクラフトにはカワサキスマートステアリングシステムが設けられています。「一般事項」の章の「操縦装置」の項を参照してください。

後進

- 離着岸時等、やむを得ない場合を除いて、なるべく後進は使わないでください。
- 前進から後進に移る前に必ず船が止まるまで減速してください。スロットルレバーを充分ゆるめるか、または完全に放します。減速するまで待ってからシフトレバーを“R”（後進）に入れます。

⚠ 警告

高速航走中、急にシフトレバーを前進から後進に操作してはいけません。また、ブレーキとして後進を使ってはいけません。ウォータクラフトのバウ（船首）が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。シフトする前に必ず減速し、また、同乗者に安全のための注意を呼びかけてください。

- 後進方向の水面に他のボート、泳いでいる人達、または障害物等がないか確認し、目標を定めます。バックミラーだけに頼ってはいけません。よく見えないか、または全く見えないかも知れません。
- 徐々にスロットルレバーを引いて、ゆっくりと後進を始めます。

着岸

- 着岸するときは、ウォータクラフトのスピードと方向をコントロールするために、スロットルを効果的に使ってください。
- 停止したい砂浜や岸辺に近づいてきたら、ストップボタンを押してください。砂がジェットポンプに入って損傷させることを防ぎます。水深80cm以下のところでエンジンを回転させてはいけません。

注意

ウォータクラフトを岸に乗り上げないでください。インペラや船体がひどく損傷することがあります。また、船尾の速度検知用水車が損傷して、スピードメータが作動しなくなることがあります。
浅瀬や浮遊物の多い所で操縦しないでください。インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあります。

- エンジンを止めると進路変更のコントロールが不可能になることを忘れないでください。従って、ウォータクラフトのスピードが充分落ち、停止位置寸前になってからエンジンを止めてください。いったんエンジンを止めると、非常事態の緊急回避ができなくなります。

ウォータクラフト“ジェットスキー”の乗り方

初めてウォータクラフトに乗ったときは、シートにまたがって座ります。ウォータクラフトの扱い方に慣れてください。スロットルレバーを操作してエンジンスピードをいろいろ変え、スロットルレバーの操作が旋回にどう影響するか感触をつかんでください。

ウォータクラフトの船首が連続的に上下する状態（ポーポイジング）が起きたら、体重をさらに前方へ移動してください。

⚠ 警告

ハンドルバーの真上にあごがくるような乗り方をしないでください。波にぶつかったとき、けがをすることがあります。

エンジン関連部分の機能が損なわれるか、エンジンオイル温度計に異常が起こるとエンジンの回転速度が自動的に3 000 rpmに制限されます。警告ブザーが鳴り、“LED”（赤色）警告灯が点灯しさらに“FI”シンボルおよび“FI”文字が点滅するか、またはエンジン油圧シンボルおよび“OIL t”，“OILH”文字が点滅すれば、直ちに海岸へ戻り、「カワサキ正規取扱店」で故障修理を行ってください。

水温や油温の警告灯等が点滅してもエンジン回転速度は3 000 rpmに制限されますので、すぐ海岸へ戻り冷却系統の詰まりを調べるかまたはエンジンオイルを補給してください。

冷却系統およびオイル量以外の問題があるようであれば「カワサキ正規取扱店」で故障修理を行ってください。

燃料シンボル、燃料レベル計、“FUEL”文字と“LED”警告灯の点滅が始まると、残りの燃料は26 しです。スピードはスロットル半開以下にしてできるだけ早く給油してください。このウォータクラフトには予備タンクがありません。

（「一般事項」の章の「マルチファンクションメータ」の項を参照。）

常に他のボート、泳いでいる人達や、障害物に注意し航走してください。

落水

操縦者がウォータクラフトから転落すると、コードキーがストップボタンから抜けて、エンジンは直ちに停止します。

⚠ 警告

ウォータクラフトから落ちるとき、ハンドルバーにしがみつかないでください。ウォータクラフトにぶつかってけがをするおそれがあります。

- 落水の最良の方法は、両足をそろえ、腕を頭上に上げ、尻部から先に水面に落ちることです。
- ウォータクラフトの後部から上がります。コードキーをストップボタンの下に差し込み、スタータボタンを押してエンジンを始動します。

転覆したウォータクラフトの起こし方

万一ウォータクラフトが転覆したときは、コードキーが操縦者に引っ張られてストップボタンから抜け、エンジンは停止します。
直ちに次の手順で船体を起こしてください。

⚠ 警告

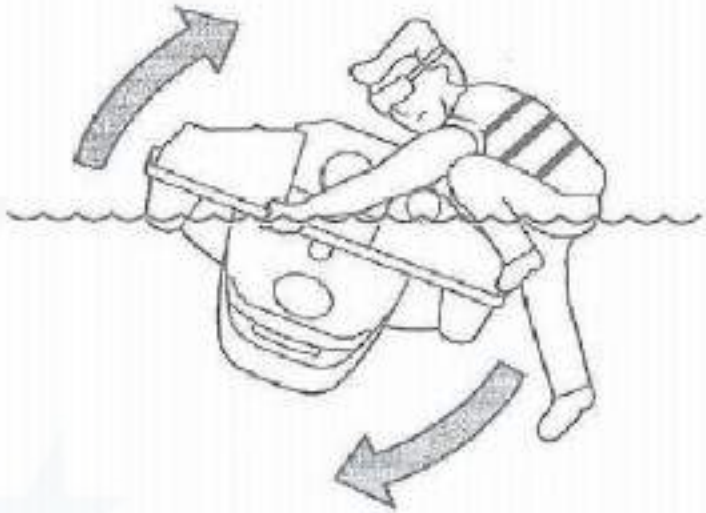
このウォータクラフトは転覆しても自動復元しません。操縦者は適切なウォータクラフトの起こし方を知っていなければなりません。さもないと立ち往生することがあります。

- エンジンが停止したか確認します。もし、停止していなければ、すぐにコードキーをストップボタンから抜くか、またはストップボタンを押してエンジンを停止させます。

注意

もし、ウォータクラフトが転覆したままでエンジンが回転し続けると、スロットルボディやエンジンに水が入るおそれがあり、エンジンの内部部品の損傷の原因になります。
もし、エンジンに水が入ったら「浸水後の処置」の項に述べられた方法に従ってください。

- 転覆した船の後部の角に泳いで行きます。
- 片手で左舷を押し下げ、もう一方の手を斜めに伸ばしてデッキの後部をつかみ、船底に伸び上がるようにします。



- 次に片方の足で船体後部の角を押し下げ、体重をかけながら手前へ回転させます。
- 船体が起き上がってきたら、必要ならばできるだけ遠くの船体をつかんで船を完全に引き起こします。

注意

転覆した船は常に左舷を下側にして右回しに起こしてください。反対に回すと、マフラの水がエンジンの中に入り、エンジンの損傷を招くおそれがあります。

- ウォータクラフトは転覆して起こした後、エンジンルームに水が入っています。更に水がエンジンルームに入らないよう注意して、船尾から上ります。

要点

○ 同乗者がおれば、他のウォータクラフトに乗移ることで、荷重を減らし、水が更に入ることを防止できます。

- コードキーをストップボタンに差し込み、スタータボタンを押してエンジンを始動します。
- ウォータクラフトをゆっくり運転して海岸に帰り、ビーチに引き揚げ、エンジンルームの水を抜きます。これはエンジン内に水が入って、エンジン内部が損傷することを防ぎます。

浸水後の処置

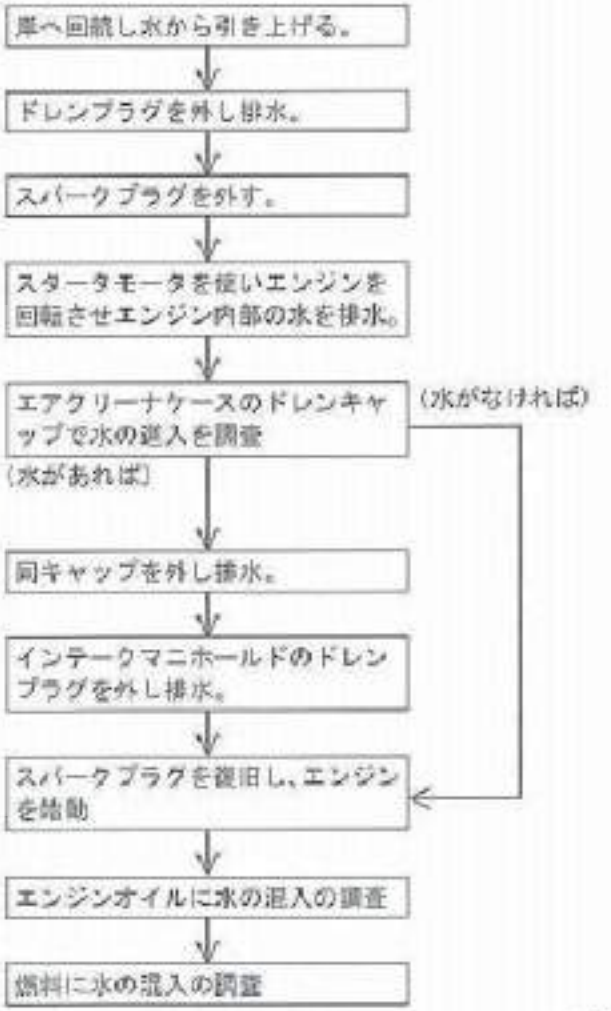
注意

エンジン内に水が入ったままで、ウォータクラフトを運転しないでください。エンジン内の水を完全に排出するまで、エンジンを始動しないでください。エンジン内部の部品が激しく、しかも急に損傷するおそれがあります。
もし、エンジン内に水が入ったならば、直ちに次の処置をしてください。エンジン内に数時間以上水が残ったままになると、クランクシャフトベアリングやエンジンの内部部品を傷めます。

もし、ウォータクラフトが水没したら、スロットルボディの吸気口からエンジン内に水が入ることがあります。また、燃料タンクやオイルタンクにも水が入ることがあります。

エンジンルームに浸水したウォータクラフトは以下に述べる手順に従がって調査、処置を実施してください。まず以下の手順の概略をその後で各詳細をよく読んでください。

概略手順

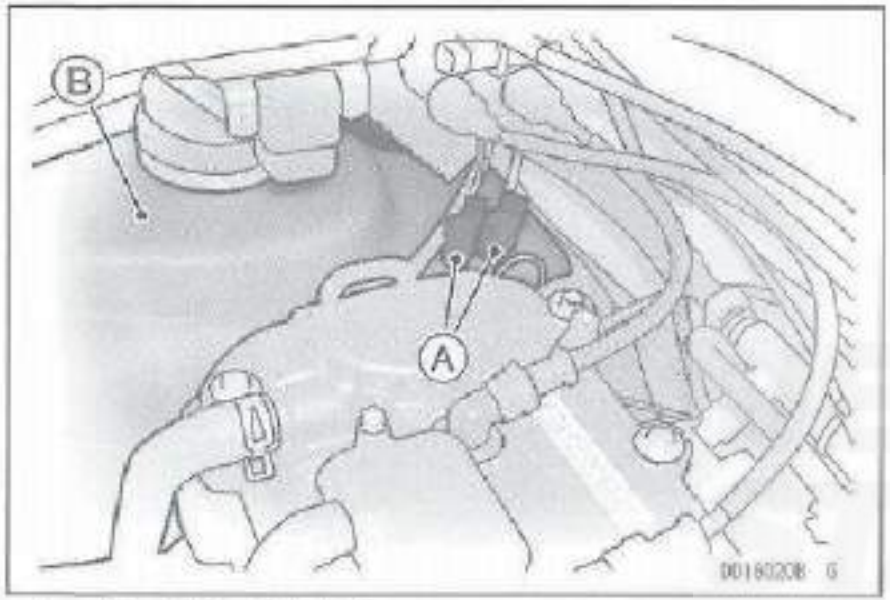


0016011B F

詳細手順

1. ウォータクラフトを水から引き上げ、シートを外します。
2. ドレンプラグを外し、エンジンルームの排水をします。

3. 船首備品入れのふたを開け備品入れを取り出します。もし格納スペースに水があれば底部のドレンプラグを外して水を抜きます。
4. エンジンの前方右側にある一次側イグニッションケーブルの二つのコネクターをはずします。



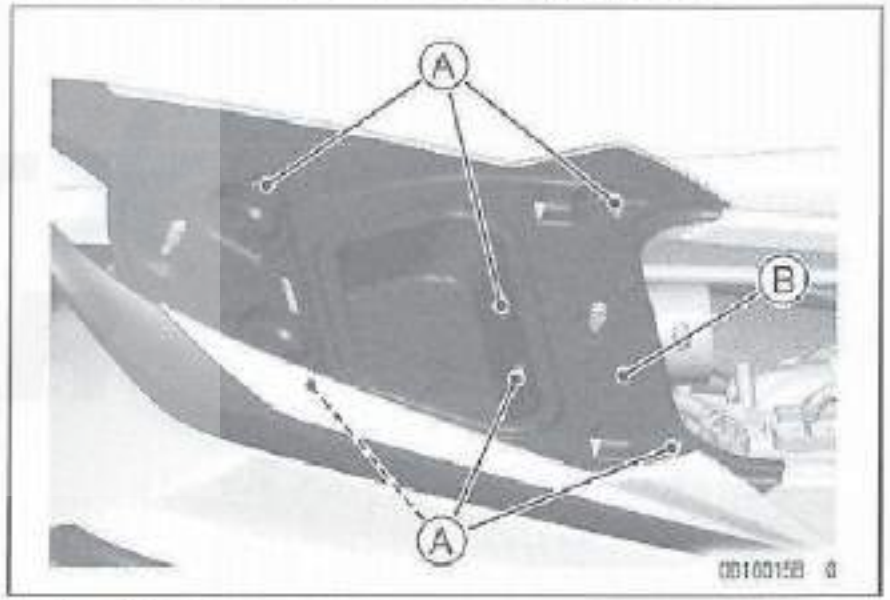
A. ケーブルコネクター
B. 燃料タンク

5. すべてのスパークプラグキャップを外してください。
6. すべてのスパークプラグを外してください。
7. イグニッションキーを差し込み、ストップボタンの下にコードキーを差込みスタートボタンを押します。
8. もしエンジン内に水が入っていればプラグホールから排出されます。エンジン内部の水は完全に排水してください。スタータは5秒以上運転しないでください。再始動は15秒待ってからしてください。

⚠ 警告

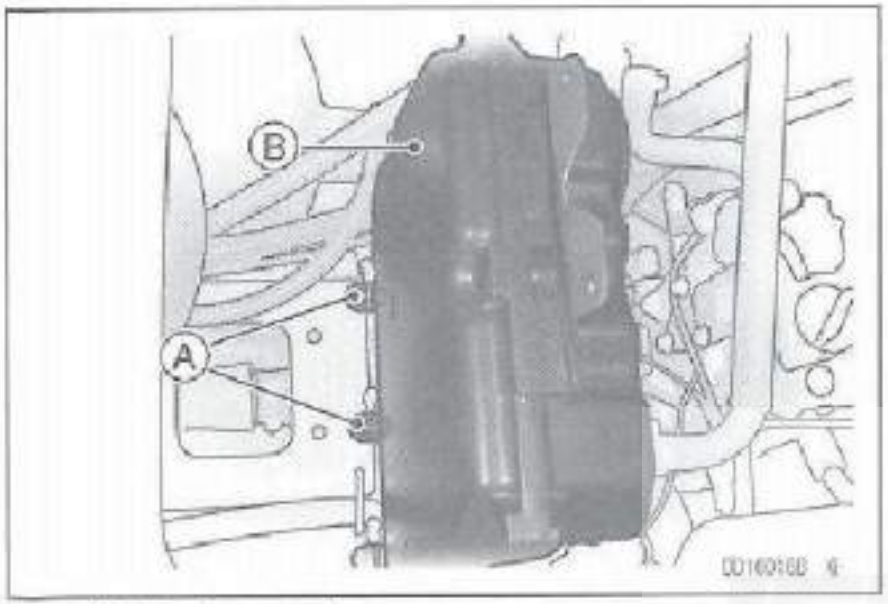
この作業中は、エンジンの上にかがみこまないでください。スパークプラグ穴から水とガソリンの混合物が勢いよく噴出し、目に入るおそれがあります。もし、少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗ってください。そして、できるだけ早く医者の診察を受けてください。

9. ハンドレールプレートを外します。



A．ナット
B．ハンドレールプレート

10. エアフィルタに付いているプラスチックのドレンプラグに水が入っているか調べます。



A. ドレンキャップ
B. エアフィルタ

11. もし上記のキャップに水があればキャップを外して水を排出してください。油水が出ることがありますので布きれ等をキャップの下に敷いてください。この後、項目11に進みます。

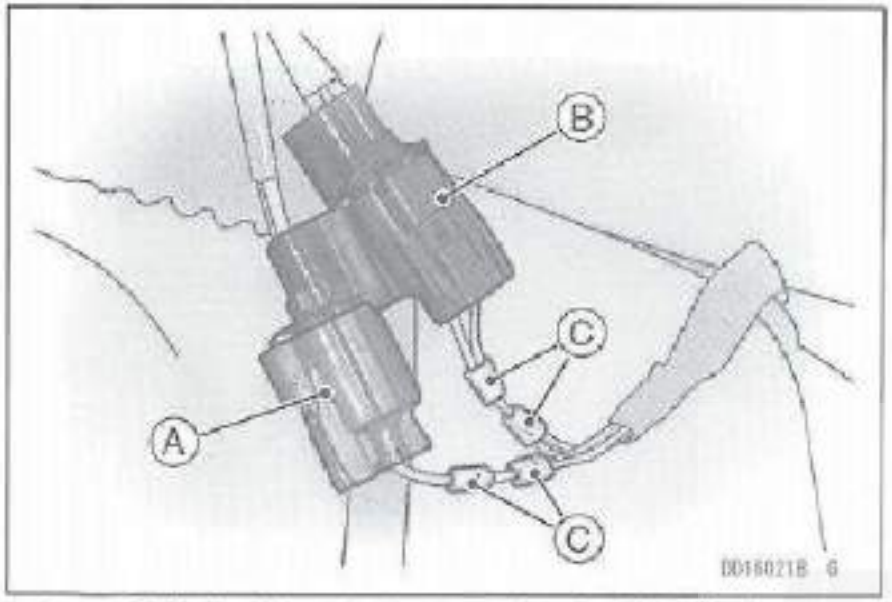
要点

○もしキャップの中に水があれば、インテークマニホールドにも浸水した可能性が高いです。この場合には一部部品を取り外して排水する必要がありますので、近くのカワサキの販売店へウォータクラフトを運んで処置を受けてください。もし、キャップに水がなければ項目13へ進んでください。

12. インテークマニホールドのプラグを外し内部の水を排水してください。油水が出ることがありますので布きれ等をキャップの下に敷いてください。（エアフィルタのドレンプラグに水が入ってなければこの項目は省略して項目12へ進んでください。）
13. スパークプラグの電極から水気をよくふき取り、プラグとプラグキャップを取りつけます。
14. イグニションコイルの一次側ケーブルコネクター（2個）を接続します。

要点

○#1&#4のスパークプラグからのコネクタをNo.1&No.4と番号の付いているケーブルに接続します。同じく#2&#3のスパークプラグからのコネクタをNo.2&No.3の番号の付いているケーブルに接続します。コネクタの番号はスパークプラグからケーブルをたどり確認します。
○コネクタを接続する前に良質の耐水グリースを塗布します。



A. コネクタ（No.1 & No.4 スパークプラグ用）
B. 同上（No.2 & No.3スパークプラグ用）
C. 番号札（ECUからのケーブル）

15. スタータボタンを押してエンジンを始動させます。但し、15秒以上運転しないようにしてください。

注意

水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないでください。エンジンの重大故障の原因になります。

16. オイルレベル計測ゲージを引抜いてオイルの中に水が混入しているか調べます。（混入していれば、オイルが白濁します。）
17. オイルが白濁しておれば新しいオイルと入替えてください。その上で上記項目14と15の作業内容をオイルが白濁しなくなるまで繰り返してください。
18. もし、エンジンが始動しないようであれば燃料の中に水が混入した可能性があります。
19. もし、燃料タンクの中に水が混入しておればポンプかサイホンで燃料を抜き取り、新しい燃料を入れてください。抜き取った燃料は指定された方法以外で廃棄しないでください。

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。

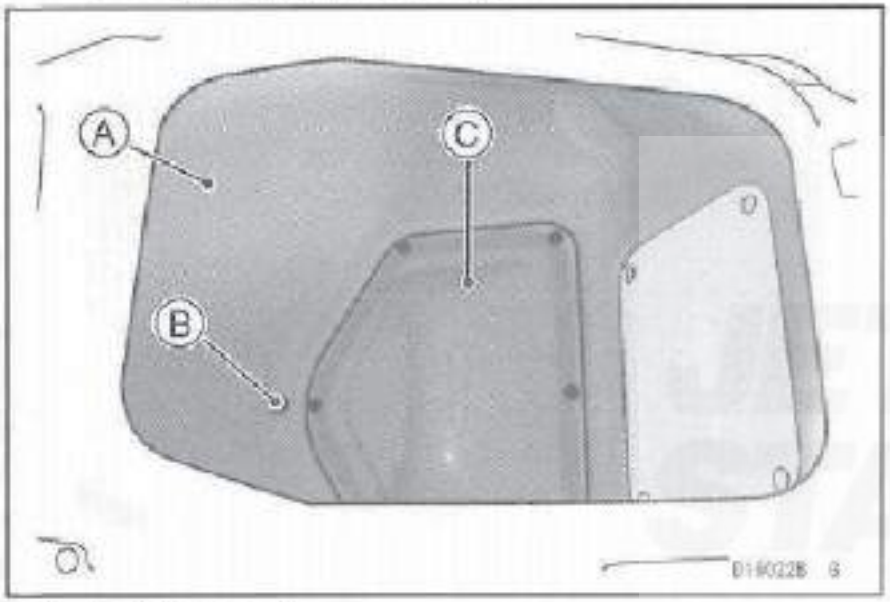
注意

油脂類の廃液は法令で適切な処置を行うことが義務づけられていますので、「カワサキ正規取扱店」に相談してください。

要点

○エンジンから全く水がなくなるまで、この方法を繰り返してください。繰り返しトラブルが起きるときは、水を排出するため燃料系統の掃除が要求されます。「カワサキ正規取扱店」に相談してください。

20. 船首の備品入れを取り外し、格納スペースに水が入っていないか確認します。必要ならば底にあるドレンプラグを取り外し水を抜きます。
21. バッテリ格納スペースのふたを開け、バッテリの状態を確認します。



A. 格納スペース
B. ドレンプラグ
C. バッテリ格納スペースふた

シートを復旧し確実にラッチをロックします。
22. ドレンプラグを船尾に取りつけます。
23. 最後にウォータクラフトを水上に戻し、10分間以上走らせて残っている水を完全に乾かし、塩などの異物を排気口から排出します。

要点

○上記の作業が困難と思われる時は「カワサキ正規取扱店」に相談してください。

航走終了後の手入れ

ウォータクラフトは、長期間水中に置いておくようにはなっていません。定期的に水中から引き揚げ、船底をこすって、汚れを防ぐ塗料にて塗装してください。また、ジェットポンプは電気分解等によって金属の腐食を招いて行きます。

第1:排気系統の水抜き

- ウォータクラフトを水から引き揚げます。
- 余分な水を排気系統から出すためにエンジンを始動し、数秒間回転させます。排気口から水が出なくなるまで、繰り返しエンジンを吹かしてください。

注意

水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないでください。エンジンの重大故障の原因になります。
水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- 海上で操縦した後は、そのたびに真水で冷却系統を洗浄してください。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）これは、塩の固着による冷却系統の詰まりを防ぐのに役立ちます。

第2:エンジンルームの清掃

- シートを取り外します。

- エンジンルームに水がたまっていたら、ドレンプラグを外して水を出してください。排水後、ドレンプラグをしっかり締めます。
- 海上でウォータクラフトを使用した場合はエンジンルーム内部を清水であらいます。

注意
水洗いする時は電気部品に水を掛けないように注意してください。またエアークリーナケースに水が入らないよう、エアーインテークホールにカバーを取りつけてくださ。また、清掃後には必ず同カバーを取り外してください。

- ウォータクラフトを一週間以上使用しない時は、エンジン各部の発錆を防ぐため、防錆剤を塗布します。
- ウォータクラフトを２週間以上使用しない時は、バッテリーを取り外し、充電器を使って充電します。「整備と調整」の章の「バッテリー」の項を参照ください。
- エンジンルームを拭いて乾かし、シートを取り付けます。
- ウォータクラフトを保管する場合は、エンジンルームの換気ができ、また、結露を防ぐためにシートを外しておくか、またはシートの下に木片等をおいて、隙間をあけておきます。

第3: 船体外部の清掃

- 船外、デッキ、給水口および推進装置を清水で洗います。

要点

- ウォータクラフトは、長期間水中に置いておくようになっていません。長期間水にさらすと、船体の塗装のバブルやはくりの原因になります。また、ジェットポンプの金属が電解腐食を招き、ウォータクラフトの寿命を短くします。水中に放置された船は定期的に引き揚げ船底をこすり、汚れを防ぐ塗料にて塗装しなければなりません。それによって、水中の金属の電解腐食を減らせます。ウォータクラフトは使用する毎に、水中から引き揚げると、より長く、よりきれいな外観を保ちます。

特殊な手入れ

インペラの清掃

時折、海草や他の浮遊物がインペラやジェットポンプに詰まり、性能が低下することがあります。ジェットポンプを正常に作動させるために、これらの異物を完全に取り除く必要があります。

- エンジンを止め、ウォータクラフトを水から引き揚げます。

⚠ 警告

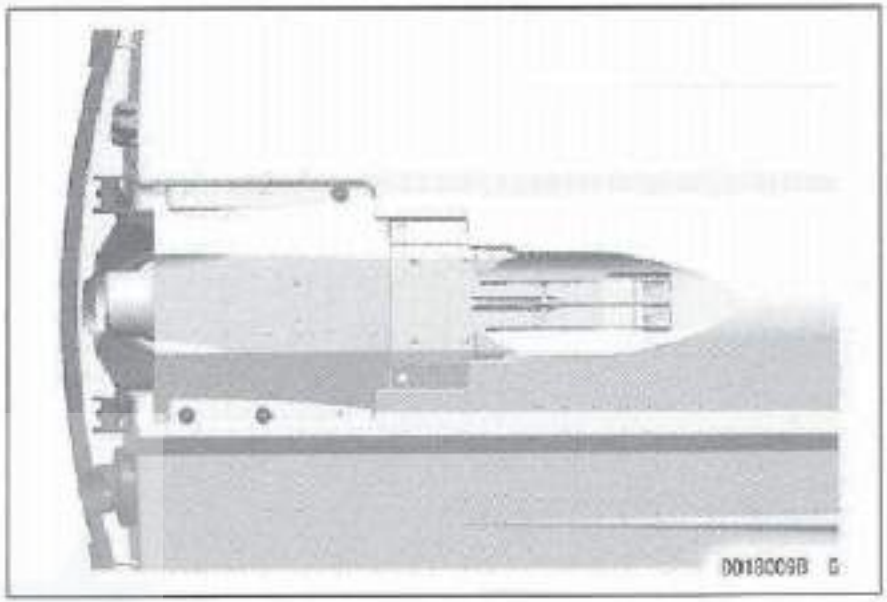
エンジンが回転中にジェットポンプの清掃をしないでください。けがをするおそれがあります。ポンプを点検する前にエンジンを止め、キルスイッチコードキーをストップボタンから抜いておいてください。

- コードキーを抜きます。
- タオルかパッドをウォータクラフトの横におきます。
- ウォータクラフトを左側に傾け、必要ならばジェットポンプの格子およびカバーを取り外してください。

注意

ウォータクラフトは必ず左側に傾けてください。右側に傾けると、排気系統内の水がエンジン内に入り、エンジン損傷の原因になります。

- 吸水口、ドライブシャフト、インペラ、ジェットポンプハウジング、ポンプ口、ステアリングノズルから海り草やゴミを取り除きます。



注意

ポンプのある場所や、関連部品がきれいになっているか確認してください。エンジン冷却水はジェットポンプによって供給されるので、ポンプの性能の低下はオーバーヒートの原因になります。

- ジェットポンプカバーと格子を取り付け、ボルトにネジロックを付けてしっかりと締めます。

ボルト締付トルク：7.8 N·m (0.8 kgf·m)

汚れたスパークプラグの清掃

スパークプラグの汚れはいくつかの原因で起こります。低いアイドリング速度や長時間のアイドリング運転をした場合等です。また、燃料に水が混じっていたり、エンジン内部に水が入っている場合も、スパークプラグが汚れる原因になります。

- 汚れたスパークプラグを取り外し、きれいな乾いたプラグを取り付けてください。汚れたスパークプラグはプラグクリーナで清掃してください。また、水の付いたスパークプラグは、浸透性防錆剤で清掃します。

スパークプラグ締付トルク:
11 ~ 15 N·m (1.1 ~ 1.5 kgf·m)

- スロットルレバーをほんの少し開いて、エンジンを始動します。

ウォータクラフトのえい航

燃料切れ、エンジントラブル、また、その他問題が起きた場合には、ウォータクラフトをえい航してもらうことができます。6 mのえい航用ロープの一端を船首の穴に結びつけ、もう一方の端をえい航ボートに結びつけます。えい航はゆっくりと行い、8 km/h以上のスピードを出さないでください。

注意
このえい航要領は重要ですから必ず守ってください。そうしないとエンジンルームに浸水し、ウォータクラフトの一部が沈むことがあります。

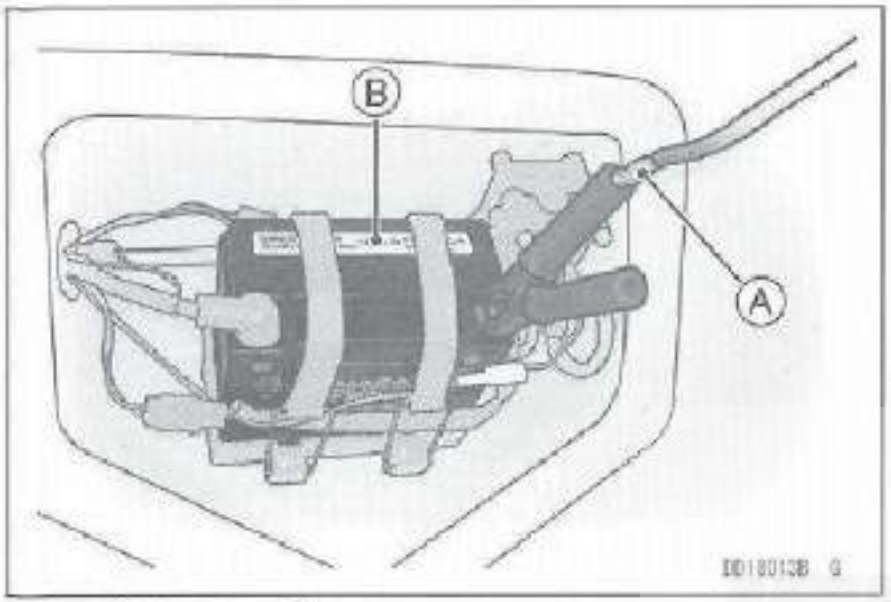
ジャンプコードによる始動

バッテリが上がった場合、取り外して充電する必要があります。それができないときは、他のウォータクラフト等の正常なバッテリとジャンプコードを使って始動することができます。その場合、ウォータクラフトのバッテリと同じ電圧（12 V）のものを使用してください。

⚠ 警告
バッテリ液は条件によって引火性および爆発性がある水素ガスを発生します。このガスは常時バッテリ内にあり、完全放電していても残っています。火気や火花をバッテリから遠ざけてください。また、バッテリを取り扱っているときは、保護メガネを着用してください。バッテリ液が皮膚や目、衣類に付着したときは、直ちにその部分を水で5分以上洗い、医者の診察を受けてください。

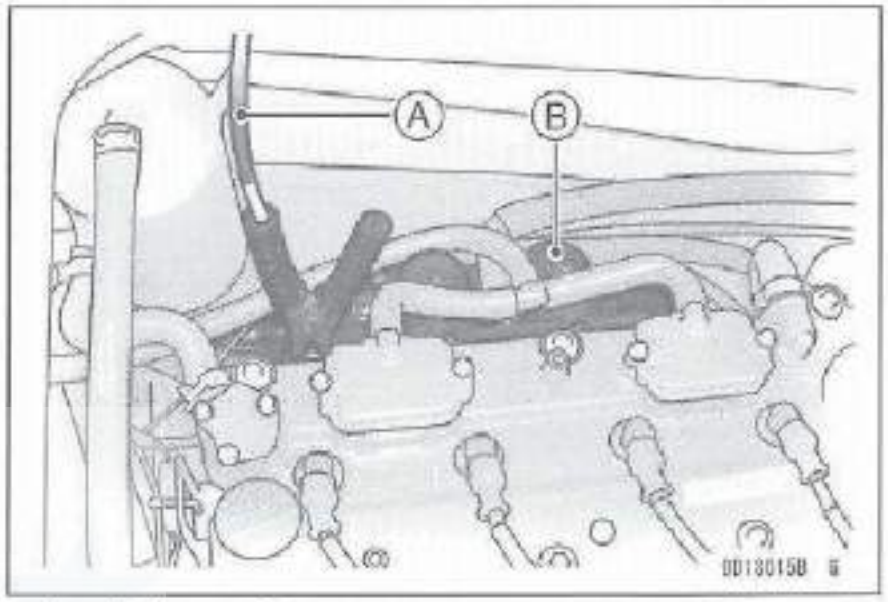
- イグニションキーを抜きます。
- シートを外します。
- 両方のバッテリの（+）ターミナル間をジャンプコードで接続します。
- 他のジャンプコードの一端を他の船のバッテリの（−）ターミナルに接続します。

注意
バッテリを反対の極〔(+)から(−)〕へ接続すると、電気系統に大きな損傷が生じます。



A. (+) コード
B. バッテリ

- もう一方の端をエギゾーストパイプのボルトに接続します。



A. (-) コード
B. エギゾーストパイプ

⚠ 警告

最後の接続を間違ってスロットルボディ、インジェクタやバッテリへしてはいけません。コードをショートさせないように注意し、上記の最後の作業をするときは、バッテリの上に体を乗り出さないでください。また、凍結したバッテリをジャンプコードで始動させてはいけません。爆発するおそれがあります。

注意

5秒間以上連続してスタータを回さないでください。スタータがオーバーヒートします。スタータが冷えるように15秒間待ってから、再度回してください。

● エンジンを始動させた後、上記の逆の順序でジャンプコードを取り外してください。

エンジンのオーバーヒート

このウォータクラフトには、冷却水およびエンジンオイルの温度センサが設けられています。エンジンがオーバーヒートしたときには“LED”（赤色）警告灯が点灯しブザーがなります。

さらに原因によって、水温シンボルおよびスピードメータの隣の“HEAt”文字が点滅するか、または油温シンボルおよび“OILH”，“OILt”文字が点滅します。

同時にエンジン回転が自動的に3 000 rpm以下に制御されます。

● 警告灯が点灯し、水温シンボル、油温シンボル、および“HEAt”，“OILt”または“OILH”文字が点滅してウォータクラフトのスピードが落ちたときは、直ちに岸に戻って、冷却水系統に詰まりがないか、エンジンオイルの量は十分か点検してください。それ以外の原因の場合には「カワサキ正規取扱店」へ相談ください。

注意

エンジンがオーバーヒートすると警告灯が点灯し、水温シンボル、“HEAt”文字が点滅、もしくは油温シンボル、“OILH”文字が点滅してエンジンの回転がさがります。直ちに岸へ戻り、冷却系統、エンジンオイルを点検してください。
エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまでウォータクラフトを操縦しないでください。

運搬

● ウォータクラフトをトレーラ等でけん引するときは、けん引に関する諸法規、規則を必ず守ってください。
● ウォータクラフトの重量と形状に合ったトレーラを使用してください。不適格なトレーラで運搬することは安全面で問題があります。
● トレーラの上でウォータクラフトが動かないようにしっかり固定してください。

注意

シート後方のハンドレールや、その下のけん引用フックに船体固定用ベルト等をかけないでください。
船尾の速度検知用の水車に、ものがあたらないように注意してください。

ウォータクラフトを運搬した後ではエンジンをかける前に備品入れおよびシートを取り外して数分間換気をしてください。（「シートラッチ」と「備品入れ」の項参照。）

⚠ 警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因になることがあります。

保管

冬の間や、一ヶ月以上の長時間ウォータクラフトを使用しないときは、適切な保管が必要です。無くなった部品がないか点検し、摩耗した部品を交換したり、防錆のために各部への注油、潤滑をします。次回ウォータクラフトを最良のコンディションで使用できるよう準備をしておきます。「カワサキ正規取扱店」でしてもらうか、または次の事項を実施してください。

要点

○ ウォータクラフトは、長期間水中に置いておくようになっていません。長期間水にさらすと、船体の塗装のバブルやはくりの原因になります。また、ジェットポンプの金属の電解腐食を招き、ウォータクラフトの寿命を短くします。水中に放置された船は定期的に引き揚げ、船底をこすり、汚れを防ぐ塗料にて塗装しなければなりません。それによって、水中の金属の電解腐食を減らせます。ウォータクラフトは使用する毎に、水中から引き揚げると、より長く、よりきれいな外観を保ちます。

保管する前の作業

冷却系統

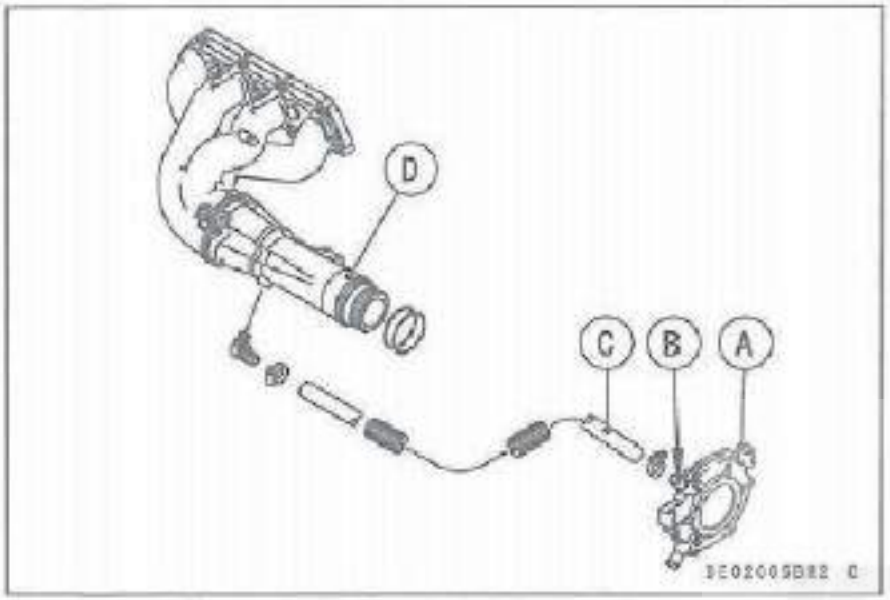
- 冷却系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。
- 気温が氷点下になる可能性のある地域でウォータクラフトを保管する場合は以下の作業をしてください。

排気系統内の残水の排水

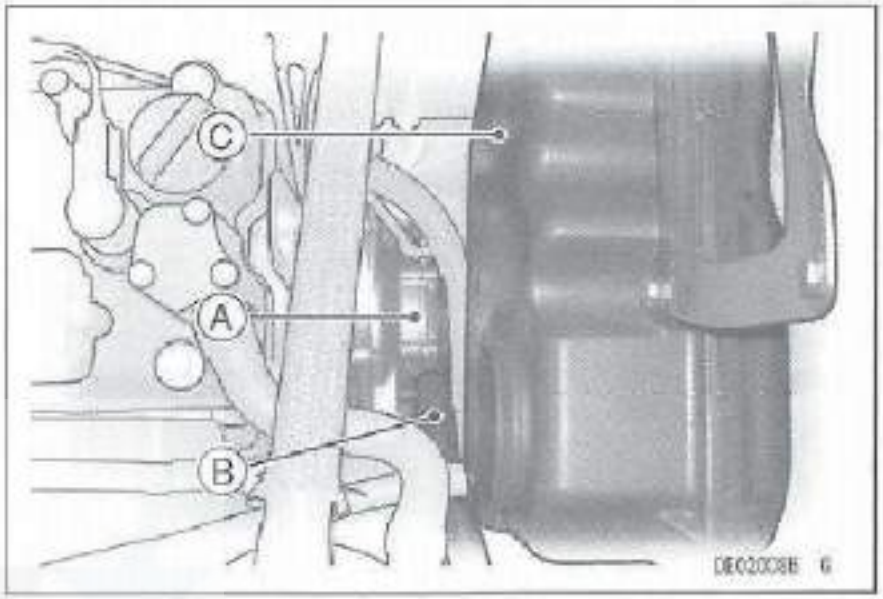
注意

冷却系統を洗浄した後、排気系統内の残水を排水してください。寒冷時、排気系統内の残水が凍結し排気パイプを損傷することがあります。

- 洗浄後、エンジン後部のアウトプットカバー上に接続している冷却水ホースを取外し、そのホース端部をエンジンルーム内の低い位置に導き排気パイプ内の残水を排水します。



A. エンジンアウトプットカバー
B. ホース接続金物
C. 冷却水ホース
D. 排気パイプ



A. エンジンアウトプットカバー
B. 冷却水ホース
C. エアフィルターボックス

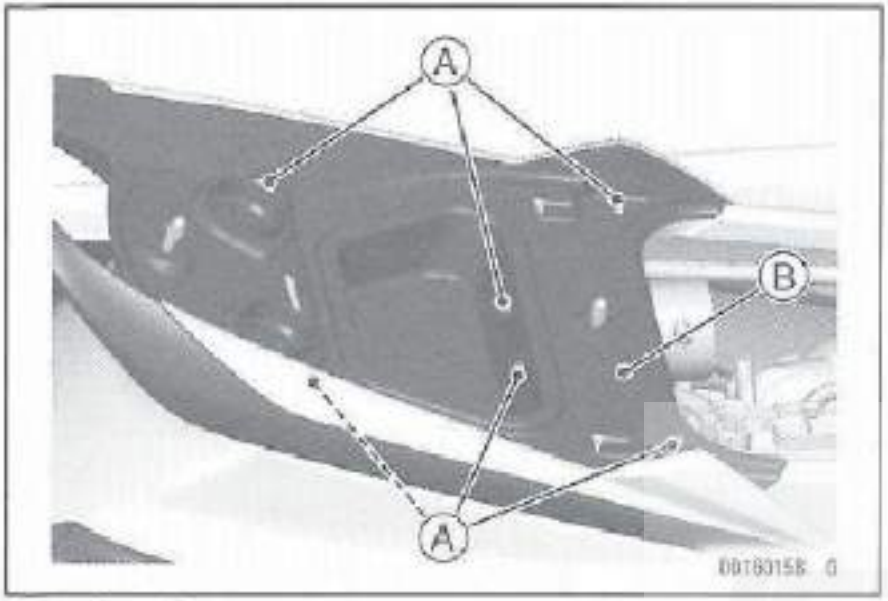
● 排水後、冷却ホースをアウトプットカバー上の接続金物に接続し、確実に締め付けます。

注意

ホースは確実に金物に接続してください。運転中、ホースが外れると冷却水でエンジンルームが浸水します。もし、この作業を行うのに不安がある場合は、「カワサキ正規取扱店」に相談してください。

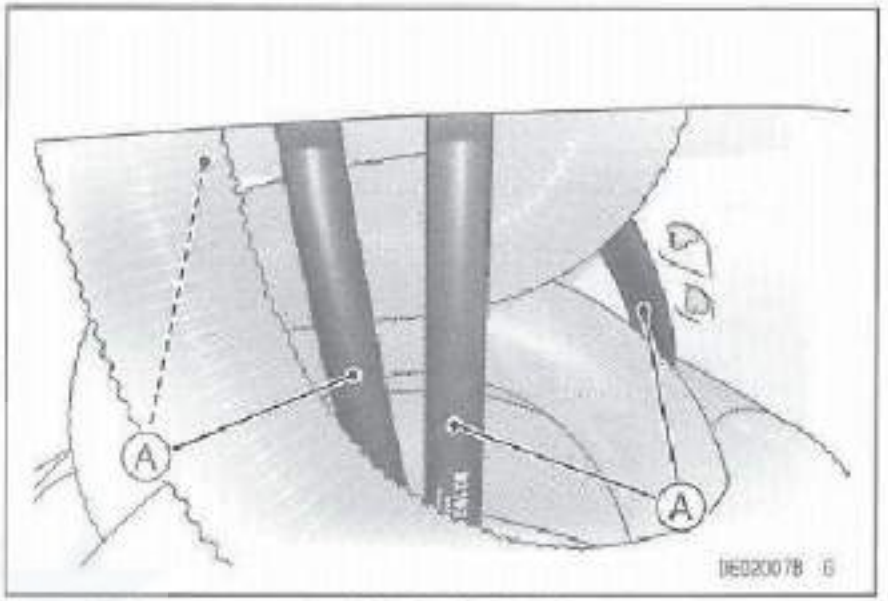
ビルジ系統

● ハンドレールプレートを取り外します。



A. ナット
B. ハンドレールプレート

- ビルジ系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「ビルジ系統の洗浄」の項参照。）このとき、ホースをプラスチックのブリーザに再び接続する前に、両方のホースに圧搾空気を吹き込んで、ビルジ系統から水を完全に押し出してください。



A. 両方のホースに空気を吹き込む。

エンジンオイル

- エンジンオイルを入替えます。（「整備と調整」の章の「エンジンオイル系統」の項を参照。）

燃料系統とエンジン

- エンジンルームを水洗いし、船尾のドレーンプラグを外して水を抜きます。エンジンルームに水が残っていれば拭きとります。

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。

● 燃料タンクの底の燃料と水とが燃料注入口の方にいくよう船尾を少し上にあげ、サイフォンまたはポンプで燃料タンクからそれらを完全に抜きます。

注意

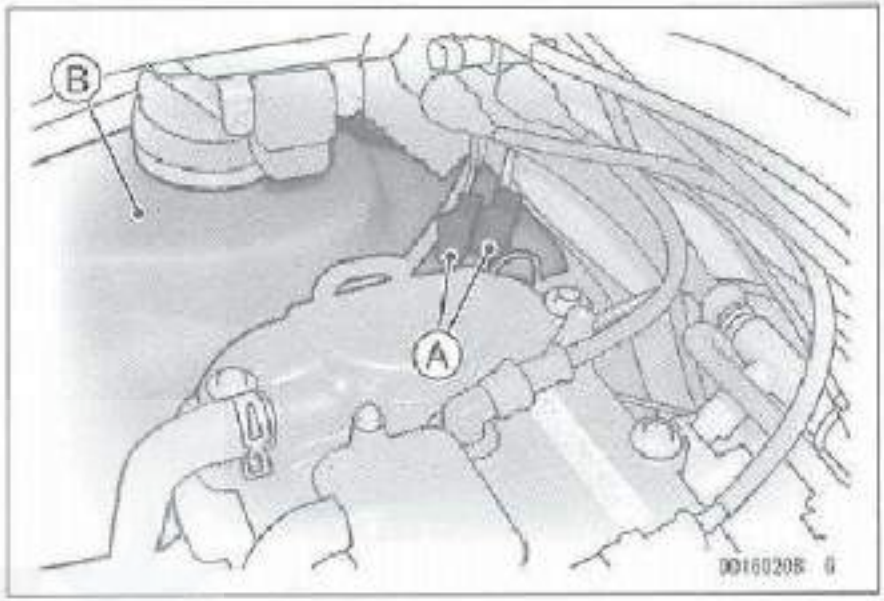
油脂類の廃液は、法令で適切な処置を行うことが義務づけられていますので、「カワサキ正規取扱店」にご相談ください。

● 約10 Lの新しい燃料を燃料タンクに入れます。
● イグニションスイッチを“ON”にします。
● キルスイッチコードキーをストップボタンに差し込んでエンジンを始動し、燃料系統内の燃料が新しい燃料と入替るまで、15秒間づつ回転させます。各回転は5分間隔で行います。

注意

水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

● 燃料タンクから先に述べた方法で燃料を抜きます。
● タンク内の結露を防ぐため、燃料注入口キャップを緩めておきます。
● エンジンの前方右側にある一次側イグニッションケーブルの二つのコネクターをはずします。



A. ケーブルコネクター
B. 燃料タンク

● スパークプラグを取り外します。
● 各シリンダ内に浸透性防錆剤をスプレーします。
● スタータボタンでエンジンを数回回転させ、シリンダの内側にオイルを行きわたらせます。

⚠ 警告

この作業中は、エンジンの上にかがみこまないでください。スパークプラグ穴から防錆剤が霧状になって勢いよく噴出することがあり、目に入るおそれがあります。もし、少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗ってください。そして、できるだけ早く医者の診察を受けてください。

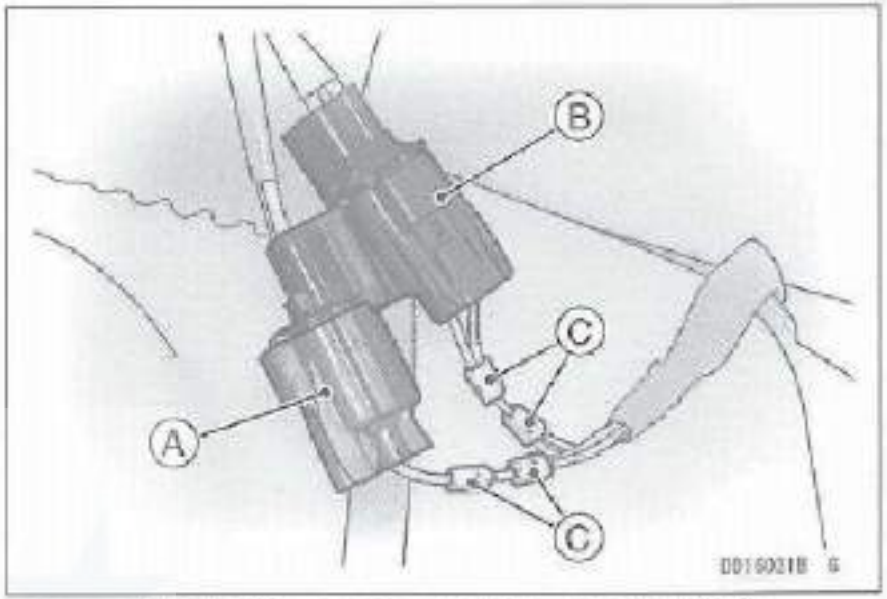
● スパークプラグに浸透性防錆剤をスプレーし、シリンダーヘッドに取り付けます。

スパークプラグ締付トルク:
11 ~ 15 N·m (1.1 ~ 1.5 kgf·m)

- コードキーをストップボタンから抜き、イグニションスイッチを“OFF”にします。
- プラグキャップを取り付けます。
- イグニッションコイルの一次側ケーブルのコネクター（2個）を接続します。

要点

○ #1&#4のスパークプラグからのコネクタをNo.1&No.4と番号の付いているケーブルに接続します。同じく#2&#3のスパークプラグからのコネクタをNo.2&No.3の番号の付いているケーブルに接続します。コネクタの番号はスパークプラグからケーブルをたどり確認します。
○ コネクタを接続する前に良質の耐水グリースを塗布します。



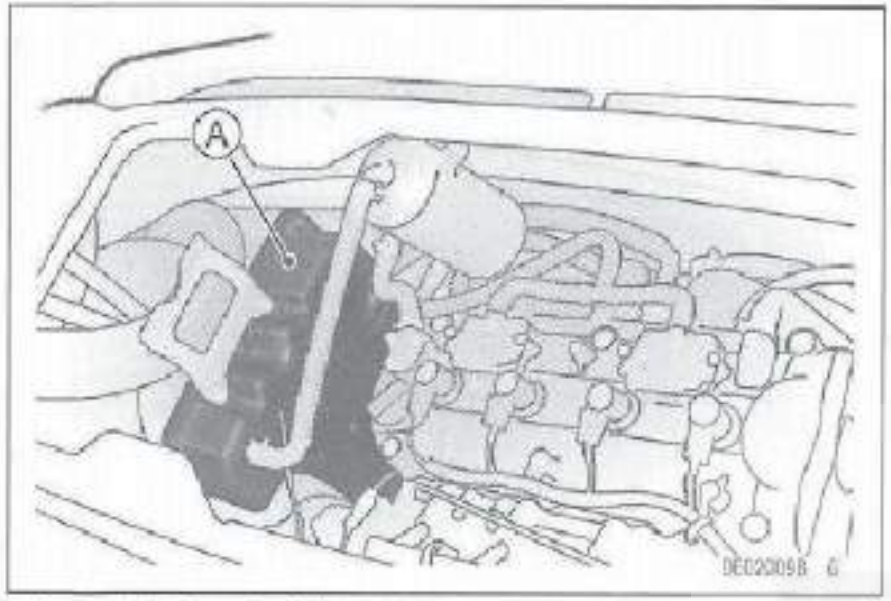
A. コネクタ（No.1 & No.4 スパークプラグ用）
B. 同上（No.2 & No.3スパークプラグ用）
C. 番号札（ECUからのケーブル）

エアフィルタ

- エアフィルタのケースを開放する。
- ケース内のエアフィルタを取り外し洗浄・乾燥させる。
- エアフィルタを元通りに組み立てる。

要点

○ この作業はエアフィルタケースの取り外しがいるため、「カワサキ正規取扱店」に相談してください。



A. エアフィルタケース

バッテリ

- バッテリを取り外します。（「整備と調整」の章の「バッテリ」の項参照。）
- 重ソウと水の溶解液で外部を清掃します。水でよくゆすぎます。

注意
密封栓は絶対に取り外さないでください。バッテリが損傷します。

- 両方のターミナルにグリースを塗ります。
- バッテリを乾燥した涼しい場所に保管します。温度が氷点下になる場所にはおかないでください。また、保管中は大体月に1回補充電してください。

エンジン取り付けブラケット用ボルト

- エンジン前部のエンジン取り付けブラケット用ボルトを規定のトルクで締め付けます。

要点

○この作業には特殊な工具が必要なので「カワサキ正規取扱店」で実施をしてください。

洗浄

- 船体の外部を水洗いし、完全に乾かします。

注意
ウォータクラフトを洗う場合は、洗浄力の弱い洗剤を水に混ぜたものだけを使用してください。強力な溶剤は化学作用で塗装表面を変色させることがあります。

- 良質のワックスを船体の外面全体に塗ります。
- すべての露出している金属部品に、錆や腐食防止のため浸透性防錆剤を軽くスプレします。
- 適当な換気が行われ、結露を防ぐためにシートを外しておくか、またはシートの下に10 mm位の木片等をおいて隙間をあけておきます。
- ウォータクラフトにカバーを掛け、ほこりのない乾燥した場所に保管します。

要点

○ ウォータクラフトを外に保管すると、シート両側のデッキに水がたまります。その水は塗装のバブルやはくり、更にはデッキマットのはくりの原因になります。もし、ウォータクラフトをトレーラに載せたまま保管する場合は、デッキの水が流出するように船首を上げておいてください。

潤滑

● すべての推奨潤滑方法を実施してください。（「整備と調整」の章の「潤滑」の項参照。）

保管後再使用する前の作業

以下の作業は保管期間終了後、ウォータクラフトを使用できる状態に戻すために必要な手順です。「カワサキ正規取扱店」で行ってもらうか、または次の事項を実施してください。詳細については、「整備と調整」の章を参照してください。

● すべての推奨潤滑方法を実施してください。（「潤滑」の項参照。）
● スロットル、ステアリングおよびシフト機構が動かなかったり、途中でひっかかったりしないか点検します。スロットルレバーは放すと完全にもとの位置に戻らなければなりません。
● スパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。（「スパークプラグ」の項参照。）
● すべてのゴムホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
● 保護パッドを敷いてウォータクラフトを左へ傾け、ジェットポンプカバーを取り外します。冷却ホースとビルジホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
● 必要なら良品と交換してください。カバーを取り付け、ボルトにネジロックを塗布してしっかりと固定します。

ボルト締付トルク：7.8 N·m (0.8 kgf·m)

● ドレンプラグがしっかり取り付けられているか点検します。
● バッテリのターミナルを清掃し、必要ならば補充電します。バッテリを取り付けてください。（「バッテリ」の項参照。）

- 燃料タンクにガソリンを入れ、燃料注入口キャップをしっかり締めます。

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないか確かめてください。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、シートを外し、小物入れ（後部）を取り出して、エンジンルームを数分間換気してください。

⚠ 警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 燃料漏れを点検し、必要があれば修理してください。
- オイルの量を調べ、少なければ規定のオイルを補充します。

⚠ 警告

密閉された場所でエンジンを運転しないでください。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

- エンジンを始動し、15秒間運転します。燃料、オイルおよび排気ガス漏れを点検してください。漏れがあれば必ず修理してください。

注意

水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。
水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないでください。エンジンの重大故障の原因になります。

- シートを取り付け、ラッチをロックします。

整備と調整

定期点検整備表

要点

○ 毎日乗る前には必ず「乗る前の点検項目」の点検を実施してください。

実施項目 ＼ 頻度	最初の10時間後	25時間毎	50時間毎	100時間毎
すべてのホース、ホースクランプ、ナット、ボルトおよびファスナを点検する。	●	●		
スロットルボディ部のスロットルボディケーブル取付部を潤滑する。		●		
スロットルコントロールケーブルおよびスロットルレバーのケーブル取付部を潤滑する。		●		
スパークプラグを清掃し、ギャップを点検し、必要ならば交換する。		●		
ステアリングケーブルジョイント(ステアリングシャフトの下部)、シフトケーブルのボールジョイントと、ステアリングノズル、リバースバケットのピボットを潤滑する。		●		
※ ハンドルバーピボットを潤滑する。		●		
※ 燃料ポンプスクリーンを清掃する。		●		
※ 燃料ベントチェックバルブを点検する。		●		
スロットルコントロール系統を点検する。		●		

頻度 実施項目	最初の10時間後	25時間毎	50時間毎	100時間毎
※ バルブクリアランスを点検調整する。				●
エアフィルタのドレンプラグを点検清掃する。		●		
※ エアフィルタを点検、洗浄する。			● (1)	
エンジンオイルを交換する。			● (1)	
エンジンオイルフィルタを交換する。				●
※ エンジン取り付けボルトを点検・締める			● (1)	
ビルジ系統およびフィルタを洗浄する。		●		
冷却系統を洗浄する(海上で操縦したときは使用後毎回)。		●		
※ エアサクションバルブを点検する。				●
※ インペラのブレードの損傷を点検する。				●
※ カップリングダンパを点検、交換する。				●
※ スロットルシャフトのスプリングを点検する(もし必要ならばスロットルアッセンブリを交換する)。				●
※ ステアリングケーブル、シフトケーブルを点検する。				●
船尾ドルンプラグの損傷を点検する(もし必要ならば交換する)			●	
バッテリターミナル及び充電状態の点検		●		

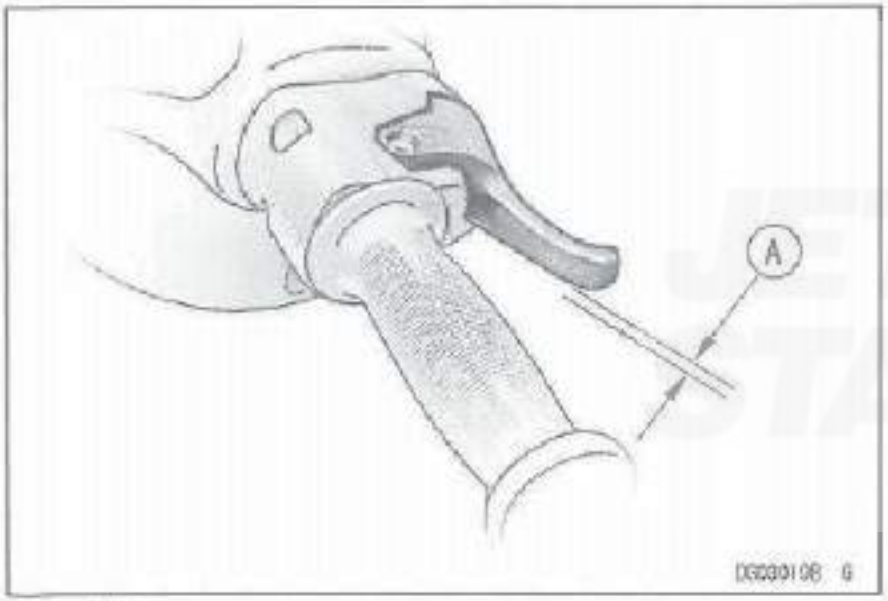
※これらの項目は適正な工具を用いて行わなければなりません。適切な設備がなく、また、機械の取り扱いに熟練していなければ、「カワサキ正規取扱店」で実施してもらってください(サービスマニュアル参照)。

(1) または毎年1回のどちらか早いほう。

コントロールケーブル

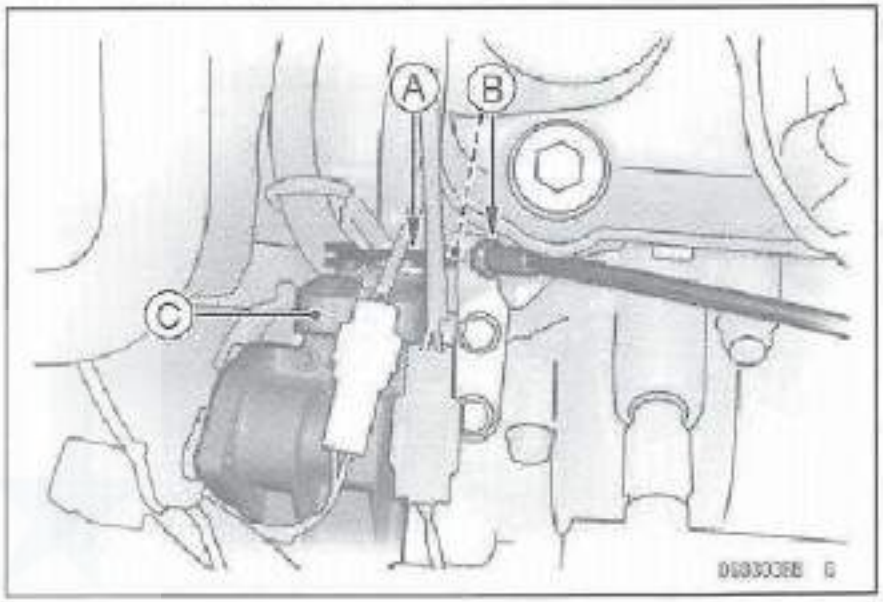
スロットルケーブルの調整

スロットルケーブルには適度の“あそび”が要ります。エンジンの回転が上がり始めるまでのスロットルレバーの動く量を測ります。約2 mmが適当な“あそび”量です。



A. 約2 mm

● スロットルケーブルのエンジン側端部のロックナットを緩め、規定の“あそび”ができるまで回転・移動させます。調整後はしっかりとロックナットを締めます。

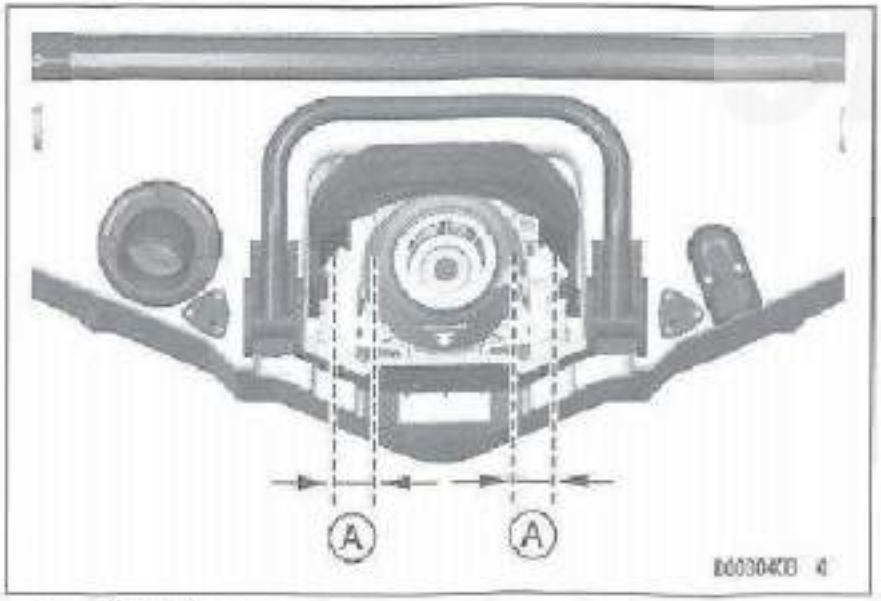


A. スロットルケーブル
B. ロックナット
C. スロットル機構

ステアリングケーブルの調整

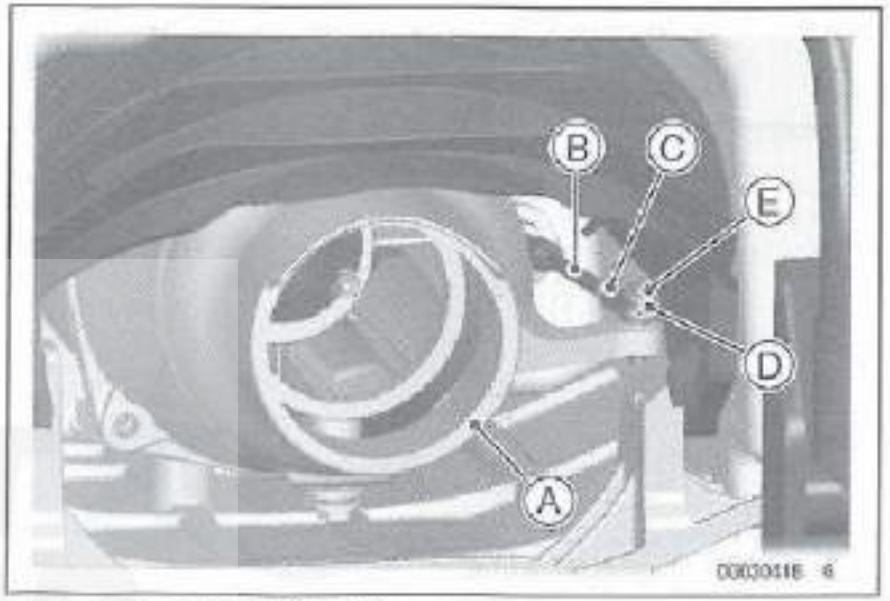
● ハンドルバーをまっすぐ正面に向けます。

- ステアリングノズルがノズル室の両側から同じ距離にあるか点検します。



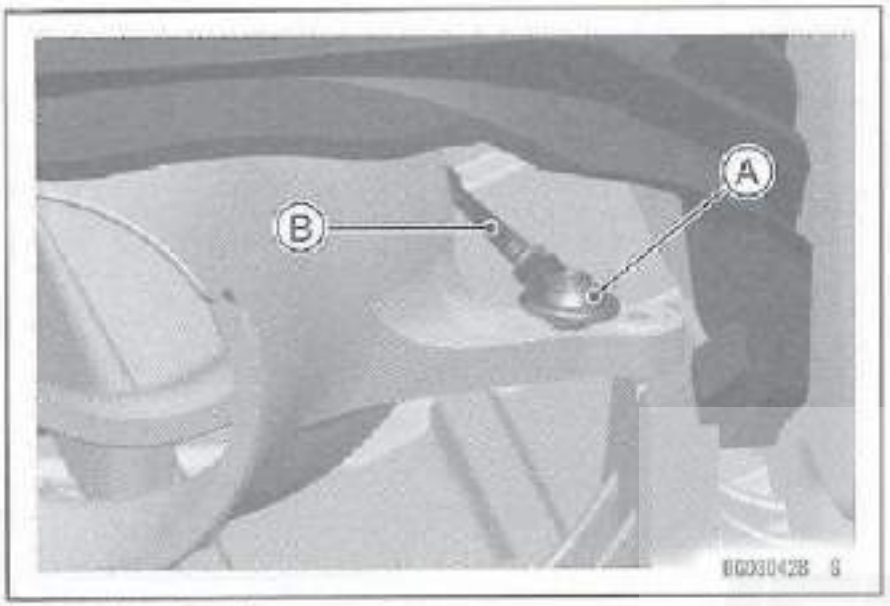
A. 等距離

- 同じ距離でなければ調整します。
- ステアリングノズル右側のステアリングリングのロックナットを緩めます。



A. ステアリングノズル
B. ステアリングケーブル
C. ロックナット
D. ジョイント
E. ボルト

- ジョイント部のボルトを外します。
- ハンドルバーをまっすぐ正面に向けます。
- リンクのジョイントを回して、ステアリングノズルがノズル室の中央に位置するように調整します。

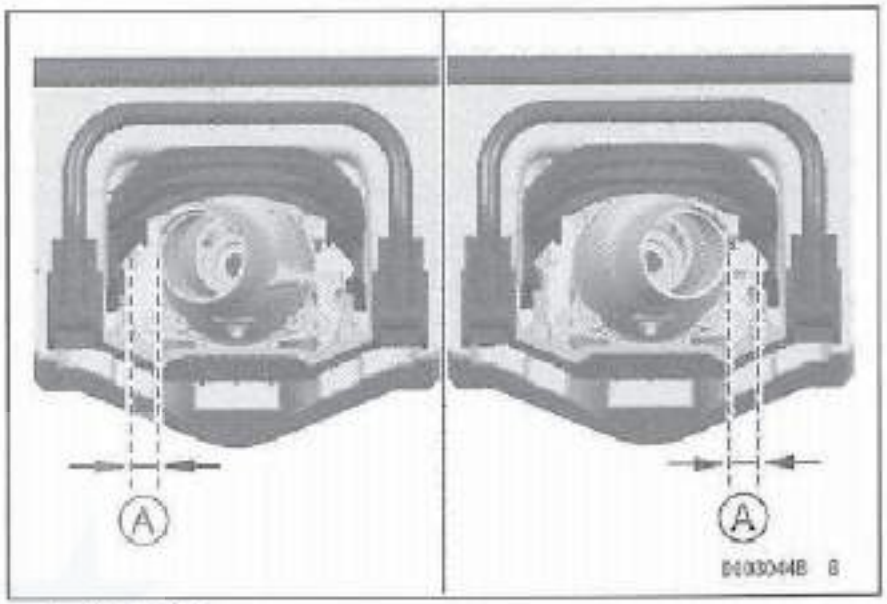


A. ジョイント
B. ロックナット

- ノズルにジョイントを接続し、もう一度ステアリングケーブルの調整具合を点検します。
- 調整が正しければ、ロックナットをしっかり締めます。また、ボルトにネジロックを塗布し、ジョイントをノズルに取り付けます。

ボルト締付トルク：9.8 N·m (1.0 kgf·m)

- もう一つの点検方法として、ハンドルを左右にいっぱい切ります。ステアリングノズルの左右の端からノズル室までの隙間を計り、それぞれが同じであれば正確に調整されています。



A. 等距離

ステアリングケーブルの点検

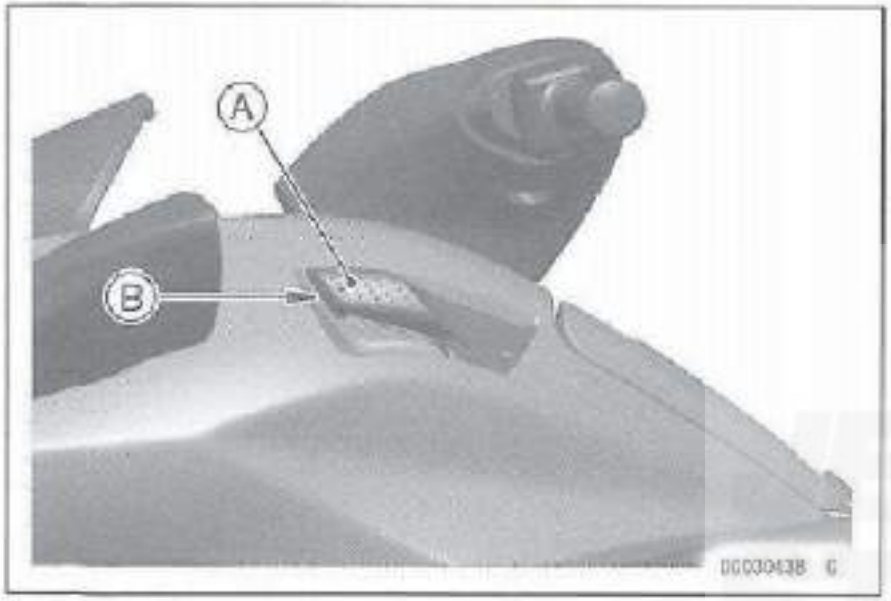
ステアリングの動きがスムーズでなかったり、ひっかかっているように感じられたときは、「カワサキ正規取扱店」で点検を受けてください。

要点

- ステアリングケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。

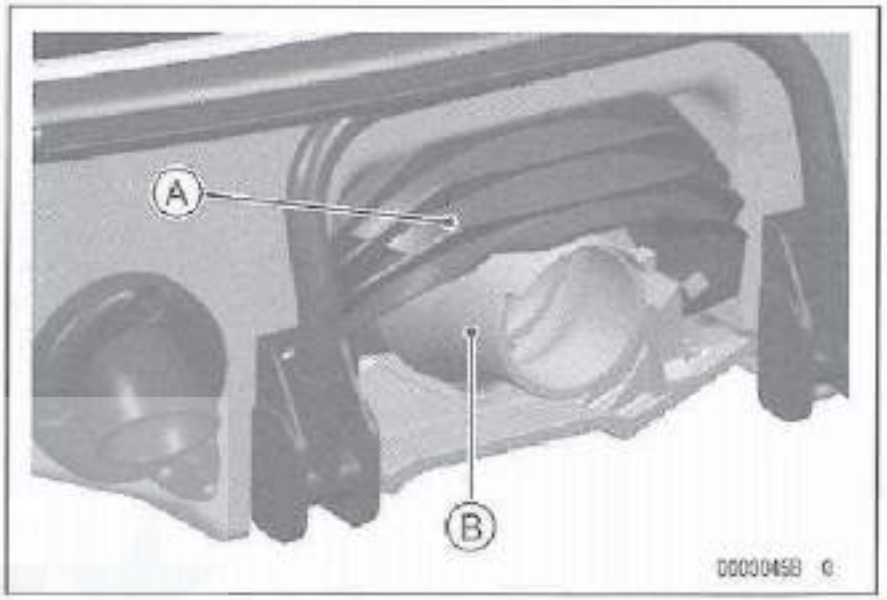
シフトケーブルの調整

- シフトレバーを“F”（前進）の位置に入れます。



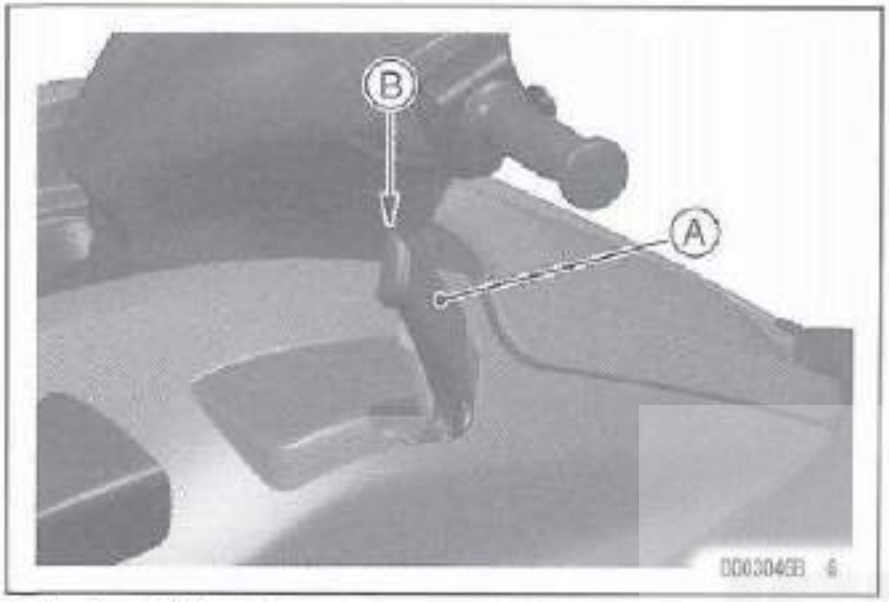
A. シフトレバー
B. “F”（前進）

- このとき、スターン（船尾）にあるリバースバケットに少し遊びがあり、手で押し下げてもバケットの下端はステアリングノズルの上端より上に位置します。



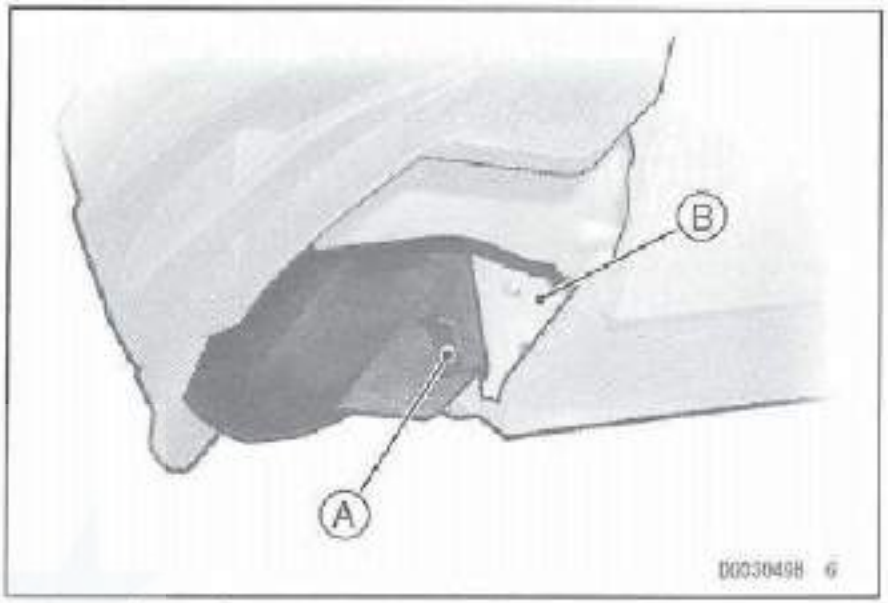
A. リバースバケット
B. ステアリングノズル

- シフトレバーを“R”（後進）の位置に入れます。



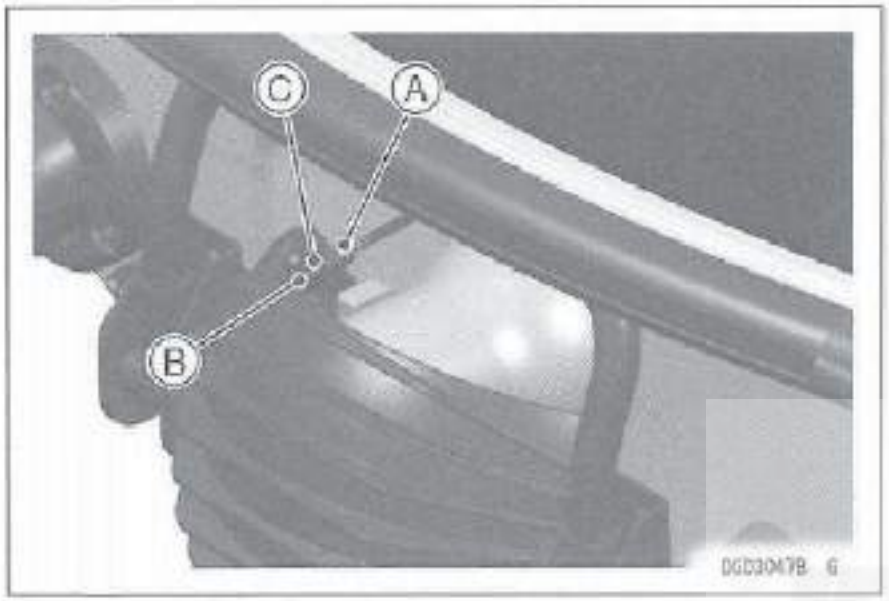
A. シフトレバー
B. "R" (後進)

● このとき、リバースバケットの下端右側のストッパーが、ポンプカバーの底面に当たっています。



A. ストッパー
B. ポンプカバー

● もしどちらかでも異なっていれば、シフトケーブルを調整します。
● シフトレバーを "R" (後進) の位置に入れます。
● シフトリンクのボールジョイントのロックナットを緩めます。

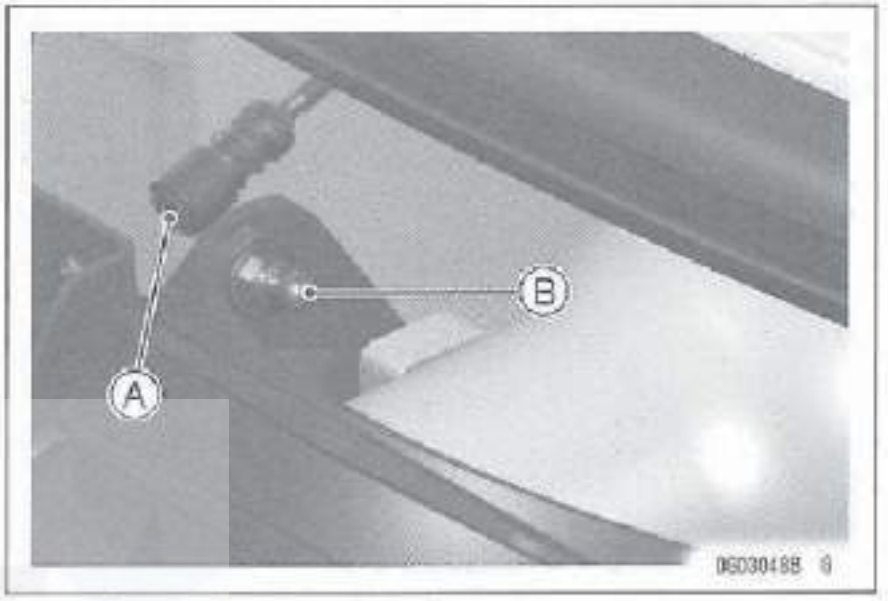


A. ロックナット
B. ボールジョイント
C. スリーブ

- アウタスリーブを少しずらして、ボールからボールジョイントを外します。
- リンクのボールジョイントを回して、シフトレバーが“F”（前進）の位置にあるとき、バケットに2～3 mmの遊びがあり、手で押し下げてもバケットの下端がノズルの上端より上にあるように調整します。

要点

○ケーブル端部が5 mm以上ジョイントにねじ込まれていることを確認します。



A. ボールジョイントの穴
B. ボール

- ボールにボールジョイントを接続し、もう一度シフトケーブルの調整具合を点検します。
- 調整が正しければ、ロックナットをしっかり締めます。

シフトケーブルの点検

シフトケーブルの動きがスムーズでなかったり、ひっかかっているように感じられたときは、「カワサキ正規取扱店」で点検を受けてください。

要点

○シフトケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。

燃料系統

スロットルの調整

アイドリングスピード:
アイドリングスピードの調整は「カワサキ正規取扱店」で行ってください。もし、アイドリングが不安定になったらスロットルボディを販売店で点検してもらってください。

アイドリングスピード

水上・・・・約1 300 ±100 rpm

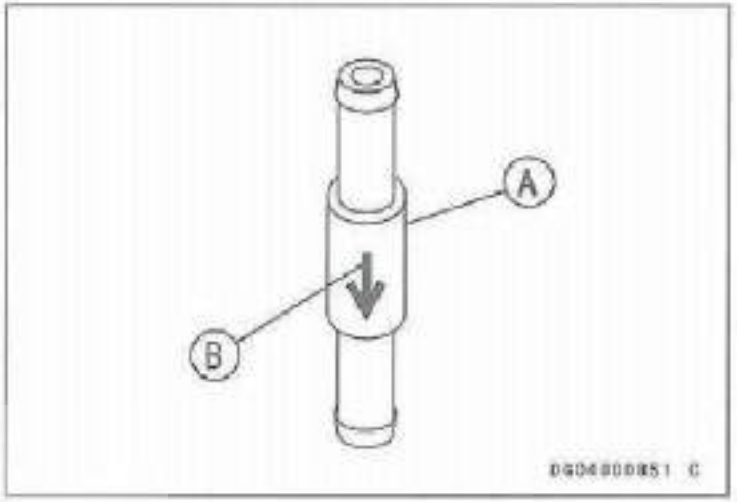
陸上・・・・約1 300 ±100 rpm

高地でウォータクラフトを使用する場合でもECU（エンジンコントロールユニット）が自動的に燃料／空気の混合を調整するため特別な調整は要りません

燃料ベントチェックバルブ

燃料タンクにはベントホースが設けられています。ベントホースの中間にチェックバルブが取り付けられ、ウォータクラフトが転覆したときの燃料流出を少なくし、かつ燃料タンクへ空気が入るようになっています。

「定期点検整備表」の規定に従って、チェックバルブの検査を「カワサキ正規取扱店」で受けてください。



A. チェックバルブ
B. 流れの方向

燃料ポンプスクリーン

ウォータクラフトには燃料系統に汚物や異物が入らないように、燃料ポンプにスクリーンが設けられています。

「定期点検整備表」の規定に従って、スクリーンの検査を「カワサキ正規取扱店」で清掃してもらってください。

燃料ホース

ゴム部品であるホースは年月がたつと劣化します。長期保管前および長期保管後乗る前には「カワサキ正規取扱店」で燃料系統の点検を受けてください。

⚠ 警告

このウォータクラフトは燃料噴射モデルで、燃料ホースには常に高圧がかかっています。そのため劣化による割れやホース接続部に緩みがあるとガソリンが噴出し、火災や爆発の原因となるおそれがあります。

エンジンオイル系統

エンジンには適量のエンジンオイルを保つことが不可欠です。「定期点検整備表」にしたがってエンジンオイルおよびオイルフィルタを交換してください。エンジンオイルにはごみ等が溜まる他、長時間使用によりオイル自体が劣化します。

エンジンオイルおよびオイルフィルタの交換

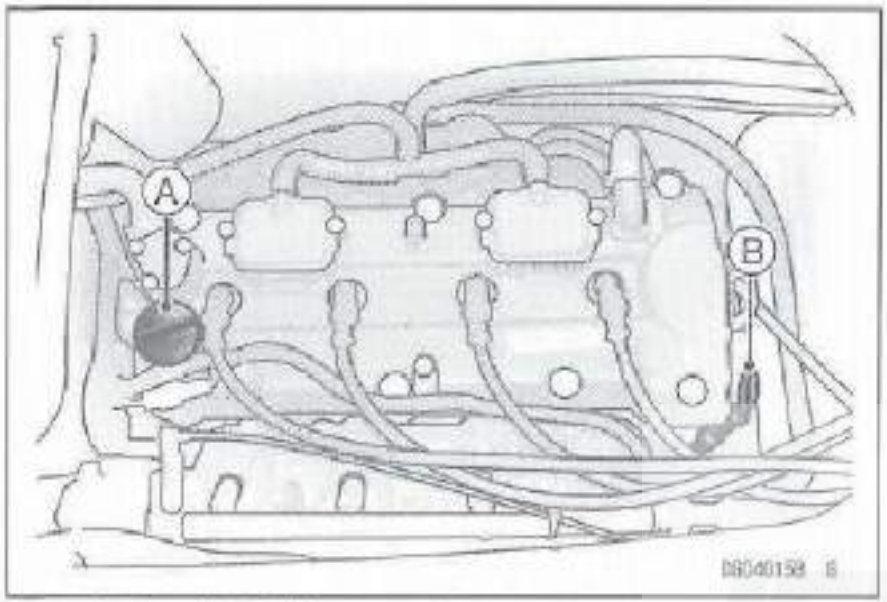
下記の要領にしたがってエンジンオイルおよびオイルフィルタを「定期点検整備表」に記載されている時期に交換してください。

- ウォータクラフトを前後・左右方向に極力水平に据付けます。
- 十分に換気された区画で冷却水を送りながらエンジンを始動します。

注意

エンジンは冷却水を出す前に始動し、エンジンを停止するときは先に冷却水を止めてください。また、冷却水無しではエンジンは15秒以上運転をしないでください。

- エンジンを暖気し、その後停止します。
- オイル注入孔キャップおよびレベル計測ゲージを外します。



A. オイル注入孔キャップ
B. レベル計測ゲージ

注意

エンジン内部にごみや異物が入らないように注意してください。

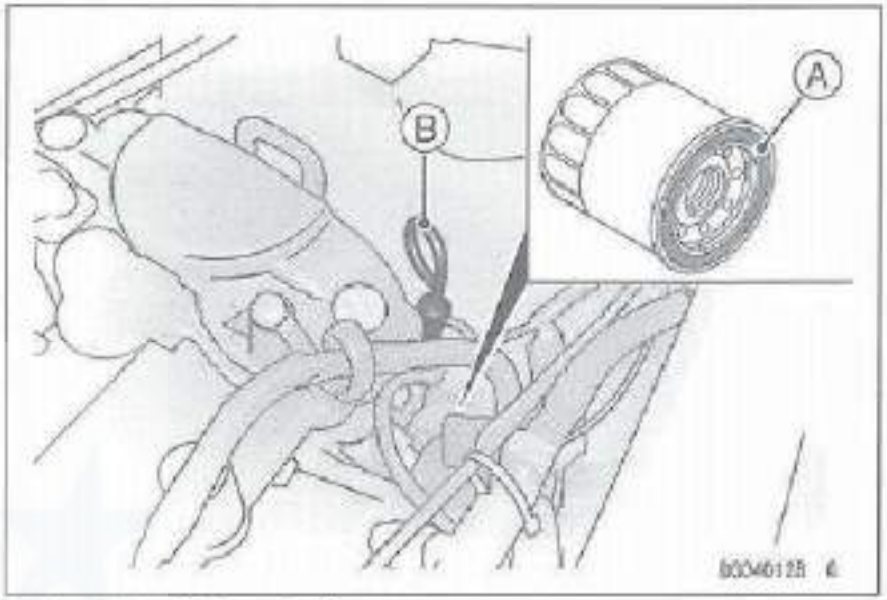
● レベル計測ゲージパイプからバキュームポンプ等を利用してオイルを排出します。

注意

エンジンオイル等の廃液は法令で適切な処置を行うことが義務づけられていますので、「カワサキ正規取扱店」にご相談ください。

● こぼれ出る油を受けるため、布きれ等を下部に敷きます。

● オイルフィルタを外します。



A. オイルフィルタ
B. レベル計測ゲージ

● オイルフィルタのガスケット部に薄くエンジンオイルを塗り、規定のトルクで締めつけます。

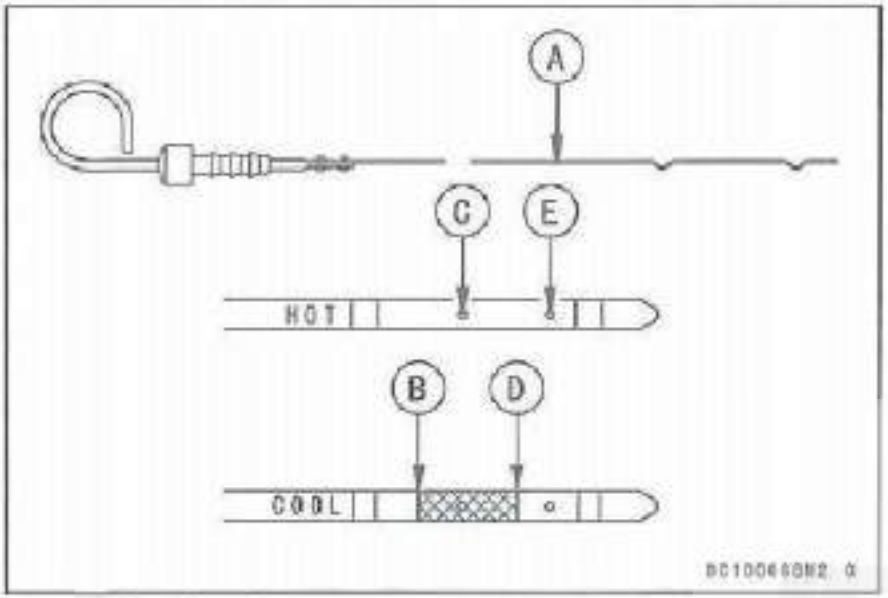
フィルタ締めつけトルク

16 ~ 20 N·m (1.6 ~ 2.0 kgf·m)

● 下の表に指定されているオイルを計測ゲージの“H”（ハイレベル）の線まで注入します。（冷間用のマークを使用します。）

要点

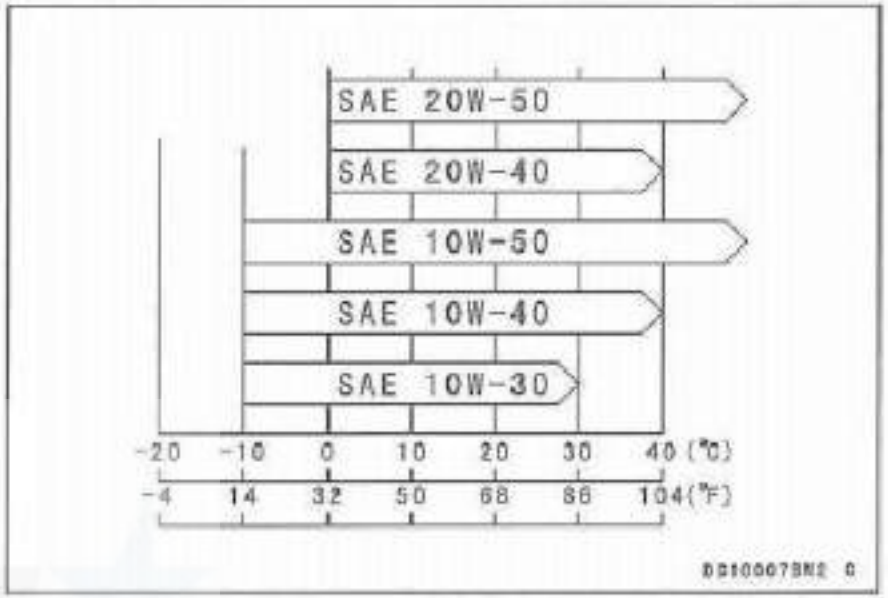
□ オイルを“H”（ハイレベル）以上に入れ過ぎないように注意します。入れ過ぎたらオーバーした分を排出してください。



A. 計測ゲージ
B. 冷間時の“H” (ハイレベル)
C. 温間時の“H” (ハイレベル)
D. 冷間時の“L” (ローレベル)
E. 温間時の“L” (ローレベル)

タイプ	API SE、SFまたはSG JASO MA API SH、SJまたはSL SAE10W-40
必要量:	4.0 L(通常の入替時) 5.0 L(エンジンを完全に空にした時)

通常10W-40が推奨オイルですが、使用状況によってはオイル粘度を次の表により変える必要があります。



- オイル注入孔キャップおよびレベル計測ゲージをしっかりと締めつけます。
- 冷却水を接続し、供給しながらエンジンを数分間始動します。(冷却水の供給のしかたは本章の[冷却系統の洗浄]の項を参照してください。)

注意

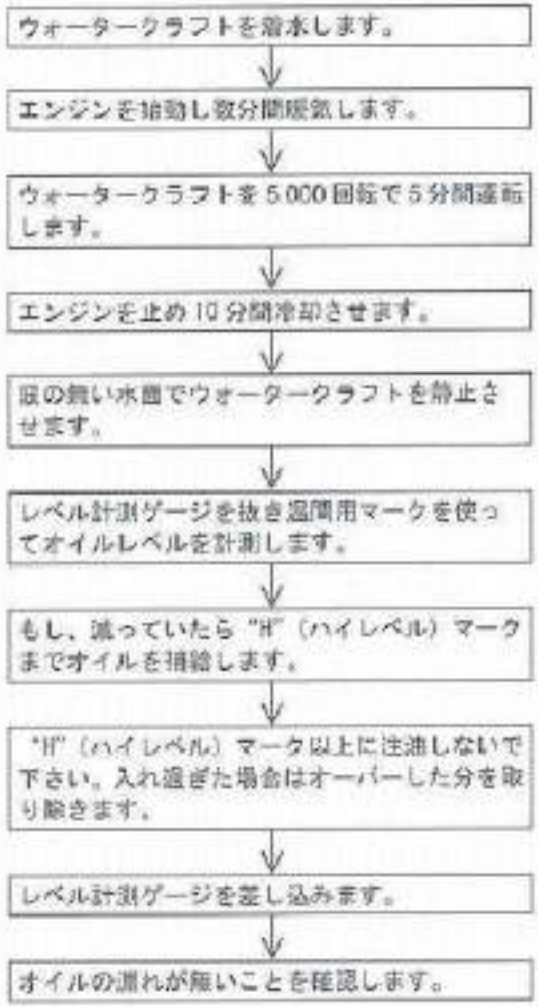
水を流す前に、必ずエンジンをかけておいてください。先に水を流すと、エギゾーストパイプを通ってエンジン内に水が逆流して、内部を損傷するおそれがあります。

- 再度オイルレベルを計測し、“H” (ハイレベル)と“L” (ローレベル)の間にあることを確認します。
- エンジン室内にオイルの漏れがないか確認します。

要点

○この作業は適切な技術と工具が要ります。必要な時には、「カワサキ正規取扱店」にご相談ください。

エンジンオイルが注入された後、下に示す手順でオイルレベルを注意深く計測してください。



JET STAR

要点

- オイルレベルを計測する時に、ウォータクラフトの前後方向のトリムおよび左右方向の傾斜はオイルレベルに大きな影響を与え、正確な計測ができません。計測は搭乗者および荷物がウォータクラフトに載っていない状態で行ってください。また、燃料タンクはフルの状態で計測をしてください。
- このオイルレベルを水上で計測する方法はオイル量が不足して補給した場合でも行ってください。

バルブクリアランス

バルブクリアランスはバルブやバルブシートの摩耗によって小さくなり、バルブタイミングを不適切にします。

注意

バルブクリアランスの調整をしないとバルブが完全に閉じなくなり、パワーがロスするだけでなく、バルブやバルブシートが焼けてエンジンが損傷するおそれがあります。

- 定期点検表に従がってバルブクリアランスを点検し、調整してください。
- バルブクリアランスの点検と調整は「カワサキ正規取扱店」でしてください。

バルブクリアランス

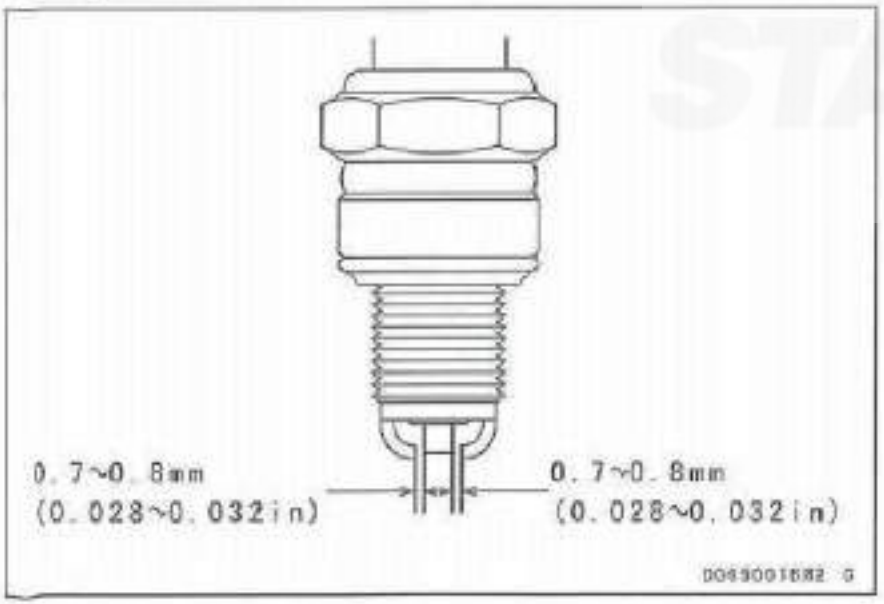
吸入側	0.15 ~ 0.24 mm
排気側	0.22 ~ 0.31 mm

スパークプラグ

「定期点検整備表」の規定に従ってスパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。

標準のスパークプラグはNGK CR9EKで、ギャップを0.7 ~ 0.8 mmに調整して使用してください。

ウォータクラフトのエンジンは水冷で、一般的に一定のスロットル開度で運転されるので、シリンダヘッドの温度は比較的安定しています。従って、エンジンの調子がよく、調整も適切であれば、熱価の異なったスパークプラグを使用する必要はありません。間違った熱価のスパークプラグを使用すると、エンジンの広範な損傷の原因となるので、標準のスパークプラグのみ使用してください。



スパークプラグの検査および交換:

スパークプラグを取り外し、絶縁碍子を検査します。電極のまわりの絶縁碍子を見ると燃焼状態がわかります。エンジンが適正に運転されていると、絶縁碍子はきれいで薄褐色をしています。絶縁碍子が白くなり過ぎたり、プラグに灰色の金属性の付着物があるなら、燃焼室の温度が高過ぎます。「トラブルシューテイング」の章を参照してください。

注意

過度の運転温度はエンジンに重大な損傷を起こすので、原因をつきとめ直ちに修正してください。

絶縁碍子に乾いたすすのような黒い堆積物があるときは、燃料と空気の混合が濃過ぎることを示しています。スロットルコントロールケーブルが正しく調整されているか点検してください。「トラブルシューテイング」の章を参照してください。

堆積物をかき落とすか、プラグクリーナを使って、両電極や中心電極のまわりの碍子を清掃します。プラグから研磨粉等を完全に除去した後、洗浄油で清掃します。ギャップが広がっていれば、0.7 ~ 0.8 mmに調整します。電極が腐食または摩損していれば、プラグを交換します。絶縁碍子のひび割れ、またはネジ部の損傷等目に見える損傷があるときは、いつでもプラグを交換してください。

スパークプラグ締付トルク:

11 ~ 15 N·m (1.1 ~ 1.5 kgf·m)

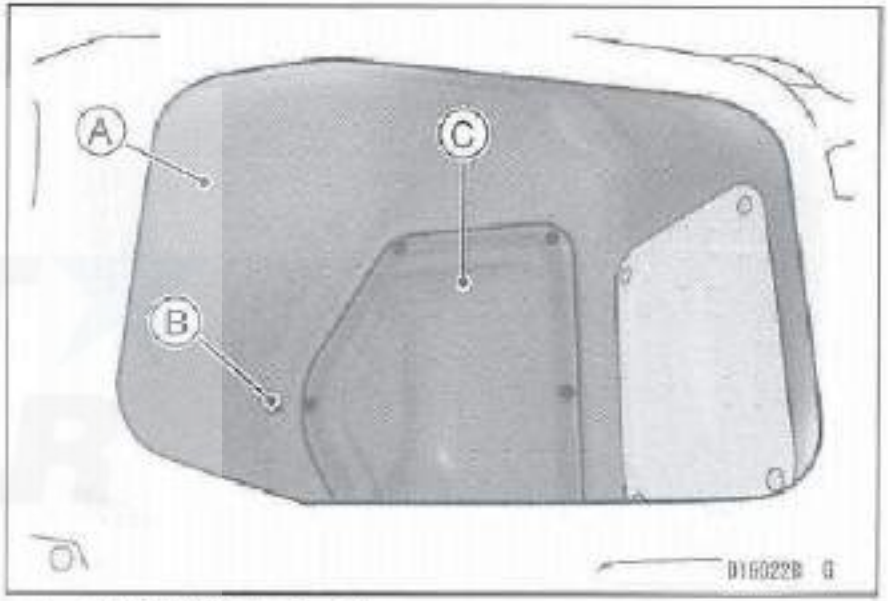
スパークプラグの取付け

- スパークプラグをプラグホールへ差込ます。
- 規定トルクでプラグを締め付けます。
- プラグキャップをプラグに取付け充分差し込んだ後、軽く引っぱってキャップの取付が良好であることを確認します。

バッテリ

バッテリは船首の格納スペースの中にあります。

- 備品入れを取り出して、バッテリ格納スペースのふたを外してください。

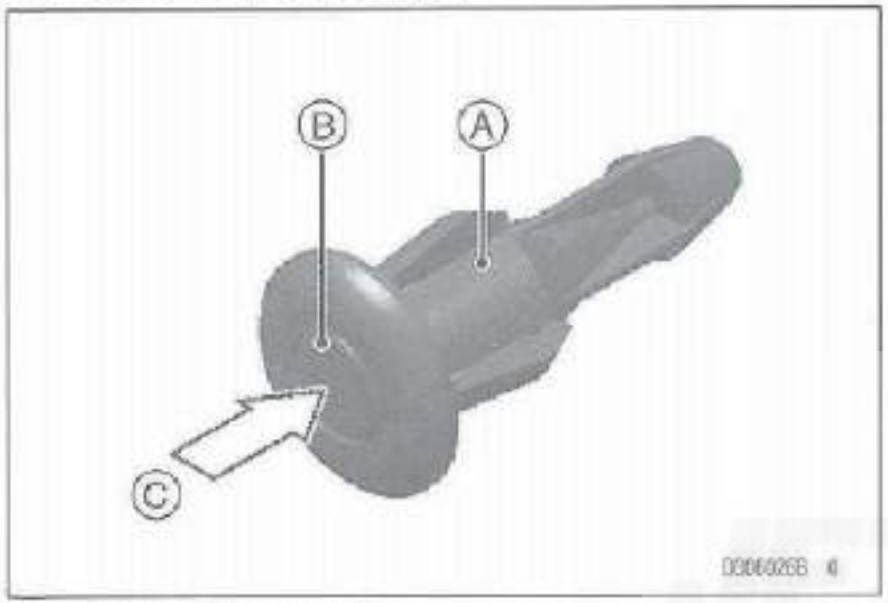


A. 船首格納スペース
B. ドレンプラグ
C. バッテリ格納スペースふた

要点

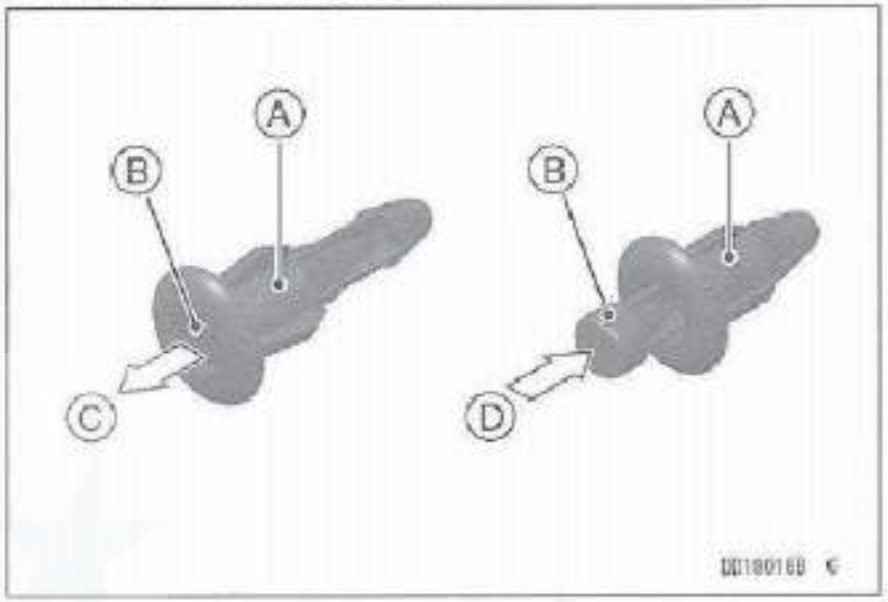
○ バッテリ格納スペースのふたはクイックリベットで止められています。クイックリベットを外すにはリベット中央のピンを押し込んでください。取り付けるときはまず中央のピンを引っ張り出した状態でリベット本体を取り付け、その後にピンを押し込みます。

クイックリベットの取り外し:



A. クイックリベット
B. ピン
C. ピンを押し込む。

クイックリベットの取り付け:



A. クイックリベット
B. ピン
C. ピンを引っ張り出す。
D. ピンを押し込む。

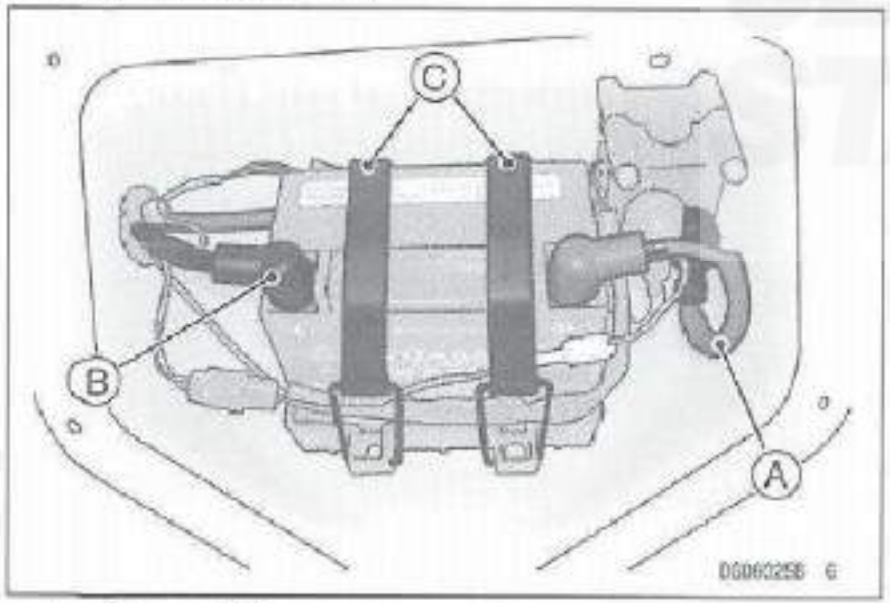
このウォータクラフトは密閉型バッテリを使用しています。従って、バッテリ液の点検や補充の必要はありません。新品のバッテリにバッテリ液がいったん入れられたら、密封栓を外さないでください。また、このウォータクラフトは、密閉型バッテリのみ使用するように設計されていますので、通常のバッテリと交換しないでください。

注意
密封栓は絶対に外さないでください。バッテリが損傷します。 バッテリを交換する場合は、必ず同型式のバッテリをご使用ください。違う型式のバッテリを使用すると、電気系統が正しく機能しません。 使用済みのバッテリを廃却する場合は、「カワサキ正規取扱店」にご相談ください。

要点

○ 密閉型バッテリを補充電する時は、バッテリのラベルの指示に必ず従ってください。

バッテリの取り外し:

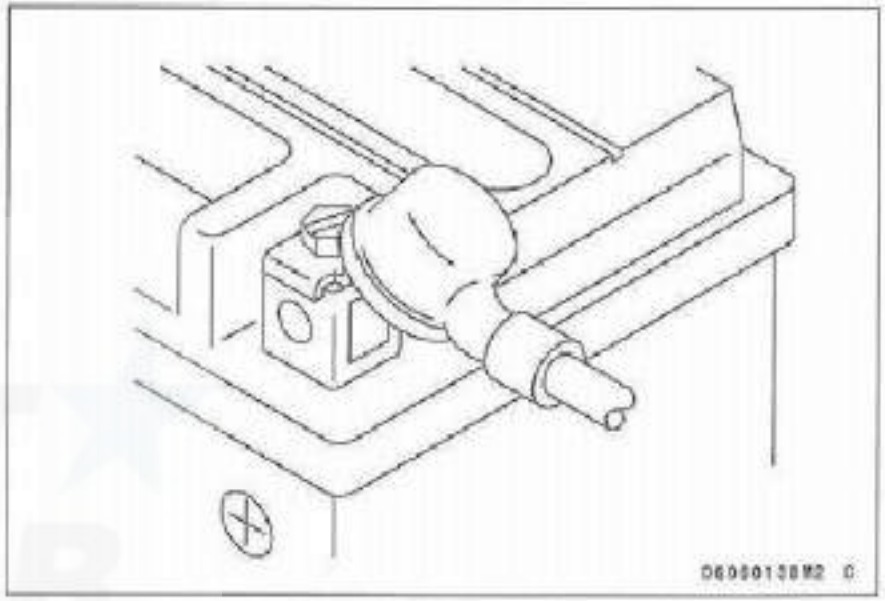


A. 赤ケーブル
B. 黒ケーブル（アース）
C. バンド

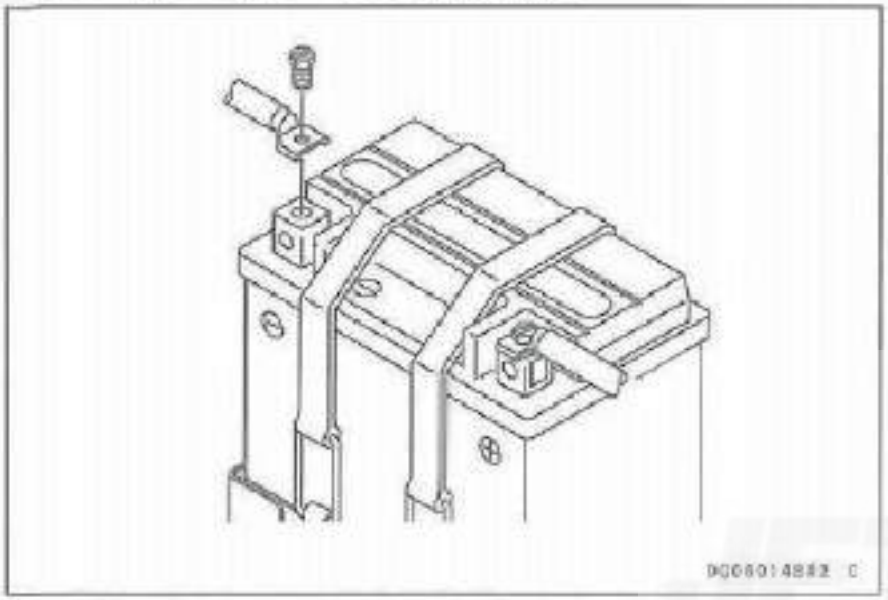
1. バッテリケーブルの取り外し

● 必ず鍵のイグニッションキーを抜いてから実施してください。

(1) キャップをずらす。

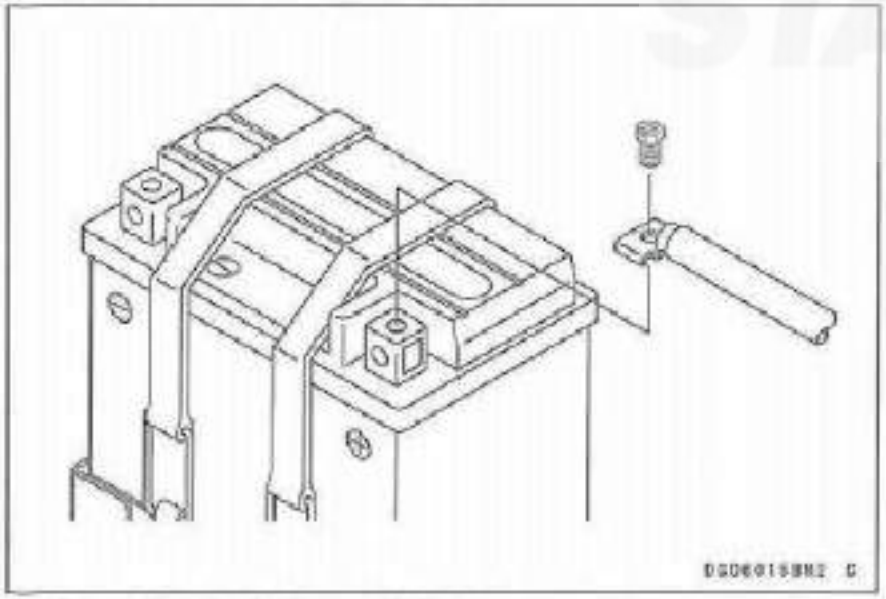


(2)マイナス側ケーブルの取り外し



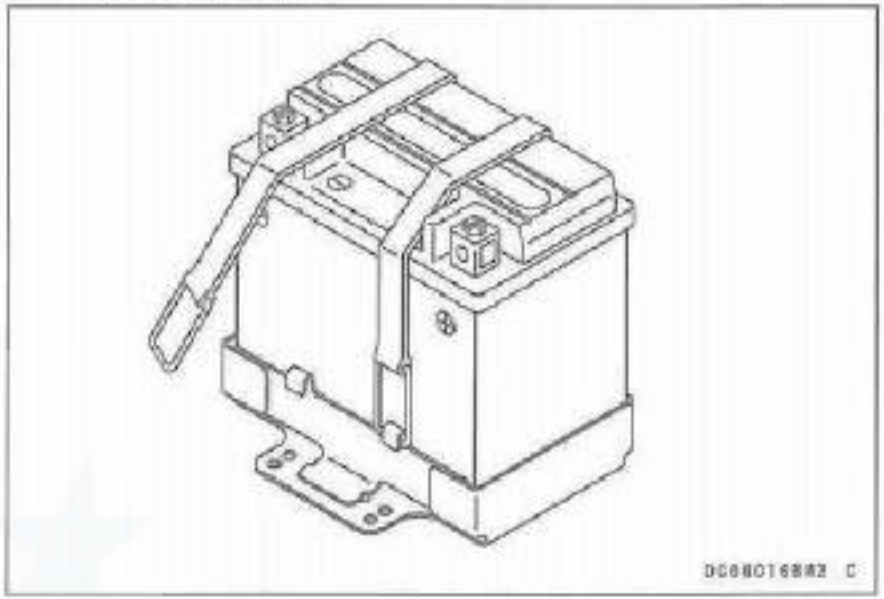
● 必ずマイナス（－）側を先にはずす。

(3)プラス側ケーブルの取り外し



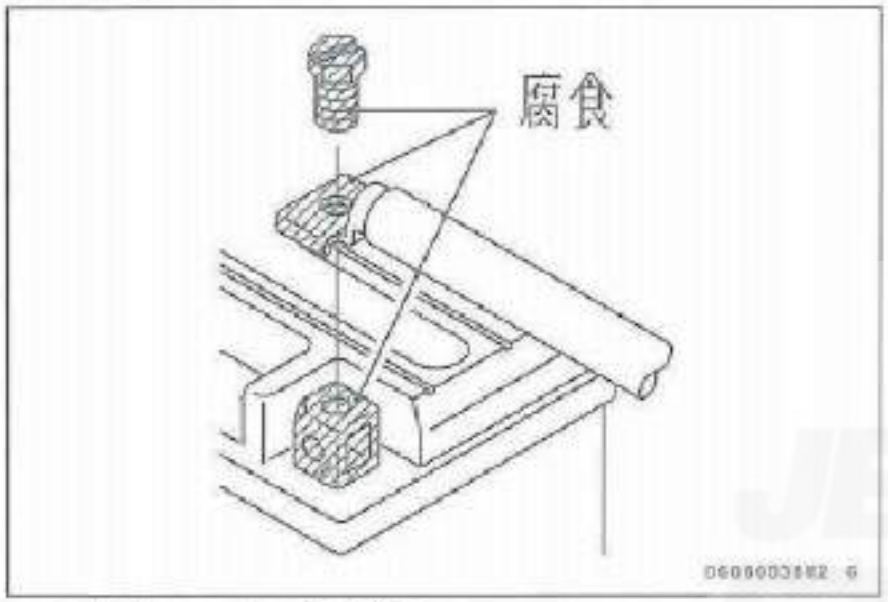
● 次に（＋）側をはずす。

2. バッテリ取り外し



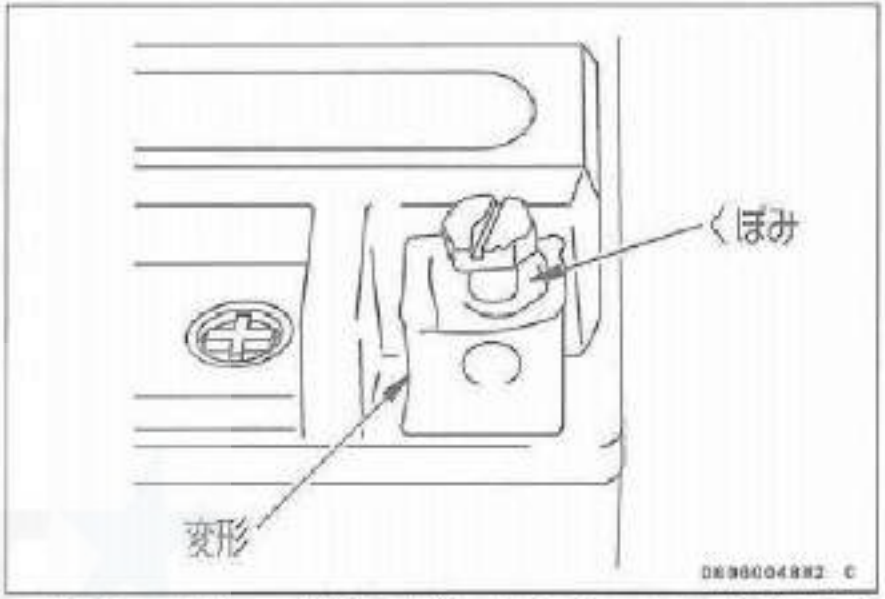
● 固定バンドの金具をフックより取りはずす。

バテッリの点検、処置:
(1)バッテリ端子部の酸化・腐食〔緑青の発生、白い粉吹き等〕



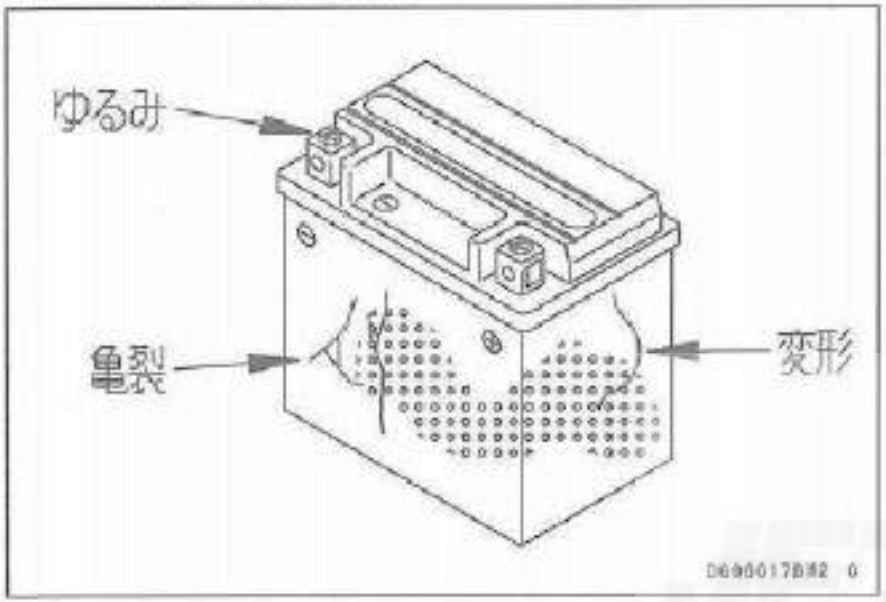
<クリーニング方法>
1. 浸透潤滑剤スプレーを塗布する。
2. 5分間放置する。
3. 布で拭きとる。またはサンドペーパー、ワイヤブラシで磨く。

(2)バッテリ端子の損傷(変形、割れ、くぼみ)



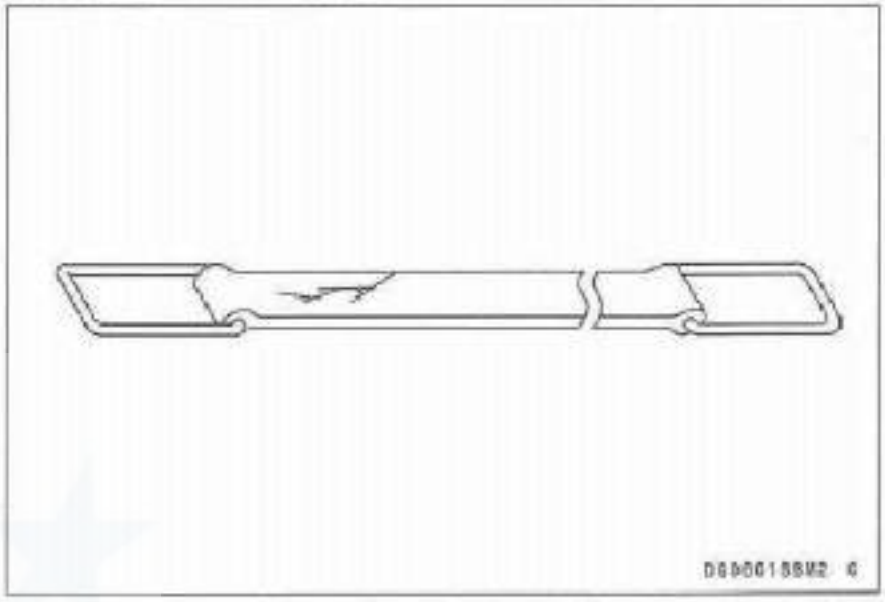
● 変形、割れ、くぼみがあればバッテリを交換する。

(3)バッテリ本体の点検



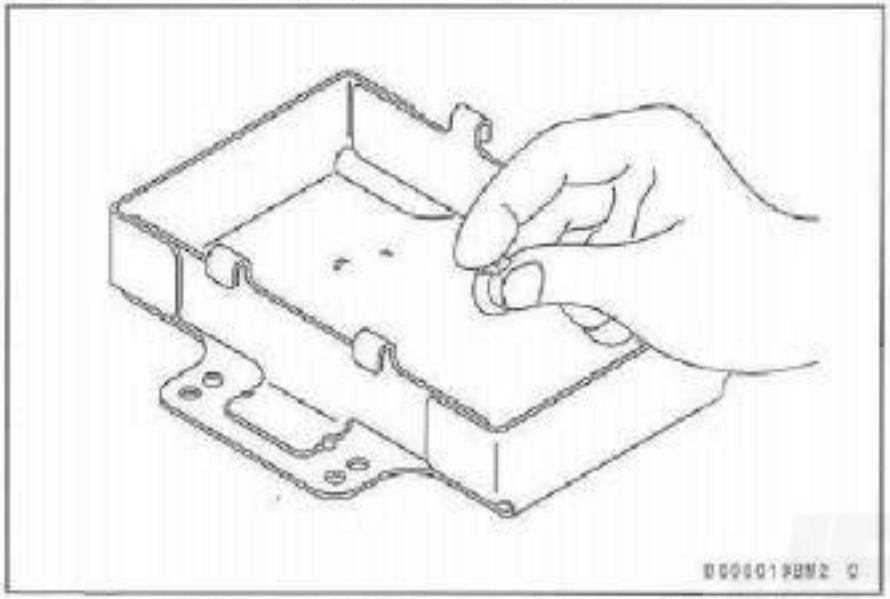
● 変形、割れ等のダメージがないことを確認する。

(4)固定バンドの点検



● 切れ、割れ、伸びなどの劣化がないことを確認する。

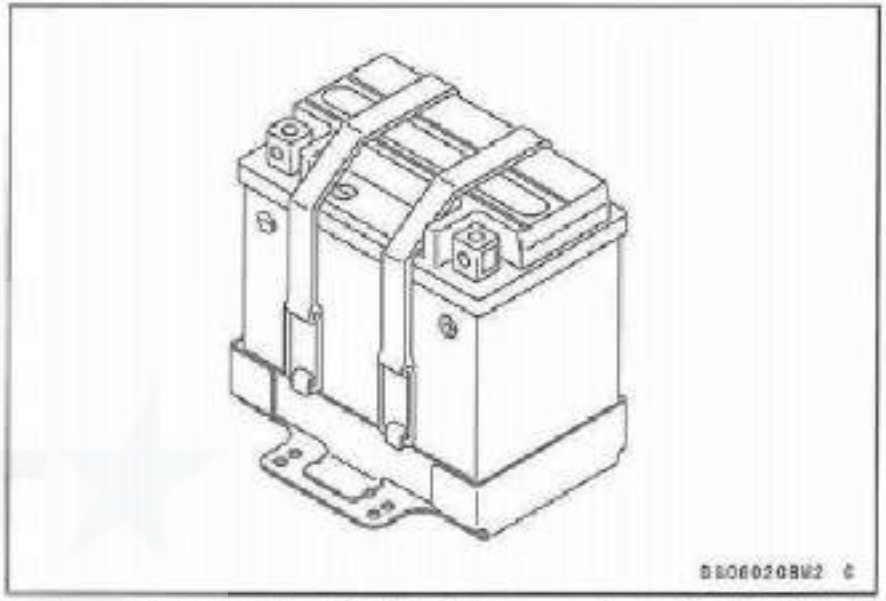
(5)バッテリ取り付けケースの清掃



- 取り付けケースを確認し、ゴミなどがあれば除去する。

バッテリの取り付け:

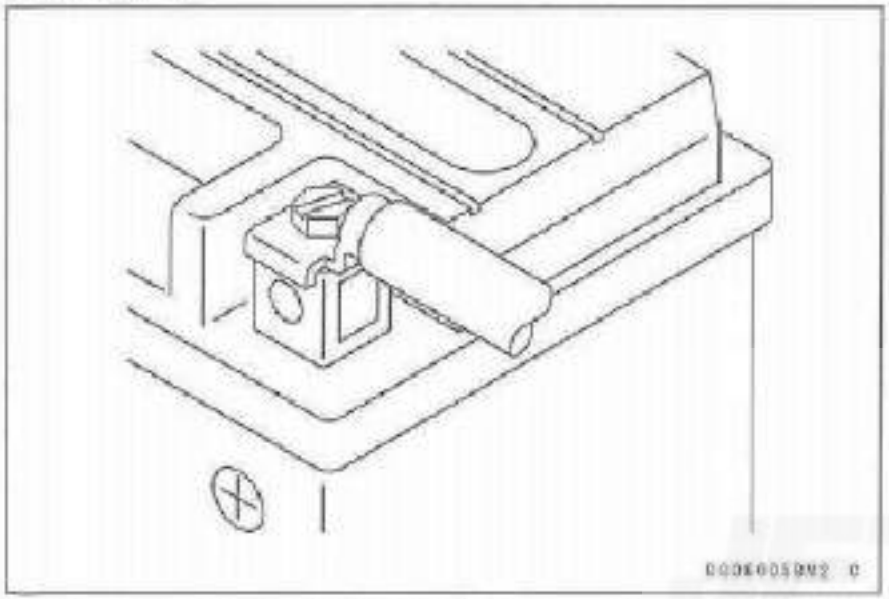
1. バッテリの取り付け、固定



- バッテリをバンドで固定し、バッテリにガタが無いことを確認する。

2. ケーブル組み付け
- ケーブルは必ずプラス側を先に取り付けてください。

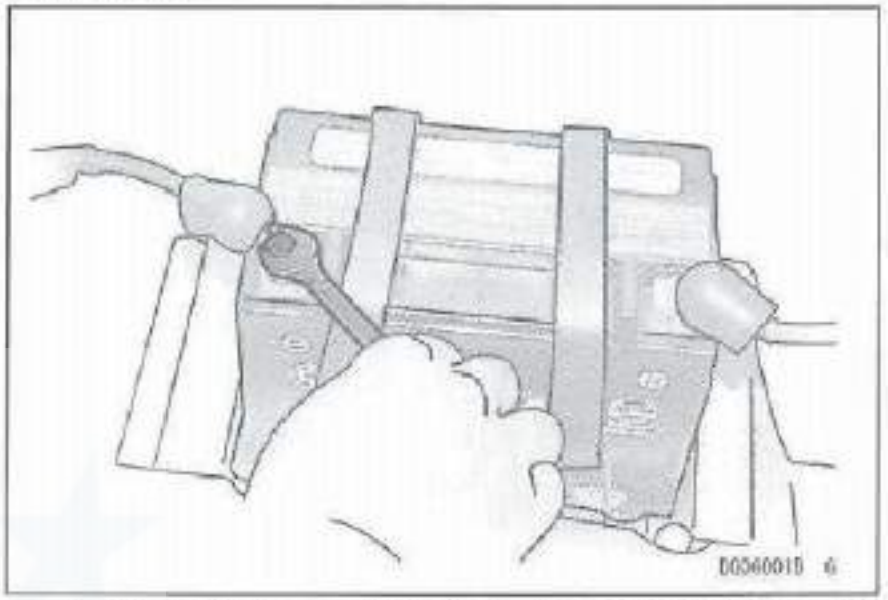
(1)仮締め



● ケーブル端子の向きに注意し、バッテリ端子とケーブル端子が密着するように取り付ける。

注意
バッテリの(＋)と(－)を逆に接続しないでください。レギュレータや整流器が損傷します。

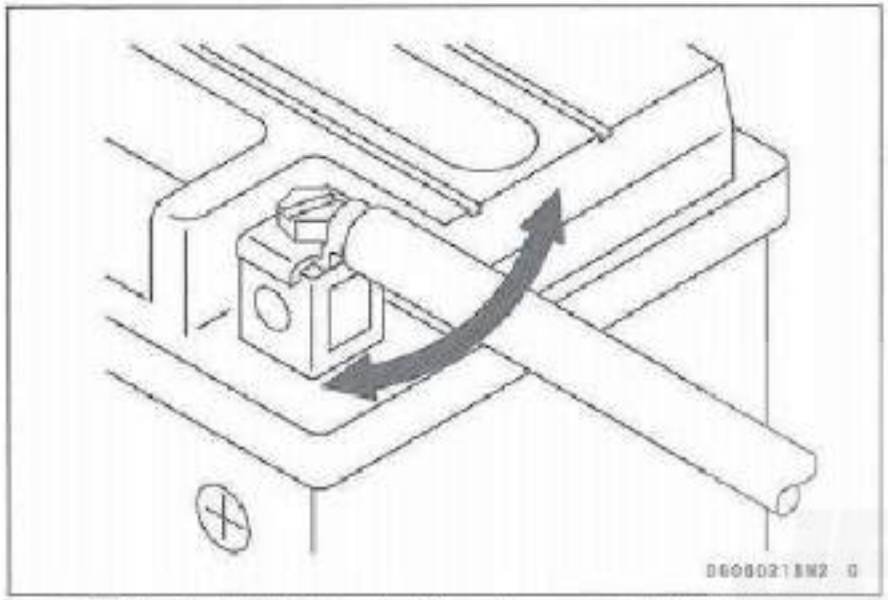
(2)本締め



● スパナを使用し、規定トルクで締め付ける。規定トルク：3 N·m (0.3 kgf·m)

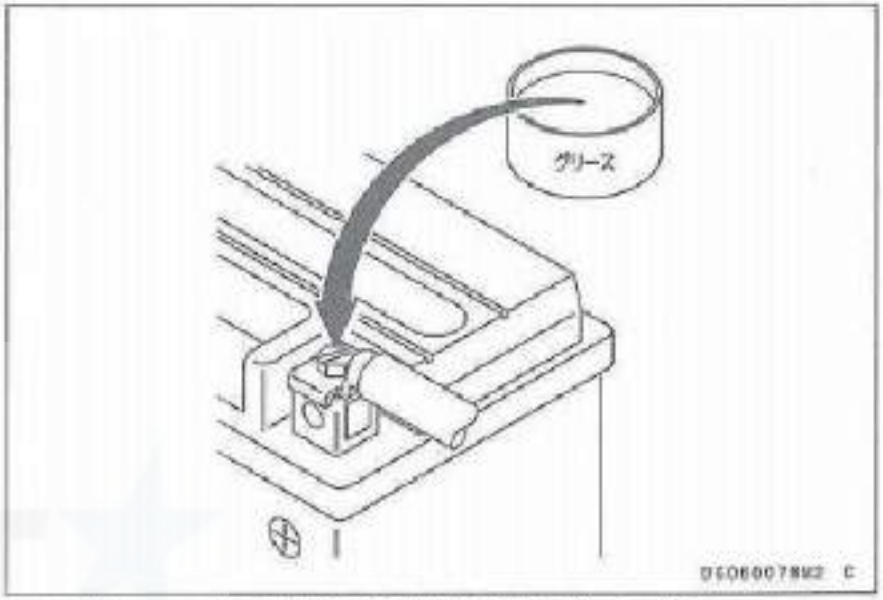
注意
プラス側を本締めした後、マイナス側を取り付ける。

(3)バッテリケーブルの固定確認



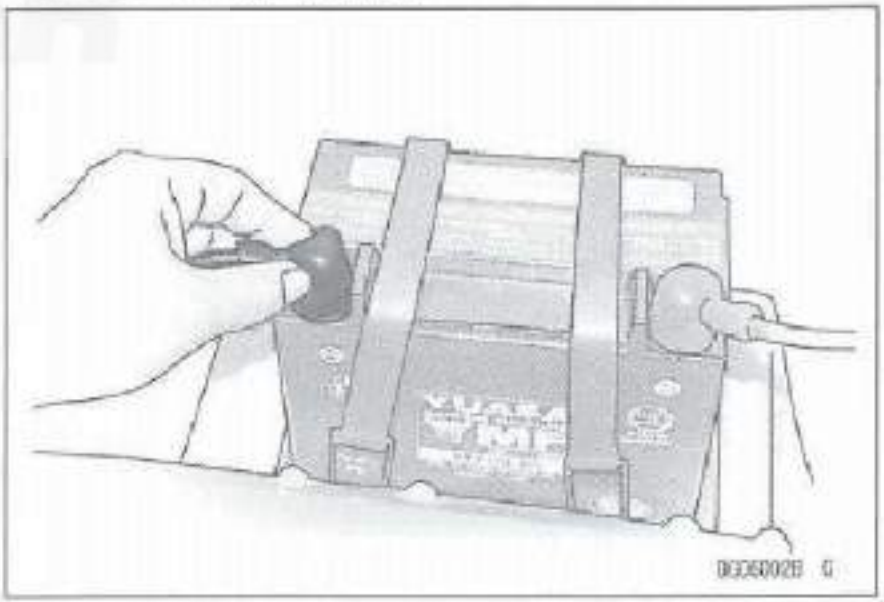
● 両側とも本締めした後、ケーブル端子を左右方向に動かし、ケーブルが動かないことを確認する。

(4)防錆処理



● グリースまたは浸透潤滑剤を塗布する。

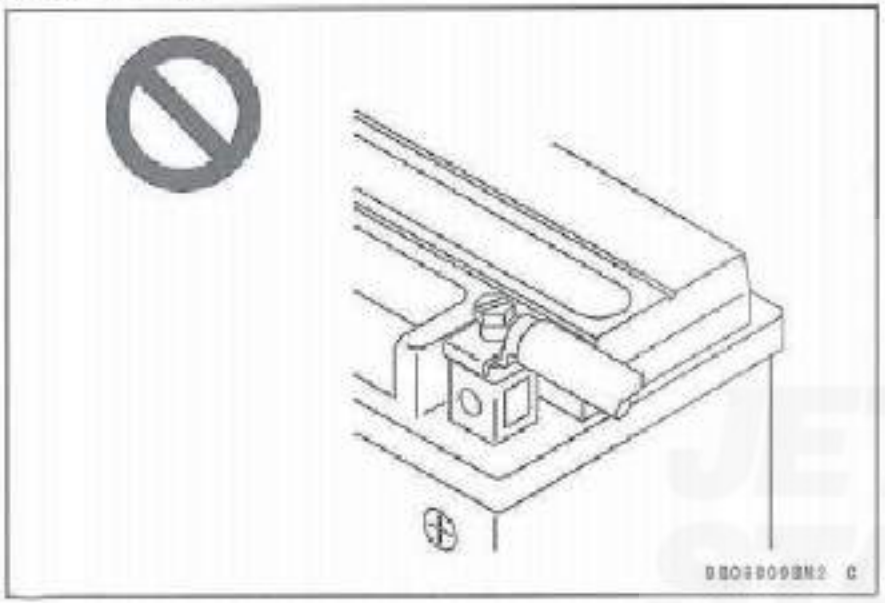
(5)端子キャップ取り付け



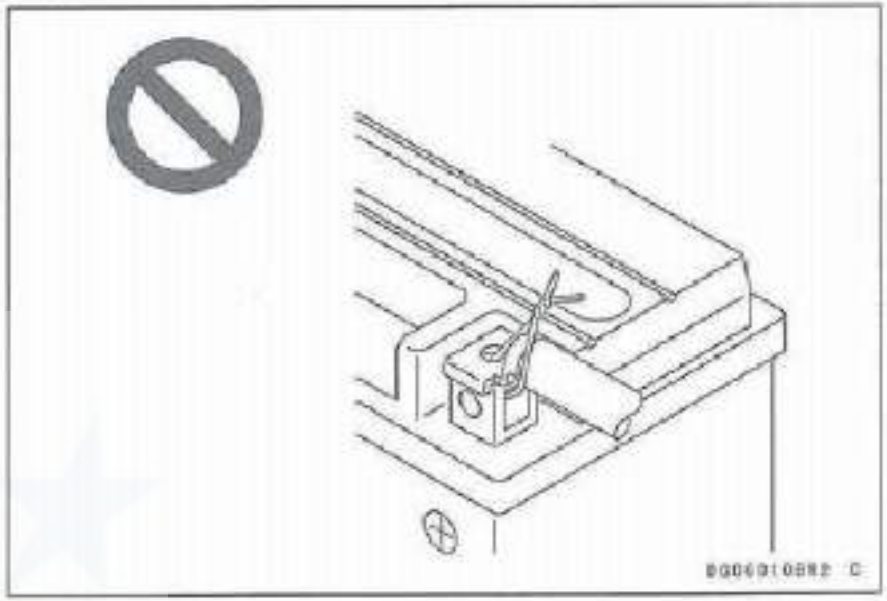
● 端子部を端子キャップで確実にカバーする。

ケーブル取り付け時の注意事項

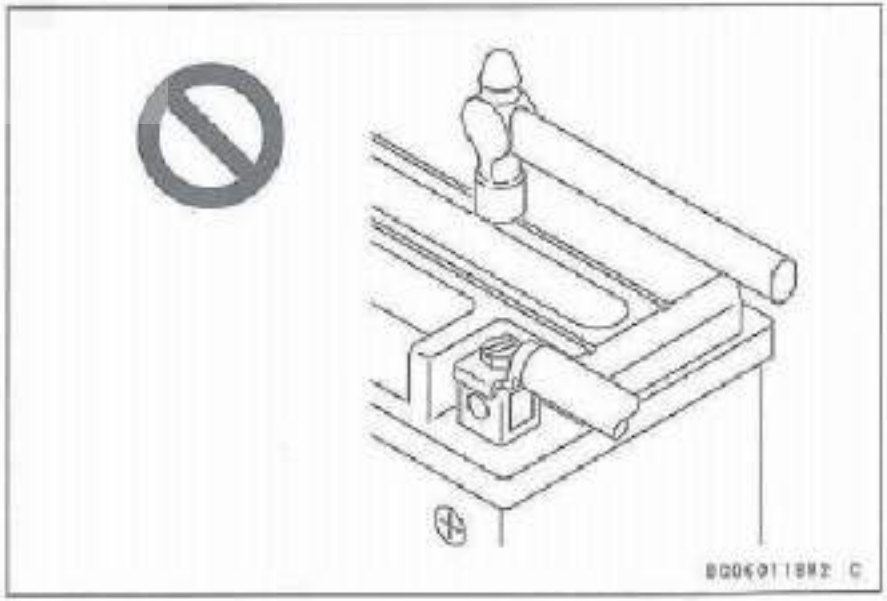
(1)取付が不十分になるため、長過ぎるボルトは使用しないこと。



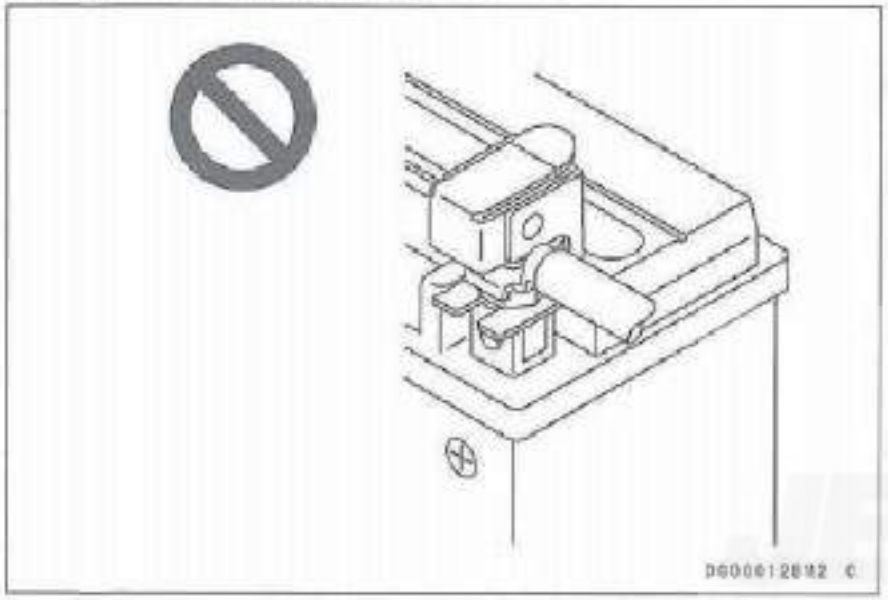
(2)接触が不十分になるため、針金等で接続しないこと。



(3)端子が変形・破損するため、端子部をハンマーでたたかないこと。



(4)航行時の振動で外れるおそれがあるため、ワンタッチ式カプラは使用しない。



(5)複数のケーブル端子を接続する場合端子間にスキマがないように確実に締め付ける。

⚠ 警告

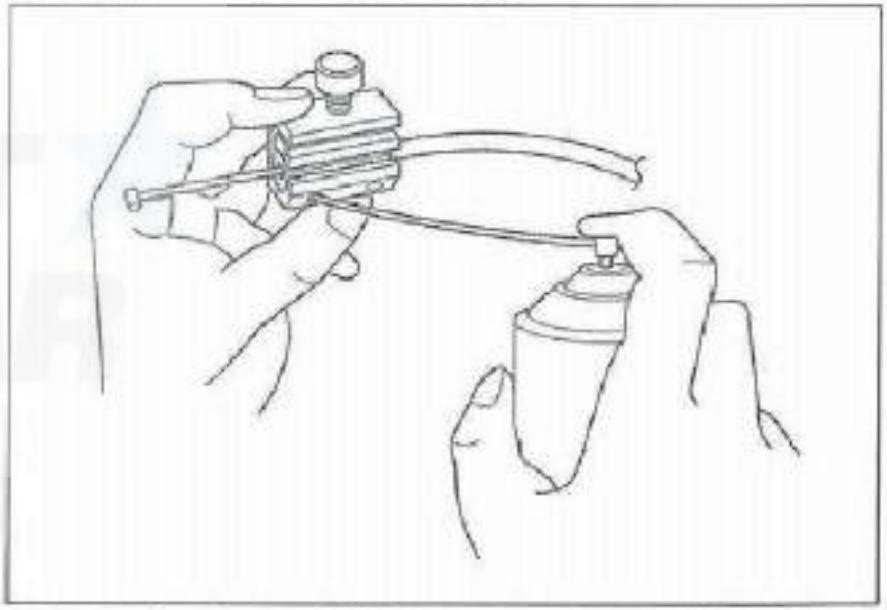
バッテリケーブルの取り付けが緩むとスパークが発生し、火災や爆発が起こり、負傷や死亡するおそれがあります。バッテリターミナルのスクリュはしっかり締め付け、カバーをターミナルにかぶせてください。

潤滑

すべての船舶と同じように、適切な潤滑と腐食防止処置は、ウォータクラフトを長期間、故障なく使用するために絶対必要なことです。下記箇所の潤滑頻度については、「定期点検整備表」および「乗る前の点検項目」を参照してください。

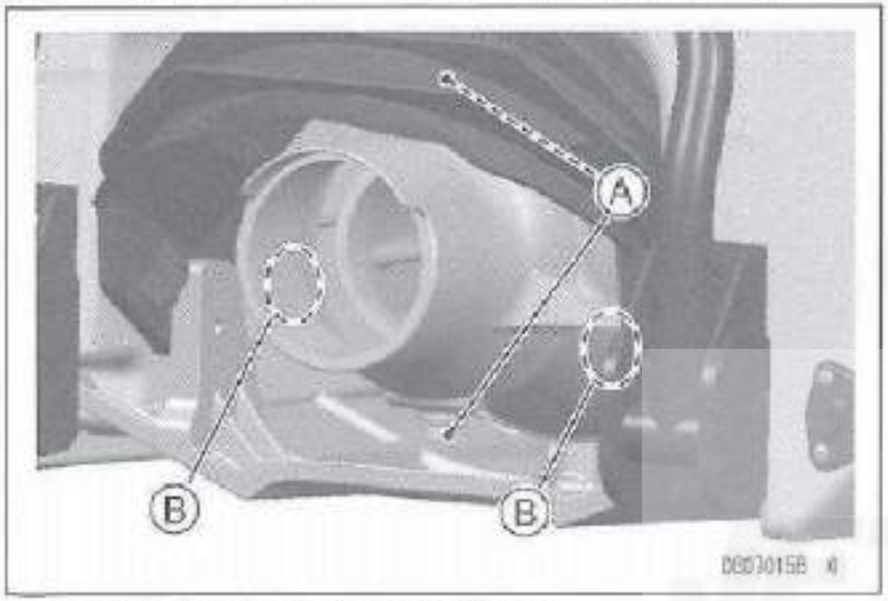
● 下記の箇所に浸透性防錆剤をスプレします。

スロットルコントロールケーブル



ケーブルルーバを使ってケーブルの潤滑をする

ステアリングノズル、リバースバケットのピボット



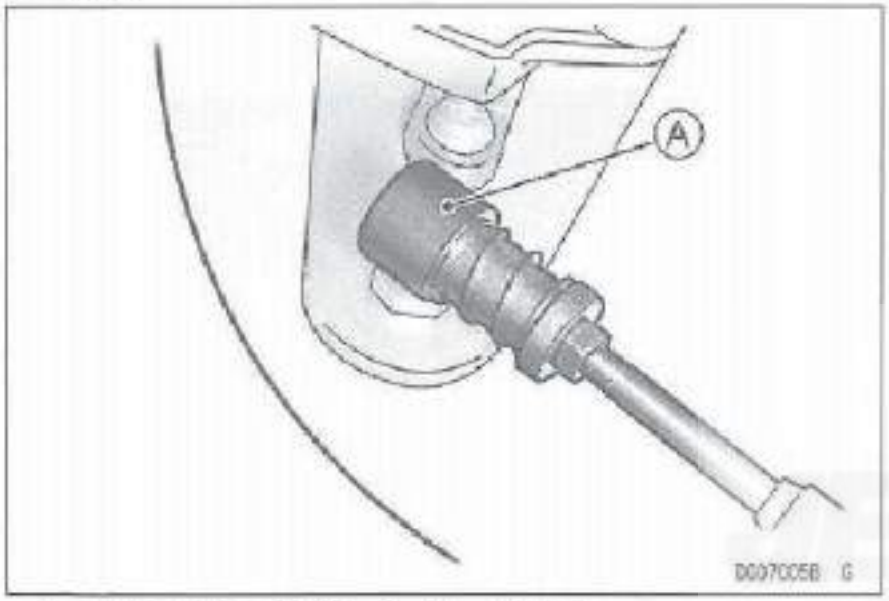
A. ステアリングノズルピボット
B. リバースバケットピボット

● 下記の箇所に良質の耐水グリースを塗ります。

シフトリンクのボールジョイント

A. ボールジョイント

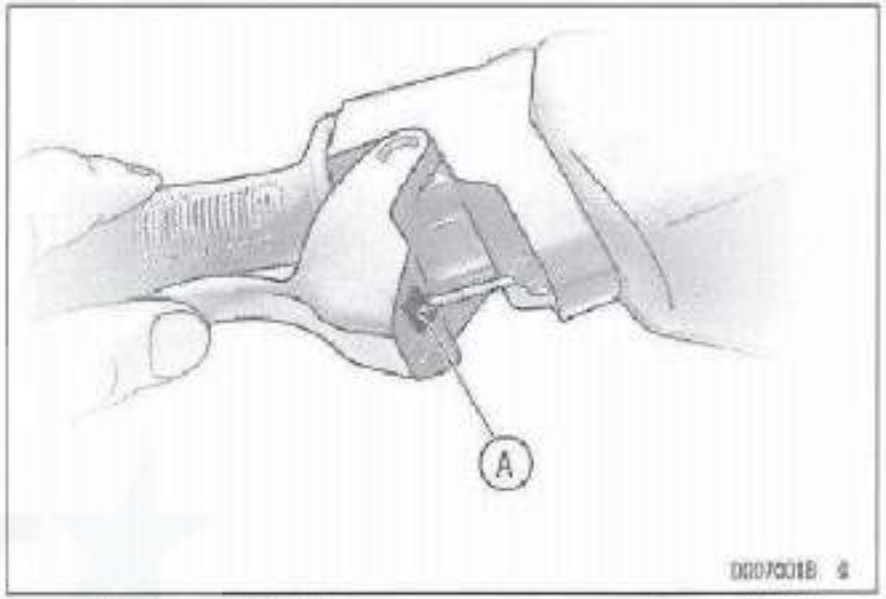
ステアリングケーブルジョイント(ステアリングシャフトの下部)



A. ステアリングボールジョイント

● この作業は「カワサキ正規取扱店」で実施してください。

スロットルレバーの取り付け部



A. グリースを塗布

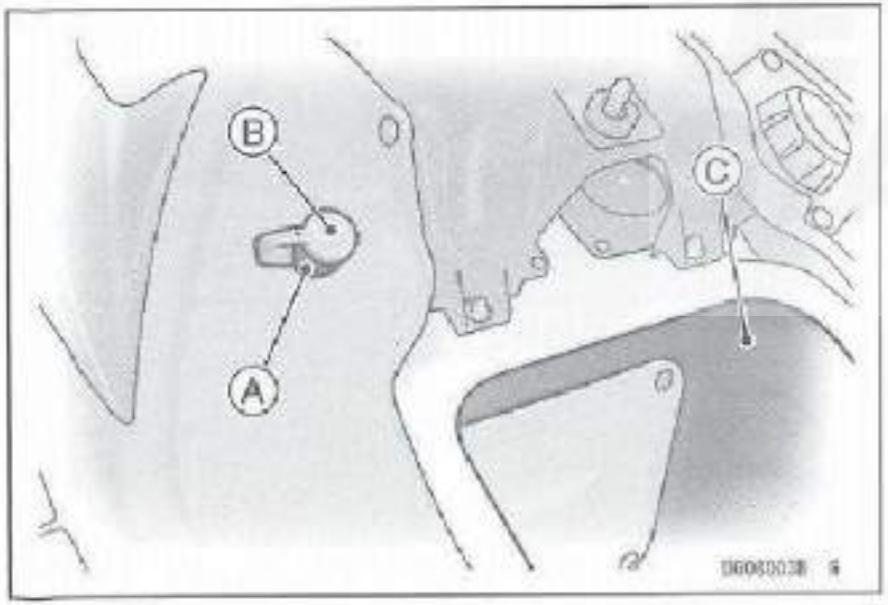
注意
ハンドルバーピボットの分解と潤滑は「カワサキ正規取扱店」で行ってもらってください。

冷却系統の洗浄

冷却系統に砂や塩分が堆積するのを防ぐため、ときどき洗浄する必要があります。以下の作業を「定期点検整備表」に従って行うか、または、海上で使用した後は毎回、また、船体の右側にあるバイパス出口から出てくる水の量が減ったときはすぐに行ってください。

また、この方法は、陸上の整備でエンジンに冷却水を送る必要のあるとき（例えばエンジンオイルの交換）にも使われます。

- 冷却水の接続口が前部備品入れのふたを開けた右下にあります。



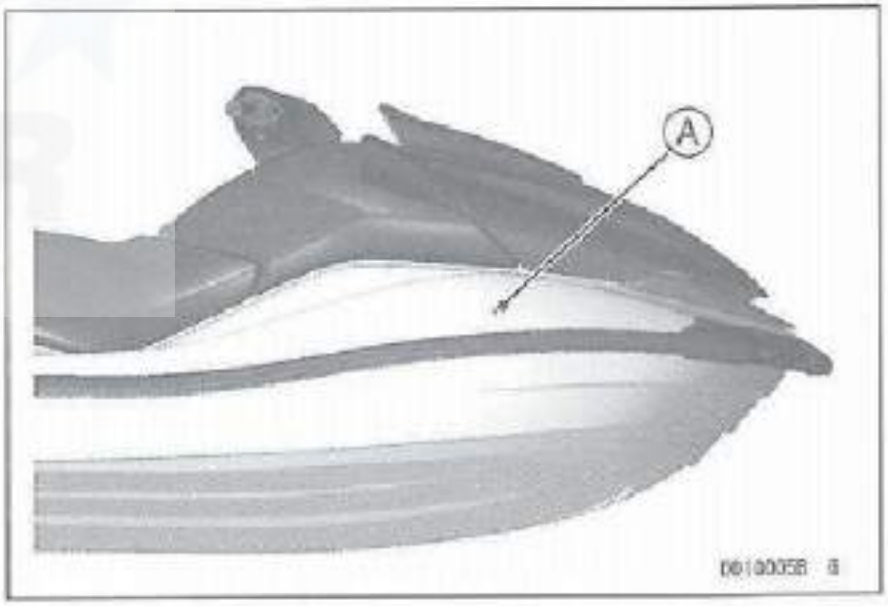
A. 接続口
B. キャップ
C. 前部備品入れ

- キャップ［B］を外し、接続金物を取り付けた水道ホースを接続口［A］に接続します。
- **水道の蛇口を開ける前に、エンジンをかけ、アイドリングさせます。**

注意

水を流す前に、必ずエンジンをかけておいてください。先に水を流すと、エギゾーストパイプを通ってエンジン内に水が逆流して、内部を損傷するおそれがあります。

- エンジンをかけたらすぐに水道の蛇口を開け、船体の右側にあるバイパス出口から水がわずかに出てくる位に水量を調節してください。



A. バイパス出口

- 水を出したままエンジンを数分間アイドリングさせます。

- 蛇口を閉めます。エンジンはまだアイドリングさせておきます。
- エンジンを数回吹かせて排気系統から水を排出します。

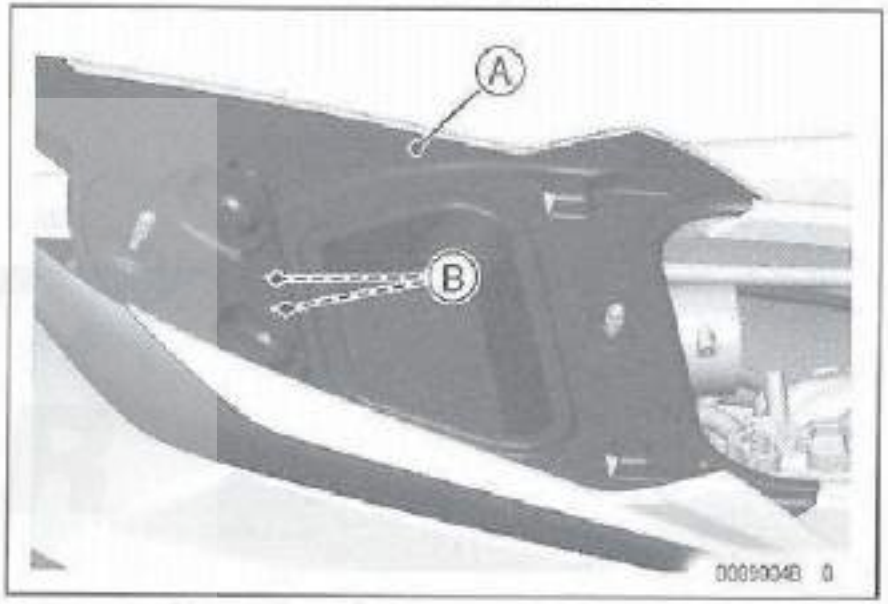
注意
冷却水なしで続けて15秒間以上エンジンを運転しないでください。過熱からエンジンと排気系統に重大な損傷をひき起こすもとになります。

- エンジンを止め、ホースを外し、元通りにキャップを取り付けてしっかり締めます。

ビルジ系統の洗浄

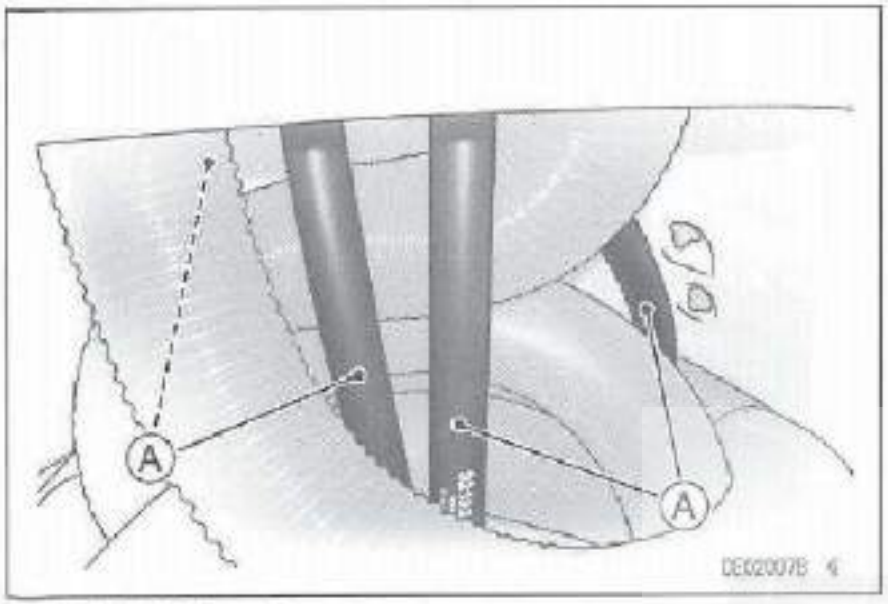
詰まりを防ぐためにビルジ系統を「定期点検整備表」に従って洗浄するか、または、詰まっていると疑われるときはすぐに洗浄してください。

- ハンドルプレートを外して下さい。



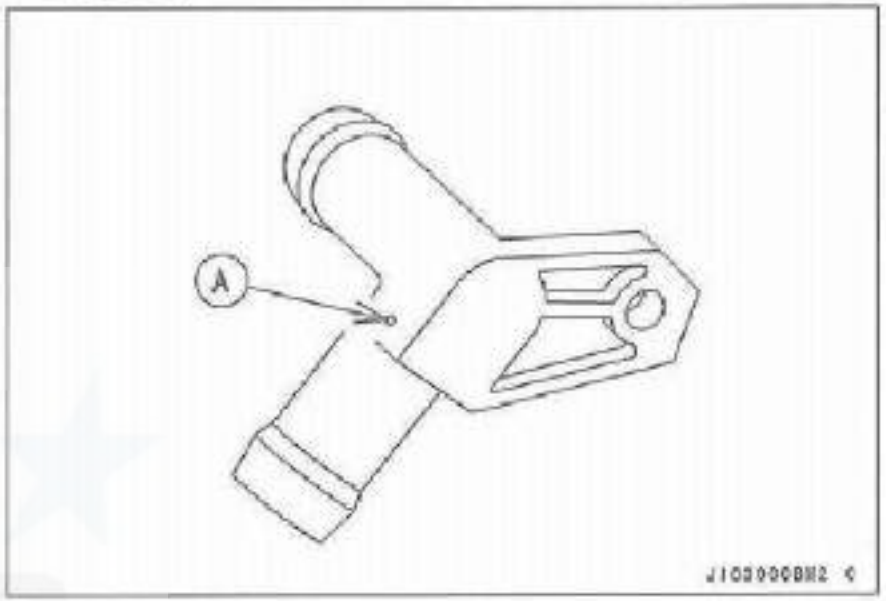
A. ハンドルプレート
B. ブリーザ

- それぞれのプラスチックのブリーザから両方のビルジホースを外してください。ブリーザはエンジンルームの後方上側にあります。



A. ビルジホース

- ビルジフィルタ側のホースに水道ホースを接続し、水を出して約1分間洗浄します。この間、水がエンジンルームに入りますが、たくさんたまらないようにします。スターン（船尾）のドレンプラグを外してエンジンルームの水を出します。
- 反対側のホースに水道ホースを接続し、水を出して数分間洗浄します。4本のホース全てについて洗浄します。
- プラスチックのブリーザにそれぞれのホースをもと通り接続する前に、ブリーザの小さな穴が詰まっていないか確かめてください。もし、穴が詰まっていれば、エンジンが停止したときやアイドリング状態のとき、ホースを通って水がどんどんエンジンルームに入ってくることがあります。ブリーザをはずす必要があるかも知れません。



A. ブリーザの穴

- すべてのビルジホースをもと通りに接続します。

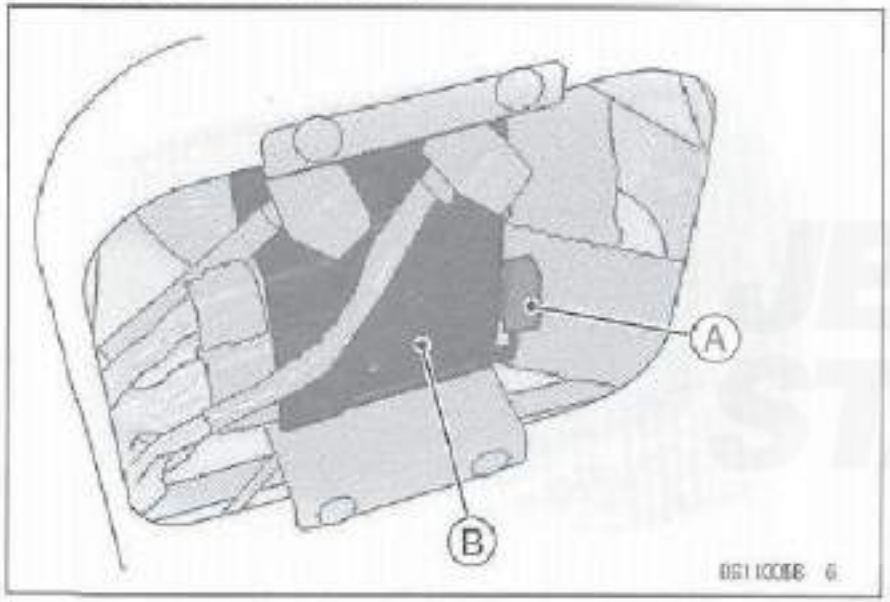
要点

- ウォータクラフトを保管する場合は、ビルジホースを接続する前に両方のホースに圧搾空気を吹き込んでください。（「保管」の章の「ビルジ系統」の項参照。）

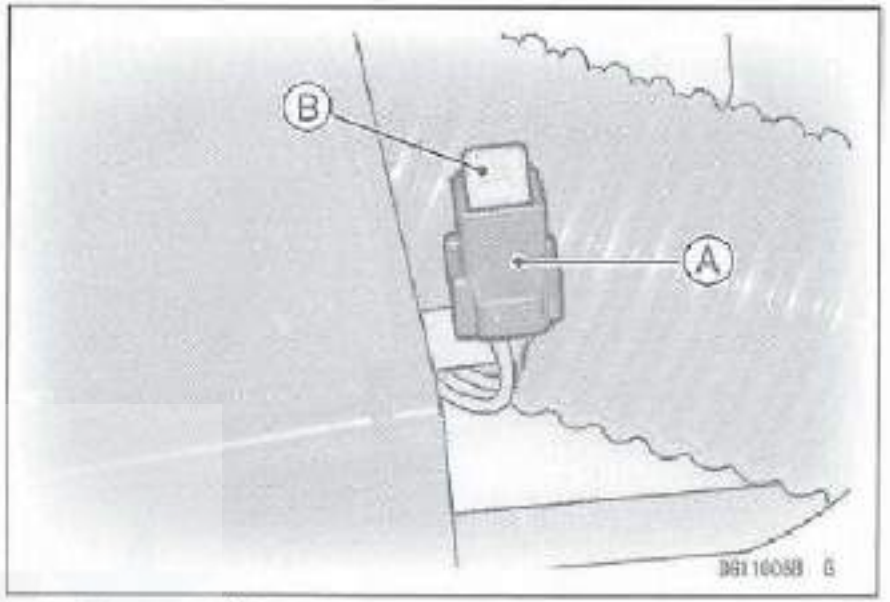
ヒューズ

20 Aのメインヒューズが船首格納スペースにあるヒューズケースに入っています。

操作中にヒューズが切れたら、その原因となった電気系統を点検し、適切な容量の新しいヒューズに交換してください。



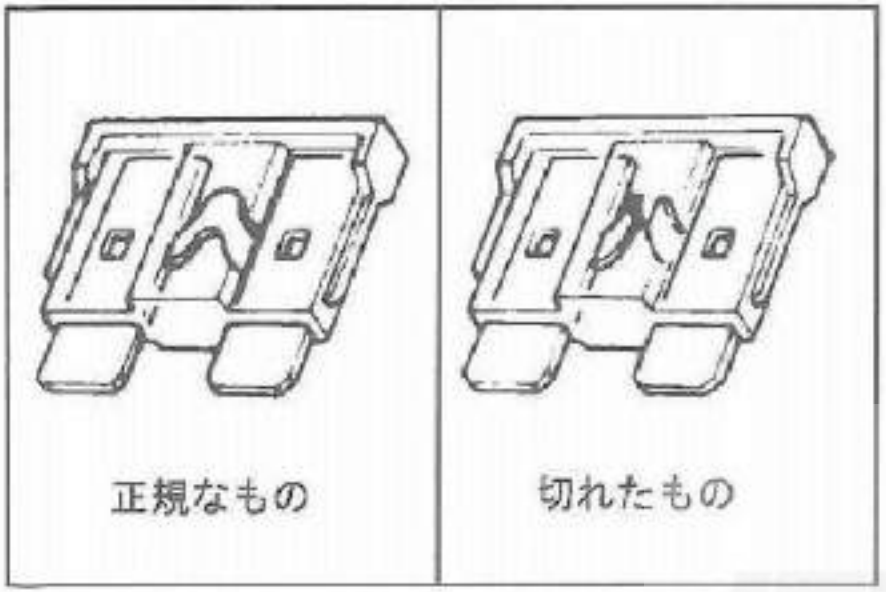
A. ヒューズケース
B. ECU



A. ヒューズケース
B. ヒューズ

注意

ヒューズの代用品は使用しないでください。切れたヒューズはヒューズケースに規定された正しい容量のヒューズと交換してください。



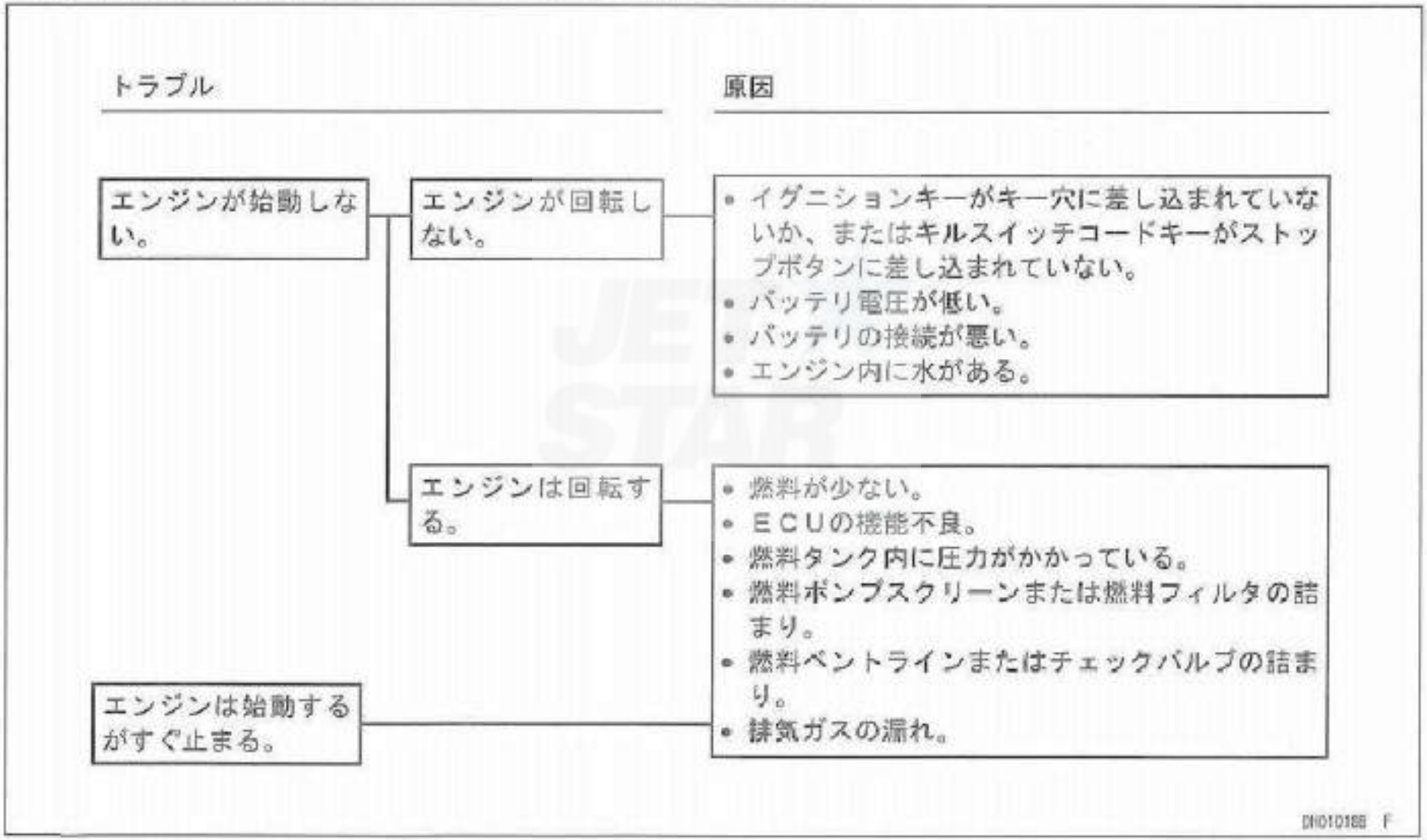
正規なもの

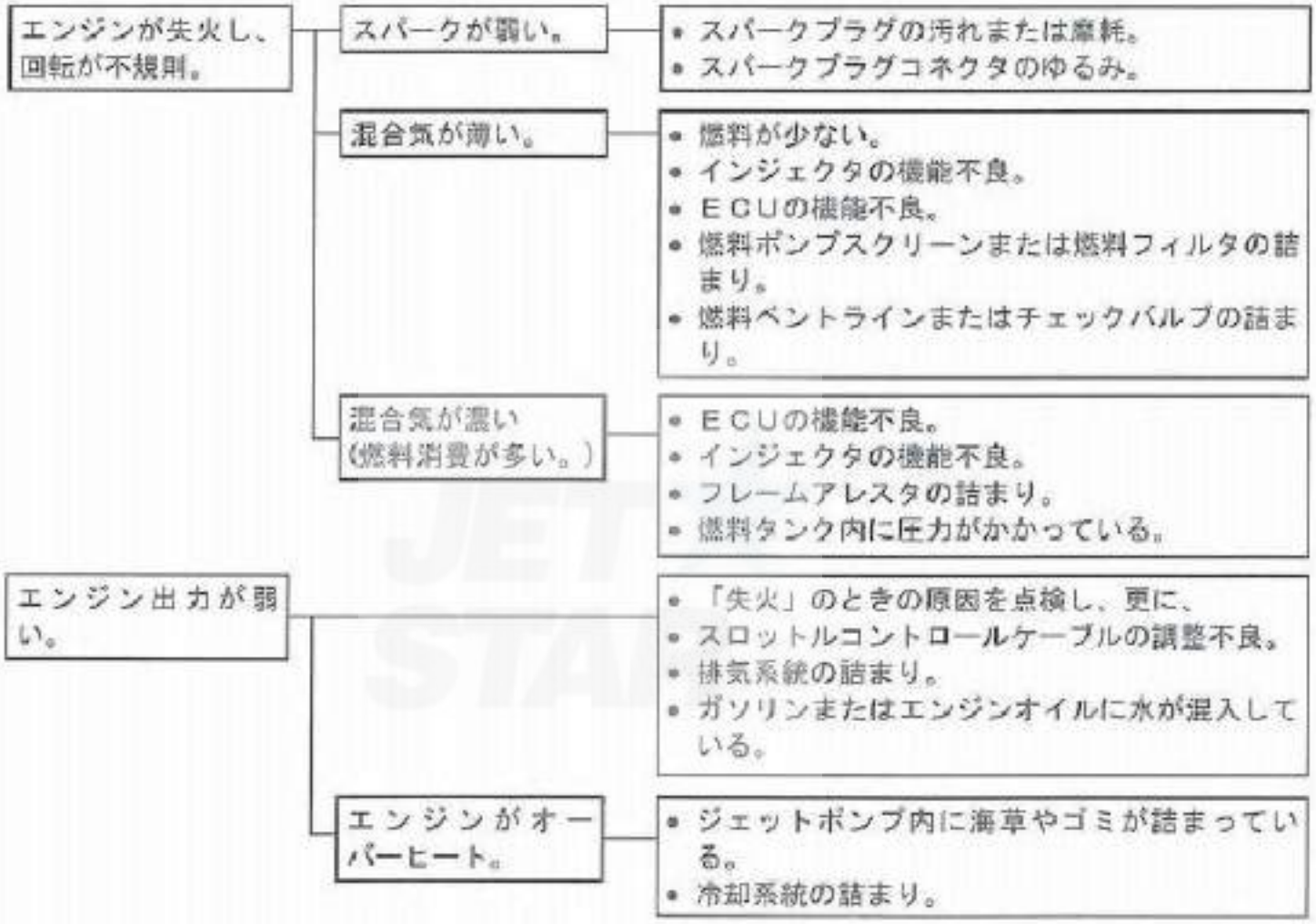
切れたもの

JET★STAR

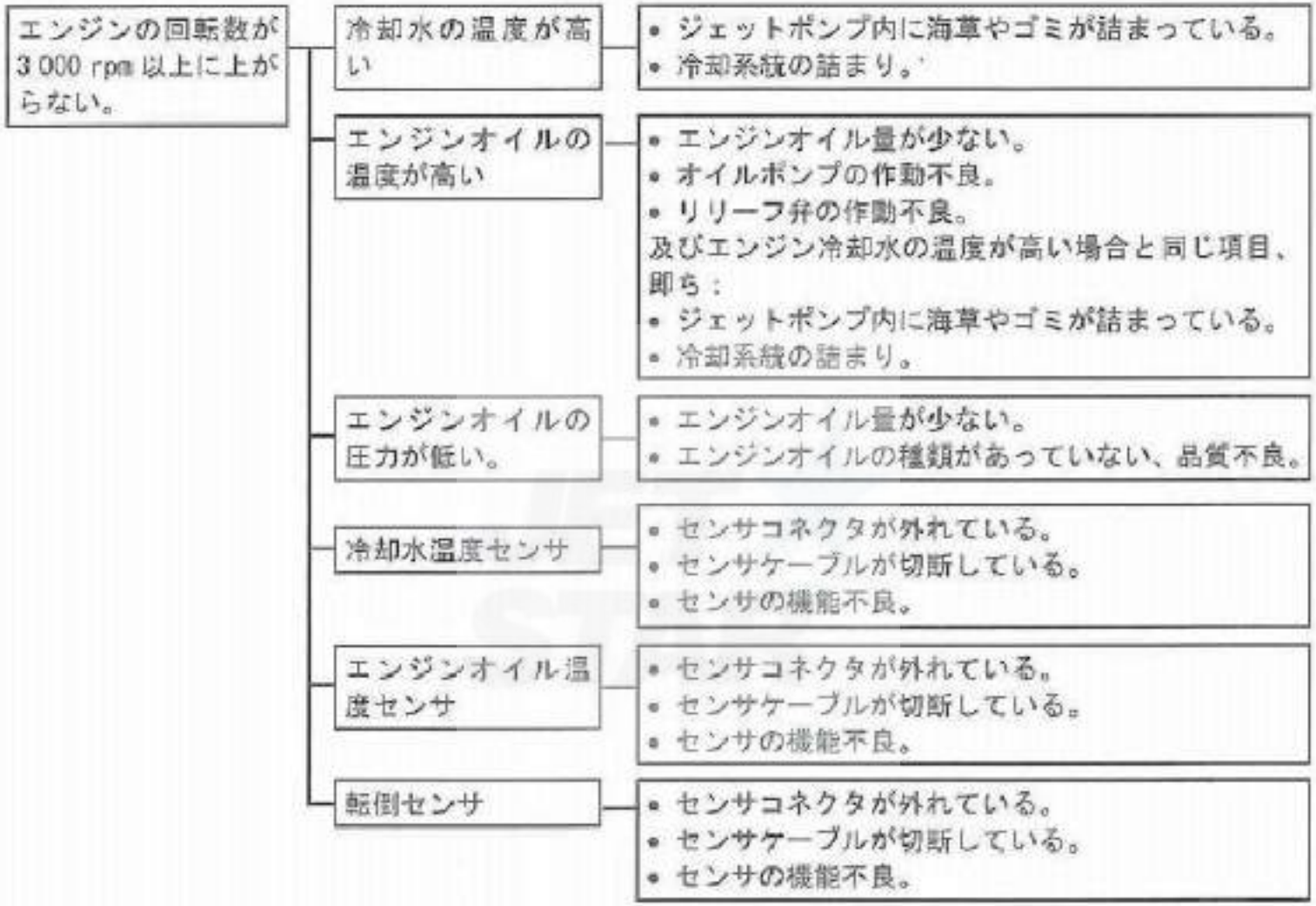
トラブルシューティング

- ここに示す方法ではあなたのウォータクラフトのトラブルが確定できないときは、「カワサキ正規取扱店」に相談するか、サービスマニュアルを参照してください。




エンジンが失火し、回転が不規則。
スパークが弱い。
• スパークプラグの汚れまたは摩耗。
• スパークプラグコネクタのゆるみ。
混合気が薄い。
• 燃料が少ない。
• インジェクタの機能不良。
• ＥＣＵの機能不良。
• 燃料ポンプスクリーンまたは燃料フィルタの詰まり。
• 燃料ベントラインまたはチェックバルブの詰まり。
混合気が濃い（燃料消費が多い。）
• ＥＣＵの機能不良。
• インジェクタの機能不良。
• フレームアレスタの詰まり。
• 燃料タンク内に圧力がかかっている。
エンジン出力が弱い。
• 「失火」のときの原因を点検し、更に、
• スロットルコントロールケーブルの調整不良。
• 排気系統の詰まり。
• ガソリンまたはエンジンオイルに水が混入している。
エンジンがオーバーヒート。
• ジェットポンプ内に海草やゴミが詰まっている。
• 冷却系統の詰まり。

DH010038 F


エンジンの回転数が3 000 rpm 以上に上がらない。
冷却水の温度が高い
• ジェットポンプ内に海草やゴミが詰まっている。
• 冷却系統の詰まり。
エンジンオイルの温度が高い
• エンジンオイル量が少ない。
• オイルポンプの作動不良。
• リリーフ弁の作動不良。
及びエンジン冷却水の温度が高い場合と同じ項目、即ち：
• ジェットポンプ内に海草やゴミが詰まっている。
• 冷却系統の詰まり。
エンジンオイルの圧力が低い。
• エンジンオイル量が少ない。
• エンジンオイルの種類があっていない、品質不良。
冷却水温度センサ
• センサコネクタが外れている。
• センサケーブルが切断している。
• センサの機能不良。
エンジンオイル温度センサ
• センサコネクタが外れている。
• センサケーブルが切断している。
• センサの機能不良。
転倒センサ
• センサコネクタが外れている。
• センサケーブルが切断している。
• センサの機能不良。
DI010040 F

ノッキングを起こす。	• ガソリンの品質不良。
ステアリングがかたい、または調子が悪い。	• ステアリングピボットの油切れ。 • ステアリングケーブルが損傷、または取り回しが不適当。

JET STAR

0HC10058 F

⚠ 警告

ステアリング装置に故障があれば非常に危険ですので、「カワサキ正規取扱店」でよく調べてもらってください。

船舶検査

船舶検査

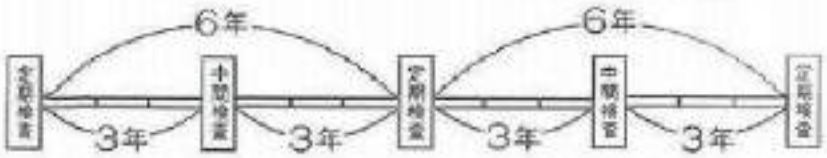
ウォータクラフト“ジェットスキー”は、法律（船舶安全法）に基づいて日本小型船舶検査機構の行う検査を受けなければ使用できません。

検査の種類:

検査には最初に使用を始める時、および6年毎に行う定期検査と、その中間の3年毎に行う中間検査があります。

- 定期検査
  定期的に行う精密な検査
- 中間検査
  定期検査と定期検査との間で行う簡易な検査

船検の時期



なお、定められた中間検査日または定期検査日より繰り上げて検査を行う場合は、繰り上げが1カ月以内であれば次回定期検査日または中間検査日が早くなることはありません。

船舶検査証書など合格証書類

1. 定期検査の場合

船検に合格した小型船には、（1）船舶検査証書（2）船舶検査手帳（3）船舶検査済票（年票と番号票を各2枚）が渡されます。

上記（1）および（2）の証書類は、ウォータクラフトを使うときには必ず船内に備えてください。

また、（3）の検査済票（通称「船検ナンバー」）は、ウォータクラフトの両側の外から見やすい位置に必ず貼り付けてください。

船舶検査証書の有効期間は6年です。

2. 中間検査の場合

中間検査に合格した小型船には、船舶検査証書と船舶検査手帳が返されるときに、中間検査済票1枚が渡されます。この中間検査済票は、中間検査に合格した小型船のしるしですから、これを左舷の船舶検査済票の近くに貼ってください。

航行区域

航行区域

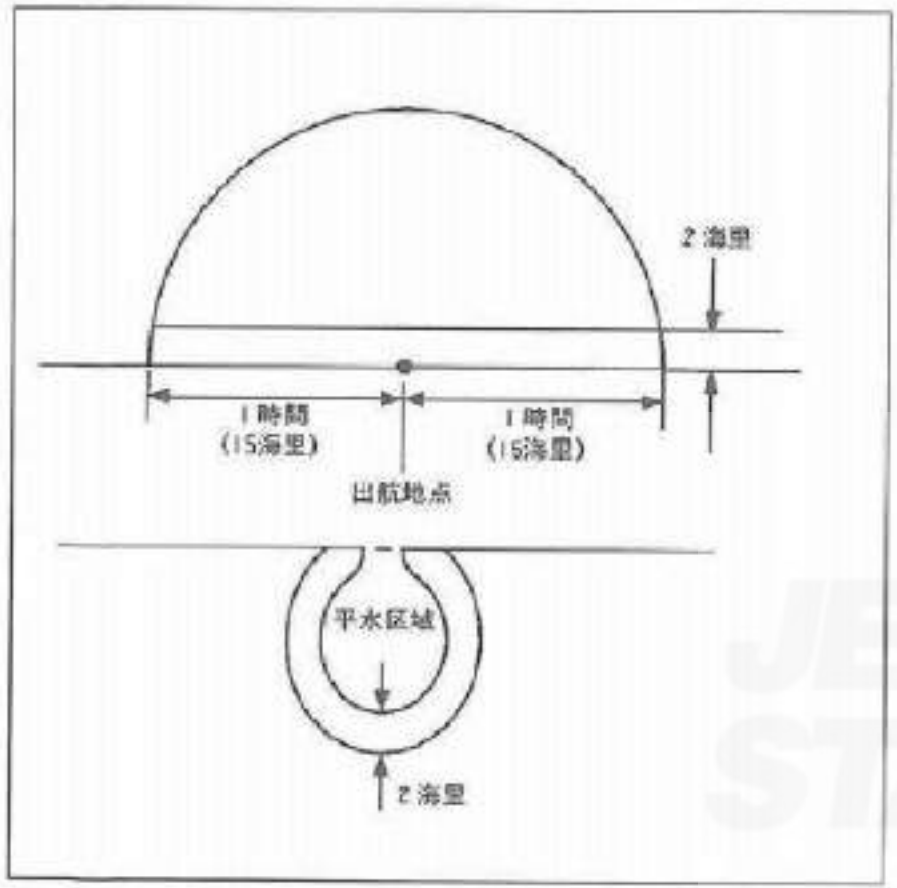
法律（船舶安全法）により、ウォータクラフト“ジェットスキー”が航走できる区域は次のように定められています。

注：
○船舶安全法施行規則第1条第6項とは、平水区域（湖、川、港内、湾などの波の静かな水域）を指します。
○法律では、平水区域は沿海区域に含まれます。

海岸あるいは陸岸で使用する場合

1. 沿海区域で、ウォータクラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56 km以内）で往復できる水域のうち、海岸か2海里（約3.7 km）以内の水域。
2. 沿海区域で、船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の陸岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。

JET STAR



母船に乗せて使用する場合

1. 沿海区域で、母船から半径2海里（約3.7 km）以内の水域。
2. 沿海区域で、ウォータクラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56 km以内）で往復できる水域のうち、海岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。
3. 沿海区域で、船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の海岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。

注意

母船に搭載してウォータクラフトを使用するには、船舶検査手帳に母船の船名が登録されていなければなりません。

＊周辺の人たちに迷惑をかけないために、次の事を守ってください。

- 遊泳者のいる近くでは乗らないでください。
- 人家の近くでは乗らないでください。
- 他の人に迷惑をかける騒音は出さないでください。
- 釣り船、釣り人の迷惑にならないように注意してください。
- 航走中の船に近づかないでください。
- 漁場へは乗り入れないでください。また、操業中の漁船には近づかないでください。
- 乗り入れ禁止区域には入らないでください。
- 指定区域内では制限速度を守ってください。

環境保護

環境保護

いつまでもきれいな環境を保つために、次の事を守ってください。

- 自分たちのゴミは自分たちで処理しましょう。（不法投棄は絶対しないでください。）
- 燃料、オイル等で浜辺や海岸、そして水を汚さないようにしましょう。
- 自然の景観や、生物を大切にしましょう。
- 使用済みのバッテリやエンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。また、将来ジェットスキーを廃棄される場合も同様です。もし、これらのものを廃棄する時は、「カワサキ正規取扱店」にご相談ください。

お客様の相談窓口

あなたのカワサキウォータクラフト“ジェットスキー”について、ご不明な点や、サービス面のことで、ご意見やご質問がございましたら、お買いあげいただきました「カワサキ正規取扱店」または下記の相談窓口にお申しつけください。

株式会社カワサキモータースジャパン　〒673-8666 兵庫県明石市川崎町1番1号 TEL078(921)2491代表
ジェットスキー営業部

＊平成19年9月1日現在

JET★STAR

MEMO

MEMO

JT1500C

JET STAR

Kawasaki

川崎重工業株式会社 汎用機カンパニー

Part No. 99921-0038